

---

## 資料編

---

# 目次

<b>1 文化財一覧</b> .....	<b>2</b>
1. 指定等文化財一覧.....	2
<b>2 日本遺産一覧</b> .....	<b>8</b>
1. 会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～.....	8
<b>3 景観</b> .....	<b>11</b>
1. 景観重点地区の一覧.....	11
2. 歴史的景観指定建造物.....	11
3. 自然景観指定緑地.....	12
<b>4 アンケート調査報告書</b> .....	<b>14</b>
1. 調査概要.....	14
2. 中学生アンケート調査結果.....	16
3. 歴史・文化に関する市民アンケート調査.....	26
4. 中学生アンケート調査との比較.....	41
5. 文化財に関するアンケート調査(所有者アンケート調査).....	43
<b>5 ヒアリング調査</b> .....	<b>55</b>
1. 調査概要.....	55
2. 地区別ヒアリング調査結果.....	56
3. 事業者ヒアリング調査結果.....	66
4. まとめ.....	71
<b>6 講演会の開催</b> .....	<b>73</b>
1. 実施概要.....	73
2. 実施記録.....	74
3. 参加者アンケート.....	76
4. まとめ.....	78
<b>7 歴史文化と若者をつなぐ事業づくりワークショップ</b> .....	<b>79</b>
1. ワークショップの趣旨.....	79
2. ワークショップの開催結果.....	79

# Ⅰ 文化財一覽

## Ⅰ. 指定等文化財一覽

### (1) 国指定文化財

件数	種別	名称	員数	指定年月日	
1	国	重文(建造物)	旧滝沢本陣横山家住宅〔主屋・座敷〕	2棟	昭和46.3.11
2	国	重文(建造物)	旧正宗寺三匠堂	1棟	平成7.6.27
3	国	重文(建造物)	延命寺地藏堂(藤倉二階堂)	1棟	明治36.4.15
4	国	重文(建造物)	八葉寺阿弥陀堂	1棟	明治37.2.18
5	国	重文(絵画)	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1幅	平成3.6.21
6	国	重文(彫刻)	厨子入木造蘆名盛氏坐像	1軀	大正9.8.16
7	国	重文(工芸品)	椿彫木彩漆笈	1背	昭和39.5.26
8	国	重文(工芸品)	金銅双龍双鳥文馨	1面	昭和34.6.27
9	国	重文(工芸品)	大刀鋒両刃造	1口	平成元.6.12
10	国	重文(工芸品)	大刀切刃造	1口	平成元.6.12
11	国	重文(工芸品)	大刀切刃造	1口	平成元.6.12
12	国	重文(工芸品)	大刀鑄造	1口	平成元.6.12
13	国	重文(工芸品)	大刀鑄造	1口	平成元.6.12
14	国	重文(考古資料)	会津大塚山古墳出土品	一括	昭和52.6.11
15	国	有形民俗文化財	八葉寺奉納小型納骨塔婆及び納骨器	14,824体	昭和56.4.22
16	国	史跡	会津藩主松平家墓所	—	昭和62.5.12
17	国	史跡	若松城跡	—	昭和9.12.28
18	国	史跡	大塚山古墳	—	昭和47.5.26
19	国	史跡	旧滝沢本陣	—	昭和45.3.16
20	国	名勝	会津松平氏庭園	—	昭和7.10.19
21	国	天然記念物	高瀬の大木(ケヤキ)	—	昭和16.1.27
22	国	天然記念物	赤井谷地沼野植物群落	—	昭和3.3.24

### (2) 県指定文化財

件数	種別	名称	員数	指定年月日	
1	県	重文(建造物)	旧中畑陣屋主屋	1棟	昭和51.5.4
2	県	重文(建造物)	会津松平氏庭園石造三重塔	1基	平成7.3.31
3	県	重文(建造物)	蒲生秀行廟	1棟	昭和61.3.31
4	県	重文(建造物)	茶室麟閣	1棟	平成11.3.30
5	県	重文(絵画)	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3幅	昭和36.3.22
6	県	重文(絵画)	絹本著色松平樂翁像	1幅	昭和43.4.9
7	県	重文(絵画)	七里ヶ浜遠望図	1面	平成6.3.31
8	県	重文(絵画)	絹本著色達磨図	1幅	平成10.3.31
9	県	重文(絵画)	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2幅	平成10.3.31
10	県	重文(彫刻)	木造十一面観音立像	1軀	昭和33.8.1

件数	種別	名称	員数	指定年月日	
11	県	重文(彫刻)	銅造聖観音菩薩立像	1 軀	昭和 35.3.29
12	県	重文(工芸品)	鉄製注連(伝)	7 枚	昭和 28.10.1
13	県	重文(工芸品)	木造扁額「融通寺」	1 面	昭和 30.2.4
14	県	重文(工芸品)	太刀 銘 国宗	1 口	昭和 30.12.27
15	県	重文(工芸品)	青磁牡丹唐草文大瓶	1 口	平成元.3.22
16	県	重文(典籍)	大般若経 経櫃附 経箱 60 口	600 帖 6 合	平成 12.3.31
17	県	重文(典籍)	家世実紀附 目録 1冊・収納箱 5合	277 冊	平成 15.3.25
18	県	重文(古文書)	築田家文書	一括	平成 13.3.30
19	県	重文(考古資料)	大戸窯跡群出土品	一括	平成 19.4.6
20	県	重文(考古資料)	田村山古墳出土品	一括	昭和 28.10.1
21	県	重文(歴史資料)	陸奥国会津城絵図	1 鋪	平成 9.3.25
22	県	無文(民俗)	冬木沢の空也念仏踊	1 団体	昭和 47.4.7
23	県	史跡	大戸窯跡群	—	平成 10.3.31
24	県	天然記念物	白山沼のイトヨ生息地	—	昭和 51.5.4

※「塔寺八幡宮長帳断簡」は県指定重要文化財(古文書)で、会津若松市在住の個人が所有していたが、平成22年3月、所有者の意向により、会津坂下町に所在する心清水八幡神社に移管された。

※平成 21 年 4 月 13 日無形文化財「消金地」保持者死亡により指定解除

※令和元年 10 月 15 日「旧岡崎家住宅」指定解除

※令和2年9月1日県立博物館にあるが会津若松市由来ではない文化財を削除

考古資料 4、天然記念物 1:「福島信夫山出土品(福島市)」、「金銅製双魚袋金具(南相馬市)」、「原山1号墳出土埴輪(泉崎村)」、「常世原田遺跡出土品(旧塩川町)」、「梁川産パレオパラドキシア化石(旧梁川町)」

※令和3年2月7日「梁田家文書」所有者変更

※令和3年 8 月 16 日「大戸窯跡群出土品」所在地変更

### (3)市指定文化財

件数	種別	名称	員数	指定年月日	
1	市	有文(建造物)	石造層塔	1 基	昭和 34.4.13
2	市	有文(建造物)	善龍寺の山門	1 棟	平成 13.1.23
3	市	有文(建造物)	下荒井観音堂	1 棟	昭和 49.4.1
4	市	有文(建造物)	両堂不動堂お籠り堂	1 棟	昭和 63.5.7
5	市	有文(建造物)	蒲生氏郷五輪塔	1 基	平成 18.4.19
6	市	有文(建造物)	蒲生忠郷五輪塔	1 基	平成 18.4.19
7	市	有文(建造物)	法紹山浄光寺釈迦堂	1 棟	平成 18.4.19
8	市	有文(絵画)	圓輪光曼荼羅	1 幅	昭和 34.4.13
9	市	有文(絵画)	伝李龍眼筆絹本羅漢像	1 幅	昭和 34.4.13
10	市	有文(絵画)	絹本著色両界曼荼羅図	双幅	昭和 49.2.13
11	市	有文(絵画)	絹本著色十六善神図	1 幅	昭和 49.2.13
12	市	有文(絵画)	絹本著色愛染明王像	1 幅	昭和 49.2.13

件数	種別	名称	頁数	指定年月日	
13	市	有文(絵画)	紙本水墨雪村周継筆瀟湘八景図屏風	半双	昭和 51.3.22
14	市	有文(絵画)	愛宕神社奉納絵馬	4 面	昭和 53.3.16
15	市	有文(絵画)	紙本著色帝鑑図屏風	1 双	昭和 56.3.28
16	市	有文(絵画)	絹本著色伝保科正光画像	1 幅	昭和 56.3.28
17	市	有文(絵画)	絹本著色伝保科正経画像	1 幅	昭和 56.3.28
18	市	有文(絵画)	紙本淡彩遊魚図伝雪村筆	1 幅	昭和 61.4.24
19	市	有文(絵画)	八幡神社奉納絵馬	2 面	昭和 61.4.24
20	市	有文(彫刻)	蒲生賢秀坐像	1 軀	昭和 33.11.10
21	市	有文(彫刻)	銅製阿弥陀如来立像	1 軀	昭和 50.3.25
22	市	有文(彫刻)	木造阿弥陀如来坐像	1 軀	昭和 50.3.25
23	市	有文(彫刻)	木造馬頭観音坐像	1 軀	昭和 51.3.22
24	市	有文(彫刻)	木造文殊菩薩坐像	1 軀	平成 7.6.15
25	市	有文(彫刻)	多門院毘沙門天像	1 軀	昭和 49.4.1
26	市	有文(彫刻)	松命山蓮華寺須弥壇	1 基	昭和 49.4.1
27	市	有文(彫刻)	極楽地藏(延命地藏)	1 軀	昭和 50.4.1
28	市	有文(彫刻)	甲賀町鶴ヶ城稻荷神社神像	1 軀	平成元.2.22
29	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 兼元)	1 振	昭和 33.11.10
30	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 長道)	1 振	昭和 33.11.10
31	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 奥州会津住政長)	1 振	昭和 33.11.10
32	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 奥州大掾三善長道)	1 振	昭和 33.11.10
33	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 陸奥大掾三善長道)	1 振	昭和 33.11.10
34	市	有文(工芸)	会津漆器	一式	昭和 36.11.18
35	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 和泉守兼定焼刃真宗鉄鍛造之)	1 振	昭和 36.11.18
36	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 陸奥会津住三善藤四郎長道)	1 振	昭和 36.11.18
37	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 奥州会津住長国)	1 振	昭和 36.11.18
38	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 奥州会津住政長)	1 振	昭和 36.11.18
39	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 陸奥会津住三善長道)	1 振	昭和 36.11.18
40	市	有文(工芸)	田中正玄夫人副葬品膳腕一式	一式	昭和 51.3.22
41	市	有文(工芸)	朱塗瓶子	1 対	昭和 55.3.29
42	市	有文(工芸)	能面	6 面	昭和 55.3.29
43	市	有文(工芸)	刀剣(表銘 和泉守藤原兼定)	1 口	昭和 60.3.23
44	市	有文(工芸)	会津正阿弥鐺	3 枚	昭和 60.3.23
45	市	有文(工芸)	会津正阿弥鐺	3 枚	昭和 60.3.23
46	市	有文(工芸)	銅造懸佛	1 面	昭和 60.3.23
47	市	有文(工芸)	銅造薬師如来坐像	1 軀	昭和 60.3.23
48	市	有文(工芸)	銅造懸佛	1 面	昭和 60.3.23
49	市	有文(工芸)	木造扁額「稻荷大明神」	1 点	平成元.2.22
50	市	有文(工芸)	木造扁額「正一位稻荷大明神」	1 点	平成元.2.22
51	市	有文(工芸)	鞘塗「変塗」標本	154 枚	平成 2.3.16
52	市	有文(工芸)	枝菊漆絵会席膳腕一式	34 点	平成 2.3.16

件数	種別	名称	員数	指定年月日	
53	市	有文(工芸)	初代・若狭守藤原道辰作 受領紀年銘大小刀	2 振	平成 20.4.21
54	市	有文(工芸)	林光正作 漆塗手板	1 枚	平成 20.4.21
55	市	有文(工芸)	花瓶	1 対	昭和 58.11.10
56	市	有文(工芸)	自然山融通寺梵鐘	1 点	平成 28.6.23
57	市	有文(工芸)	刺繍仏涅槃図 付 漆塗木箱	1 幅	令和 2.4.23
58	市	有文(工芸)	木造天部形立像	1 軀	令和 4.1.21
59	市	有文(書跡)	蒲生氏郷書簡	1 通	昭和 33.11.10
60	市	有文(書跡)	一休墨蹟	1 幅	昭和 33.11.10
61	市	有文(書跡)	松平容保・照姫より萱野権兵衛宛書 簡・和歌・覚	各一葉	昭和 34.4.13
62	市	有文(書跡)	草書十八名号	3 幅	昭和 34.4.13
63	市	有文(書跡)	大曼荼羅御本尊日什上人真筆	1 卷	昭和 54.3.22
64	市	有文(書跡)	旧東明寺蔵葦名盛氏文書	1 幅	昭和 57.3.24
65	市	有文(書跡)	葦名止々齋書状	2 幅	平成 11.2.18
66	市	有文(古文書)	芦名兼載軸物	1 卷	昭和 55.4.1
67	市	有文(古文書)	八幡神社棟札	3 枚	昭和 55.4.1
68	市	有文(考古資料)	岩倉山石造塔婆	4 基	昭和 51.3.22
69	市	有文(考古資料)	石仏供養碑	1 基	昭和 54.3.22
70	市	有文(考古資料)	観応年記銘供養碑	1 基	昭和 54.3.22
71	市	有文(考古資料)	阿弥陀如来像供養碑	1 基	昭和 54.3.22
72	市	有文(考古資料)	墓料遺跡出土土器 (昭和 49・54 年出土分)	45 点	昭和 57.3.24
73	市	有文(考古資料)	東田面供養碑	3 基	昭和 58.3.24
74	市	有文(考古資料)	石仏供養碑	1 基	昭和 62.5.8
75	市	有文(考古資料)	館山供養碑	2 基	平成 9.3.18
76	市	有文(考古資料)	坂本供養碑	2 基	平成 9.3.18
77	市	有文(考古資料)	応長の碑	1 基	昭和 45.6.8
78	市	有文(考古資料)	暦応の碑	3 基	昭和 45.6.8
79	市	有文(考古資料)	観応の碑	1 基	昭和 45.6.8
80	市	有文(考古資料)	皆鶴姫の碑群	6 基	昭和 62.2.3
81	市	有文(考古資料)	須恵器の舟形二面硯	1 点	平成 3.4.25
82	市	有文(考古資料)	古屋敷(富田屋敷)の大甕	1 点	平成 3.4.25
83	市	有文(考古資料)	石製模造品	6 点	平成 3.4.25
84	市	有文(歴史資料)	若松城下絵図	半双	平成 11.2.18
85	市	有文(歴史資料)	牡丹獅子図金屏風	1 双	平成 16.4.19
86	市	有文(歴史資料)	日新館資料群	80 点	平成 24.2.20
87	市	無文(工芸技術)	会津塗	1 団体	平成 31.3.25
88	市	有形民俗文化財 (民俗資料)	酒造用具	107 点	昭和 57.3.24
89	市	有形民俗文化財 (民俗資料)	獅子舞資料	一括	昭和 58.3.24
90	市	有形民俗文化財 (民俗資料)	稻荷原の石工用具及び石製品	72 点	平成 3.4.25
91	市	無形民俗文化財 (民俗)	会津三匹獅子舞	3 団体	平成 16.2.23
92	市	無形民俗文化財 (民俗)	小松彼岸獅子	1 団体	昭和 47.4.1

件数		種別	名称	員数	指定年月日
93	市	無形民俗文化財 (民俗)	槻橋彼岸獅子舞	1 団体	昭和 50.4.9
94	市	無形民俗文化財 (民俗)	八田野神楽	1 団体	平成 3.4.25
95	市	記念物(史跡)	天文台跡	—	昭和 43.9.18
96	市	記念物(史跡)	葦名家花見ヶ森廟所	—	昭和 47.11.1
97	市	記念物(史跡)	村北瓦窯跡	—	昭和 47.11.1
98	市	記念物(史跡)	蒲生秀行公廟所	—	昭和 53.7.10
99	市	記念物(史跡)	穴切の一里塚	1 基	昭和 61.4.24
100	市	記念物(史跡)	長命寺築地堀	—	昭和 5.9.16
101	市	記念物(史跡)	旧会津藩大窪山共同墓地	—	平成 12.1.20
102	市	記念物(史跡)	田村山古墳	—	昭和 47.4.1
103	市	記念物(史跡)	上人壇	1 基	昭和 53.4.1
104	市	記念物(史跡)	古屋敷古墳群	3 基	昭和 49.5.15
105	市	記念物(史跡)	八田野一里塚	2 基	昭和 44.9.19
106	市	記念物(史跡)	藤倉の館跡	—	昭和 47.1.21
107	市	記念物(史跡)	堂ヶ作山古墳	—	平成 19.7.20
108	市	記念物 (天然記念物)	石部桜	1 本	昭和 43.9.18
109	市	記念物 (天然記念物)	太夫桜	1 本	昭和 43.9.18
110	市	記念物 (天然記念物)	赤井の大イチョウ	1 本	昭和 49.2.13
111	市	記念物 (天然記念物)	建福寺境内のシダレザクラ	1 本	昭和 55.3.29
112	市	記念物 (天然記念物)	峰張ザクラ	1 本	平成 9.3.18
113	市	記念物 (天然記念物)	芦ノ牧のイチイ	1 本	平成 10.2.19
114	市	記念物 (天然記念物)	平田櫨の木	1 本	昭和 47.4.1
115	市	記念物 (天然記念物)	白山沼のイトヨ	—	昭和 47.4.1
116	市	記念物 (天然記念物)	無頭沼のイトヨ	—	昭和 63.5.7
117	市	記念物 (天然記念物)	小出の樅の木	1 本	昭和 49.4.1
118	市	記念物 (天然記念物)	ホテルの森のゲンジボタル	—	平成元.6.15
119	市	記念物 (天然記念物)	熊野神社三幹のスギ	1 本	平成 2.11.9

#### (4)登録文化財

件数		種別	名称	員数	登録年月日
1	国	登録有形文化財	向瀧	建造物 4 棟 (客室棟(会議室・ 菊の間他)、客室棟 (花月の間・梅の間 他)・玄関・はなれ)	平成 8.12.20
2	国	登録有形文化財	林家住宅	建造物 1 棟	平成 10.12.11
3	国	登録有形文化財	日本基督教団若松栄町教会	建造物 1 棟	平成 12.4.28
4	国	登録有形文化財	旧鍋三本店(星野家住宅)	建造物 2 棟 (客座敷、土蔵)	平成 29.10.27
5	国	登録有形文化財	末廣酒造嘉永蔵	建造物 6 棟 (母屋・新蔵・ 壱号館・三号館・ 四号館・五号館) 工作物 3 件 (煉瓦煙突・正面 門・煉瓦堀)	平成 30.11.2

6	国	登録有形文化財	平田家住宅	建造物 3 棟 (主屋・東蔵・ 西蔵)	平成 30.11.2
7	国	登録記念物	会津飯盛山白虎隊士墳墓域	1 件	平成 31.2.26
8	国	登録有形文化財	福西本店	建造物 6 棟 (主屋・主屋蔵・ 座敷蔵・袖蔵・ 離座敷・店蔵) 工作物 1 件 (煉瓦塀)	令和元.12.5
9	国	登録有形文化財	竹藤	建造物 4 棟 (主屋・座敷蔵・ 竹蔵・店舗)	令和元.12.5
10	国	登録有形文化財	仙峡閣	建造物 1 棟	令和元.12.5
11	国	登録有形文化財	関善吉薬局店蔵	建造物 1 棟	令和 3.2.4
12	国	登録有形文化財	鈴木屋利兵衛	建造物 2 棟 (旧主屋・店蔵)	令和 3.2.4
13	国	登録有形文化財	鈴善	建造物 7 棟 (蔵座敷・米炭蔵・ 貯蔵蔵・店舗・ 中座敷・荷造り蔵・ 物置蔵)	令和 3.10.14



## 2 日本遺産一覧

### 1. 会津の三十三観音めぐり～巡礼を通して観た往時の会津の文化～

#### (1) ストーリーの概要

磐梯山信仰を取り込み東北地方で最も早く仏教文化が花開いた会津は、今も平安初期から中世、近世の仏像や寺院が多く残り「仏都会津」とよばれる。その中でも三十三観音巡りは、古来のおおらかな信仰の姿を今に残し、広く会津の人々に親しまれている。

会津藩祖、名君保科正之が定めた会津三十三観音巡りは広く領民に受け入れられ、のちに様々な三十三観音がつくられた。会津の三十三観音は、国宝を蔵する寺院から山中に佇むひなびた石仏までいたるところにその姿をとどめており、これら三十三観音を巡った道を、道中の宿場や門前町で一服しながらたどることで、往時の会津の人々のおおらかな信仰と娯楽を追体験することができるのである。

#### (2) 申請者

複数の市町村にまたがってストーリーが展開している「シリアル型」であり、以下の市町村が申請者となっています。

申請者：会津 17 市町村（会津若松市・喜多方市・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・北塩原村・西会津町・磐梯町・猪苗代町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村）

#### (3) 各ストーリー

##### ① 仏教文化が花開いた会津の地勢と背景

太古の昔より、厳しい冬の豪雪と、一方その雪解け水がもたらす豊かな恵みという自然に生まれ、人々が暮らしてきた会津。東北地方で唯一古事記にその名を残す会津は、四周を深い山々に囲まれた辺境の地でありながらも、日本海側と太平洋側からの文化が会う場所として、また東北地方への入り口として、地政学的な要衝であった。古墳時代にはすでに中央国家との交流があったことから、仏教伝来と同時期に開かれたという高寺伝承に見られるように、会津は仏教文化の流入も早かった。

会津へ伝わった仏教は、平安初期、奈良の東大寺や興福寺で学んだ僧・徳一が、山の神、磐梯明神を守護神として会津磐梯山の麓に開いた慧日寺によって会津一帯に広められた。慧日寺は、自然崇拝を素地とする会津の磐梯山信仰を受け継ぎ、仏教的に組み替えることで会津の信仰の中心となった。さらに徳一は会津五葉師ほか多くの寺院を開いて、人々の素朴な信仰を仏教、薬師・観音信仰に取り込んでいった。こうしたことにより会津は、今も勝常寺の薬師如来坐像をはじめとする平安初期から中世、近世の仏像や寺院が多く残り、東北地方でいち早く仏教文化が花開いた地として「仏都会津」と呼ばれる。その中でも三十三観音巡りは、娯楽と一体となったおおらかな信仰の姿を今に残し、広く会津の人々に親しまれている。

##### ② 会津三十三観音の始まり

三十三の姿に身を変えて衆生を救うといわれる観音信仰から、平安時代に始まったとされる三十三観音巡り。本家西国三十三観音の成立以後、坂東三十三観音など全国各地にさまざまな三十三観音がつくられた。会津の三十三観音巡りは、会津藩祖保科正之により始まった。寛政20年（1643）、会津に入封した保科正之は、3代将軍徳川家光の異母弟として生まれ、家光と4代将軍家綱を支え江戸幕府の基礎を築いた名君として知られる。保科正之が入封した当時は、徳川幕府の成立により治安や経済も安定し、参勤交代のための街道の整備も進んだため、全国的に伊勢参りや熊野参詣、西国三十三観音巡りなどが盛んであった。これは遠く離れた会津の領民の間でも同じで、片道ひと月、往復二月以上かかる大旅行に多くの人が出かけていた。この様子をみた殿様は、巡礼のために多額の費用が領外に流れることを案じて巡礼を禁止した。しかし巡礼

は、観音様のご利益を願う民衆の信仰に基づくものであり、また 諸国を観光する娯楽の側面もあったことから、単純に押さえつけることはできない。そこで代わりに会津三十三観音を定めたのである。領民の不満を募らせずに、資金、労働力の流出を防ぐ、名君の采配であった。

会津藩の領内には徳一の時代からの由緒ある仏寺がいたるところにあったこと、また、古代の霊場巡り以来の観音巡りが盛んな土地柄であったことから、老男女をはじめとした多くの領民たちによって、とくに農村部の女性たちによって盛んに三十三観音巡りが行われるようになった。こうして家を出て羽を伸ばすことの少ない彼女たちは、日頃の悩みを相談したり、温泉につかったりと、仲間とともに親睦と娯楽を兼ねた数日間の巡礼を楽しんだ。

さらに保科正之が、街道や宿駅を本格的に整備したことにより、会津領内だけでなく近隣の藩からも巡礼に訪れる人で賑わった。会津五街道の一つ下野街道の大内宿では、蕎麦好きの正之が前任地から連れてきた職人によって会津に広められた高遠蕎麦や、ご飯を丸めて串にさし、地元ではじゅうねんと呼ばれるエゴマの味噌をぬって炭火で香ばしく焼いた素朴な郷土食しんごろうが、今も訪れる人の舌をうならせている。

殿様のアイディアにより身近になった観音霊場「会津三十三観音」は観音信仰と娯楽が結びつく形で領民たちに広く受け入れられた。

### ③その他の会津の三十三観音

その後会津には、南山地域の領民の発願により始まった御蔵(奥会津)三十三観音や、城下町の寺を巡る町廻り三十三観音、小高い丘陵の中腹に地区の人が願いを込めて一戸一戸刻んだ三十三体の観音像が安置されている久保田三十三観音など、さまざまな三十三観音がつくられ今に残る。その一つ寛政八年(1796)に建立された旧正宗寺三匝堂は、通称さざえ堂と呼ばれる螺旋状の三層六角の特徴的な観音堂である。上りと下りが全く別の通路となる特殊な木造二重螺旋構造により、参拝者はスロープを一方通行に進んで堂の天井部に至り、そのまま違うスロープを下って他の参拝者とすれ違うことなく出口にたどり着く。かつては三十三体の観音像がスロープに沿って安置され、参拝者はこの堂を一巡することで西国三十三観音巡りができるとされた。さざえ堂は、この不思議な建物を巡る楽しさと、手軽さから庶民の人気を博した。廃仏毀釈により観音像は散逸したが、世界にも類を見ない 独特の建物は、今も堂の内部を一巡すると異世界を潜り抜けるような不思議な感覚を体感できる。

### ④三十三観音めぐりで感じる庶民の巡礼と娯楽

会津に三十三観音が定められてからは、体力的にも費用的にも身近なものとなり、人々は田畑の仕事が一段落した頃、三十三か所それぞれの「御詠歌」を唱えて霊場を巡礼した。会津の三十三観音は、国宝を蔵する寺院から山中に佇むひなびた石仏までその形は様々だが、今も息づく観音信仰に守られて地域のいたるところにその姿をとどめており、これら三十三観音を巡った道を、道中の宿場や門前町で一服しながらめぐること、往時の会津の人々のおおらかな信仰と娯楽を追体験することができるのである。

[構成文化財]

NO.	名称	地区
11	慈光寺薬師堂(日本遺産登録名は野寺薬師堂)	門田地区
12	延命寺地藏堂	河東地区
17	八葉寺阿弥陀堂	河東地区
22	会津三十三観音	
	第12番札所 田村山観音	北会津地区
	第13番札所 舘観音	北会津地区
	第14番札所 下荒井観音	北会津地区
	第15番札所 高瀬観音	神指地区

	第 16 番札所 平沢観音	町北地区
	第 17 番札所 中ノ明観音	町北地区
	第 18 番札所 滝沢観音	一箕地区
	第 19 番札所 石塚観音	中心地区
	第 20 番札所 御山観音	門田地区
49	町廻り三十三観音	中心地区
54	旧正宗寺三匠堂(さざえ堂)	一箕地区

### 3 景観

#### 1. 景観重点地区の一覧

[景観重点地区の一覧]

No	名称	範囲	
1	鶴ヶ城周辺地区	鶴ヶ城公園及びその周辺地区	
2	磐梯山・猪苗代湖周辺地区	福島県景観計画に基づく、磐梯山・猪苗代湖周辺景観形成重点地域(河東地区 国道49号及び主要地方会津若松裏磐梯線の沿線)	
3	景観まちづくり協定地区	城下町回廊地区	七日町通り上の区地区/七日町通り中の区地区/七日町通り下の区地区/町方蔵しっく地区(大町通り)/野口英世青春通り地区/会津ふれあい通り地区/融通寺町通り地区/博労町通り地区
		東山温泉街地区	
		芦ノ牧温泉街地区	
		鶴亀ハイタウン地区	
4	眺望景観保全地区	飯盛山(白虎隊自刃の地)から鶴ヶ城を望む眺望景観地区	

#### 2. 歴史的景観指定建造物

会津若松らしい景観を創造するため、重要な建造物等を歴史的景観指定建造物に指定し、保存・活用を図っています。

[歴史的景観指定建造物の一覧]

No	建造物の名称	所在地	指定年度
1	福西本店	中町 4-16	平成9年 (1997)
2	(株)白木屋漆器店	大町一丁目 2-10	
3	會津壹番館	中町 4-18	
4	末廣酒造(株)嘉永蔵	日新町 12-38	
5	(株)満田屋	大町一丁目 1-25、26	
6	会州一蔵	相生町 7-17	平成10年 (1998)
7	鈴木屋利兵衛	大町一丁目 9-3	
8	学校法人 東明	大町二丁目 1-5	
9	旧大島蔵	大町二丁目 1-3	
10	竹藤	中央一丁目 2-7	
11	花と陶器 永山	七日町 1-30	
12	神禧堂薬館	上町 3-24	平成11年 (1999)
14	滝谷建設工業(株) 会津若松店社屋	大町一丁目 2-8	
15	宮泉銘醸(株)	東栄町 8-7	
16	日本基督教団 若松栄町教会	西栄町 8-37	
17	渋川問屋	七日町 3-28	
18	林家住宅	材木町一丁目 9-25	平成12年 (2000)
19	旧会津実業信用組合	中央一丁目 4-9	
20	東山温泉 向瀧	東山町湯本川向 200	平成13年

No	建造物の名称	所在地	指定年度
21	鈴善漆器店	中央一丁目 3-28	(2001)
22	松本家住宅及び土蔵	上町 4-1	
23	菊地金粉製作所	大町一丁目 3-39	平成 14 年 (2002)
24	旧郡山商業銀行 若松支店	大町一丁目 9-8	
25	羽金家住宅	大町二丁目 7-7	平成 15 年 (2003)
26	旧黒河内胃腸病医院	中町 1-20	
27	旧若松庶民金庫	相生町 7-2	平成 18 年 (2006)
28	旧遠藤米穀店	中町 1-24	
29	関善吉薬局	川原町 2-13	平成 19 年 (2007)
30	高橋庄作酒造店	門田町一ノ堰字村東 755	
31	小森家の長屋門と土蔵	北会津町中荒井 22	
32	板橋家の母屋及び土蔵	河東町郡山字古宮 23	平成 20 年 (2008)
34	阿弥陀寺の御三階	七日町 4-20	
35	会津天宝醸造(株)	大町一丁目 1-24	平成 21 年 (2009)
36	田中稻荷神社	大町一丁目 1-5	平成 25 年 (2013)

### 3. 自然景観指定緑地

自然資源を保全するとともに、景観形成上重要な森林、樹木、緑地等を自然景観指定緑地に指定し、保存を図っています。

#### [自然景観指定緑地の一覧]

No	緑地の名称	所在地	指定年度
1	蚕養国神社の森	蚕養町 2-1	平成 11 年 (1999)
2	実成寺の森	大町二丁目 6-35	
3	諏方神社の森	本町 10-32	
4	八幡神社の森	一箕町八幡字八幡 43	
5	白露庭	追手町 6-6	
6	桜ヶ岡出世地蔵尊のケヤキ	東栄町 329	平成 12 年 (2000)
7	八角神社の森	宮町 4-50	
8	巖島神社のスギ	一箕町八幡字弁天下甲 1405	
9	妙法寺のケヤキ	馬場本町 3-34	平成 13 年 (2001)
11	錦町稻荷神社跡のエノキ	錦町 1-2	
12	小谷のイチヨウ	大戸町小谷川端 54	
13	小谷・初瀬川家のシダレザクラ	大戸町小谷川端 10	
14	一ノ堰羽黒墓地の種蒔桜(夫婦桜)	門田町一ノ堰字羽黒西 16	平成 14 年 (2002)
15	下馬渡・熊野神社の森	湊町共和字熊野森 77	
16	西田面・白旗八幡神社の森	湊町共和字西田面 587	
17	経沢・守屋神社のスギ	湊町平瀨字夏狼ヶ嶽乙 1477	平成 15 年 (2003)
18	日吉神社の森	門田町飯寺字村西 710	
19	神指城跡のサクラ	神指町高瀬字五百地 1637 他	平成 16 年

No	緑地の名称	所在地	指定年度
20	羽黒山湯上神社大鳥居脇のモミ	東山町湯本字寺屋敷 11	(2004)
21	本覚寺のケヤキ	行仁町 12-59	
22	滝沢・三浦家の大カヤ	一箕町八幡字三島 28	
23	東麻生の種蒔桜	北会津町東麻生字姥小作 756	平成 17 年 (2005)
24	横山家のケヤキ	北会津町東麻生字七ツヲサ 718	
25	田村山・住吉神社の森	北会津町田村山字堂ノ下 148 外	平成 18 年 (2006)
26	東泉寺のイチョウ	北会津町安良田字村中 439	
27	下荒井・熊野神社の森	北会津町下荒井字宮ノ西 611 外	
28	東山温泉街のケヤキ	東山町湯本字川向 209-4 地先	平成 19 年 (2007)
29	遠藤家のケヤキ	河東町郡山字北郡 22-1	
30	大和田八幡神社の森	河東町大田原字宮腰 15-3	
31	八葉寺の森	河東町広野字権現塚 2 外	平成 20 年 (2008)
32	菅原神社のケヤキ	天神町 592	平成 21 年 (2009)
33	如来堂のイチョウ	神指町如来堂 26	平成 25 年 (2013)
34	東城戸・神明神社の樹林	神指町東城戸 404	

## 4 アンケート調査報告書

### 1. 調査概要

#### (1) 調査の目的と趣旨

本調査は、市の歴史や文化の保存・活用に関するイメージや現状、意向等について把握し、「文化財保存活用地域計画」策定の資料とするため、次世代を担う中学生、市民、文化財の所有者を対象に実施しました。

#### (2) 調査の対象

調査	調査対象	回収結果
中学生アンケート調査	市内の中学2年生	1,014通
歴史・文化に関する市民アンケート調査	市政モニター及び中学生の保護者	117通
文化財に関するアンケート調査 (所有者アンケート調査)	文化財所有者	81通

#### (3) 調査方法

調査	調査方法
中学生アンケート調査	・ 中学校を通じて配布・回収
歴史・文化に関する市民アンケート調査	・ 市政モニターへは、郵送で配布・郵送またはインターネット上で回答 ・ 中学生の保護者へは、中学校を通じて配布・インターネット上で回答
文化財に関するアンケート調査(所有者アンケート調査)	・ 文化財所有者へ郵送で配布・回収

#### (4) 調査期間

令和2年10月～12月

#### (5) 調査概要

##### ①中学生アンケート調査

- 「歴史・文化」に対し関心がない生徒が約4割おり、「勉強」としてのみの歴史文化の認識が強く、生活に関連がないことが主な理由となっている。「歴史・文化」への関心が高いほど保存・活用を重要だと考える生徒も多くなっている。
- 関心のある「歴史・文化」として、「城」、「風景・街並み」、「人物」への関心が高い。
- 「歴史・文化」に関心がない理由として、「歴史が好きではないから」、「難しくて、理解できないから」との回答が多い。
- 会津若松市の「歴史・文化」のイメージでは「鶴ヶ城」、「白虎隊」、「戊辰戦争」等の一つの時代のイメージが強く認識されている傾向がある。
- 学校の授業や行事以外で地域の「歴史・文化」に接する機会が少ない傾向がある。

- 回答者の約 8 割が「歴史・文化」の保存・活用は重要だと回答している。
- 「イベントや祭りなどへの参加」で「歴史・文化」の保存・活用に参加してみたいと約半数が回答する一方で、「参加したいことはない」、「分からない」との回答も多くなっている。
- 「歴史・文化」を保存・活用するためには、「みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用（郷土愛）」との回答が最も多い。

## ②歴史・文化に関する市民アンケート調査

- 回答者の約 8 割が「歴史・文化」に関心があると回答している。
- 関心のある「歴史・文化」として、「城」や「神社仏閣」等への関心が高い。
- 「歴史・文化」に関心がない理由として、「歴史が好きではないから」、「関心を払う時間がないから」との回答が多い。
- 会津若松市の「歴史・文化」のイメージでは「戊辰戦争」や「白虎隊」、「幕末」等の一つの時代のイメージが強く認識されている傾向がある。
- 会津若松市の「歴史・文化」に接する機会では「年中行事等のイベント」が最多であり、日常生活と関連した機会が少ない傾向にある
- 回答者の約 9 割が「歴史・文化」の保存・活用は重要だと回答しており、その主な理由としては「次世代への継承」が主となっている。
- 「イベントや祭りなどへの参加」で「歴史・文化」の保存・活用に参加してみたいとの回答が多くなっている。
- 「歴史・文化」の保存・活用の方向性について、「歴史・文化の次世代への継承」との回答が最も多い。イベントだけでなく、日常に寄り添った活用を求める意見も多くなっている。
- 「歴史・文化」を地域の宝として次世代に伝えていくことについて、回答者の約 9 割が重要だと回答している。
- 「歴史・文化」を次世代に伝えていくには、「次世代を担う子どもたちへ、会津若松の歴史・文化の教育や体験機会を増やす」との回答が最も多く回答されている。

## ③中学生アンケートと市民アンケートの比較

- 関心のある「歴史・文化」を中学生と市民の回答を比較すると、「城」と回答する割合は市民が多く、「人物」のみ中学生の関心が高くなっている。「寺社仏閣」、「彫刻・仏像」で中学生と市民の関心の差が大きくなっている。
- 日常で会津若松市の「歴史・文化」に接する機会についての比較では、「インターネット」の中学生の回答割合は市民の回答割合を上回っている。
- 「歴史・文化」などの保存・活用で協力できることについて、中学生・市民ともに「イベントや祭りなどへの参加」が最も回答割合が高い。
- 「歴史・文化」の保存・活用の方向性として、市民の回答に比べ「観光での活用」への回答割合が多く、中学生では活用のイメージが「観光」と認識されている傾向が強い。

## ④文化財に関するアンケート調査（所有者アンケート調査）

- 回答者の約 7 割が文化財の保存にあたって困りごとを有しており、突出して多い内容はなく、「修理」や「維持管理」、「防犯」、「後継者の問題」等内容は多様化している傾向がある
- 回答者の約 9 割が所有する文化財を保存し、地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと回答して



いる。

- 地域や市民など興味を持つ人がいないため、文化財の次世代への継承を重要でないと考えている方もいる。
- 所有している文化財の現在の活用について、「一般に公開するなど活用している」との回答が最も多い。
- 回答者の約 8 割が所有する文化財の活用は重要だと回答しているが、文化財の次世代への継承は約 7 割がとても重要と回答していたのに対し、文化財の活用をとても重要だとする回答は約 5 割にとどまっている。
- 所有している文化財の今後の活用の意向について、「一般公開するなど活用していきたい」との回答が最も多いが、現在の活用状況と比較すると、今後の活用意向では、ある程度期間や内容を限定しての活用を希望する割合が多くなっている。
- 所有している文化財の今後の地域や市民との関わりについて、「自治体など行政機関と連携して保存や活用の活動を行いたい」と約半数の方が回答している。
- 所有している文化財の保存・活用に必要な仕組みや取り組みについては、「現状維持のための支援」が最も多く回答され、「次世代へ継承するための仕組みづくり」が続いており、現状を維持することで次世代へ継承していきたいとの意向が多い傾向にある。

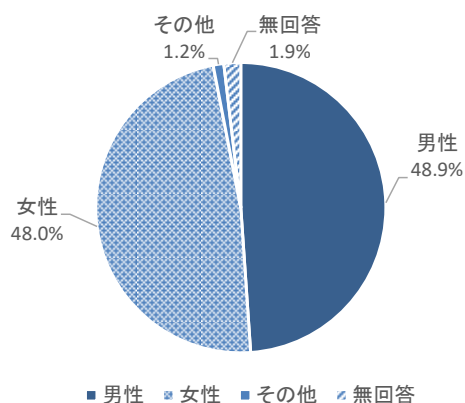
## 2. 中学生アンケート調査結果

### (1) 回答者について

#### 問1-(1) 性別

- ・回答者の性別は「男性」が 48.9%、「女性」が 48.0% となっている。

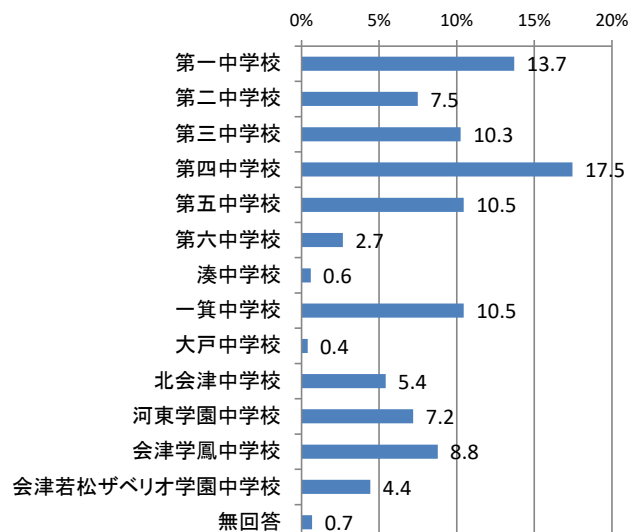
総数	1,014	100.0%
男性	496	48.9%
女性	487	48.0%
その他	12	1.2%
無回答	19	1.9%



#### 問1-(2) 学校

- ・回答者の学校では「第四中学校」が最も多く 17.5%、「第一中学校」が 13.7% で続いている。

総数	1,014	100.0%
第一中学校	139	13.7%
第二中学校	76	7.5%
第三中学校	104	10.3%
第四中学校	177	17.5%
第五中学校	106	10.5%
第六中学校	27	2.7%
湊中学校	6	0.6%
一箕中学校	106	10.5%
大戸中学校	4	0.4%
北会津中学校	55	5.4%
河東学園中学校	73	7.2%
会津学鳳中学校	89	8.8%
会津若松ザペリオ学園中学校	45	4.4%
無回答	7	0.7%

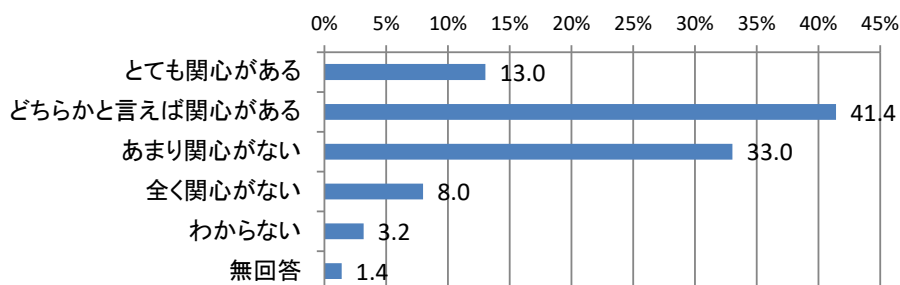


## (2) 歴史・文化について

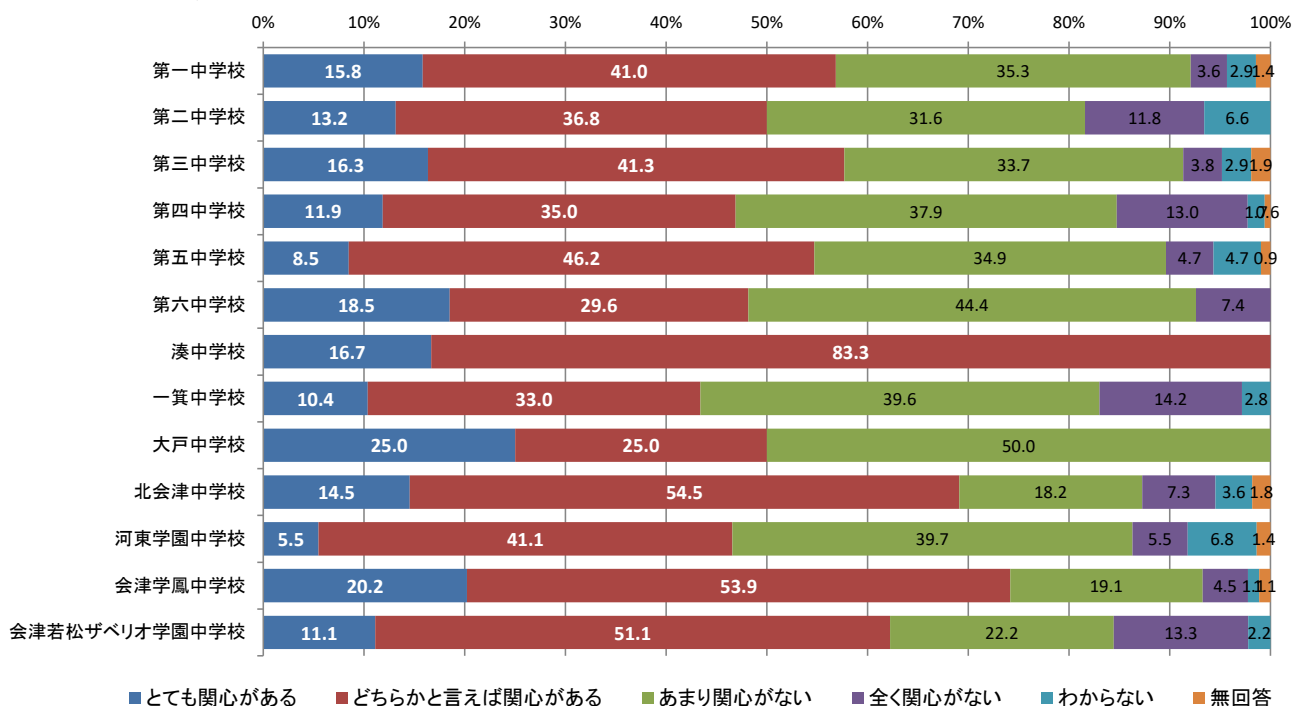
問2 あなたは、「歴史・文化」に関心がありますか。[1つに○]

- ・「どちらかと言えば関心がある」が 41.4%で最も多く、「あまり関心がない」が 33.0%で次点となっている。  
「とても関心がある」、「どちらかと言えば関心がある」の合計は 54.4%と中学生の半数以上が歴史・文化に関心を持っている。
- ・地区別の回答では、回答数は 6 と最小だが「湊中学校」では、すべての生徒が歴史・文化に関心を持っている。「会津学鳳中学校」、「北会津中学校」が続いて関心を持っている生徒が多い。

総数	1,014	100.0%
とても関心がある	132	13.0%
どちらかと言えば関心がある	420	41.4%
あまり関心がない	335	33.0%
全く関心がない	81	8.0%
わからない	32	3.2%
無回答	14	1.4%



### 【地区別の回答結果】

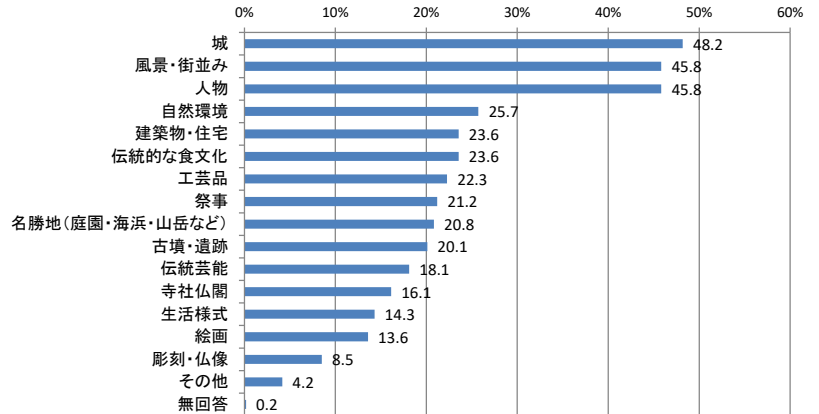


【問2において、1、2を回答した方のみ回答】

**問3 あなたが関心のある「歴史・文化」はどれですか。(あてはまるもの全てに○)**

- ・歴史・文化に関心を持つ中学生が最も関心のある歴史・文化は「城」との回答が 48.2%で最も多く、「風景・街並み」、「人物」が 45.8%で続いている。
- ・「その他」の回答では「戦い」や「戦争」、「武器・武具」、「服装」等の回答がみられた。

総数	552	100.0%
城	266	48.2%
風景・街並み	253	45.8%
人物	253	45.8%
自然環境	142	25.7%
建築物・住宅	130	23.6%
伝統的な食文化	130	23.6%
工芸品	123	22.3%
祭事	117	21.2%
名勝地(庭園・海浜・山岳など)	115	20.8%
古墳・遺跡	111	20.1%
伝統芸能	100	18.1%
寺社仏閣	89	16.1%
生活様式	79	14.3%
絵画	75	13.6%
彫刻・仏像	47	8.5%
その他	23	4.2%
無回答	1	0.2%



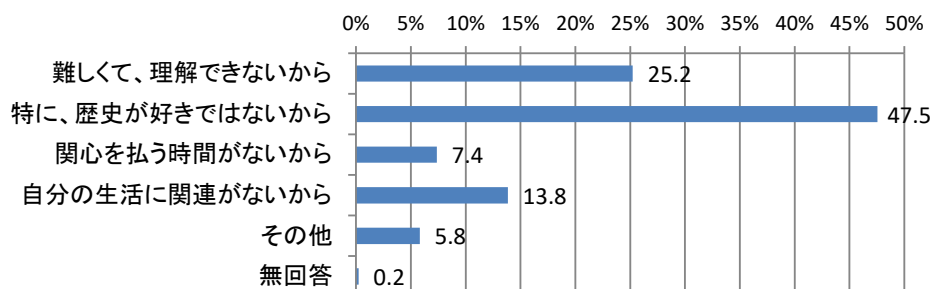
【問2において、3、4、5を回答した方のみ回答】

**問4 あなたが「歴史・文化」に関心がないのは、どのような理由からですか。**

(あてはまるもの1つに○)

- ・歴史・文化に関心がないと回答した理由としては「特に、歴史が好きではないから」が 47.5%で最も多い理由となっている。「難しく、理解できないから」が 25.2%で続いている。
- ・「その他」の回答では「覚えられない」や「暗記が苦手だから」、「めんどろ」、「興味がない」、「将来社会で役に立たないから」等の回答がみられた。
- ・その他の回答傾向からも、「歴史・文化」を学校での勉強のみで捉えている中学生は、「難しい」、「好きではない」、「生活に関連がない」との回答が多くなっていることが考えられる。

総数	448	100.0%
難しく、理解できないから	113	25.2%
特に、歴史が好きではないから	213	47.5%
関心を払う時間がないから	33	7.4%
自分の生活に関連がないから	62	13.8%
その他	26	5.8%
無回答	1	0.2%





【地区別の回答結果】

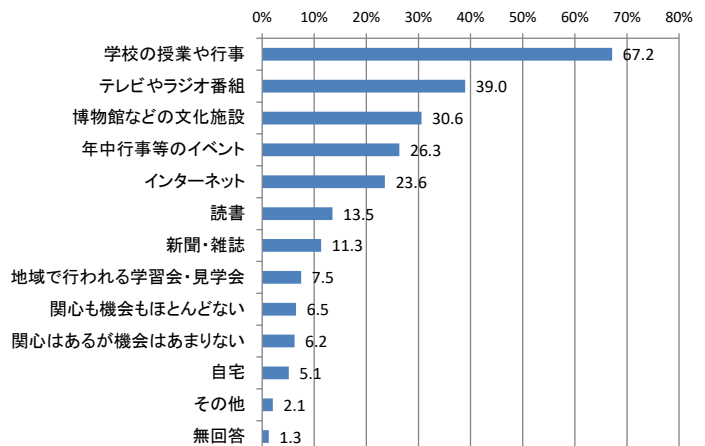
- ・地区別(学校別)の回答でも全体の回答同様に「鶴ヶ城」、「白虎隊」、「戊辰戦争」がどの地区でも多く回答されている。
- ・一方で、「飯盛山」や「日新館」、「ほたる」など各地域の歴史文化が上位に回答されている地域もある。

学校 [回答者数]	出現単語上位 5 単語[出現回数]				
	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
第一中学校 [139]	鶴ヶ城[44]	白虎隊[39]	歴史[22]	戊辰戦争[21]	城[18]
第二中学校 [76]	鶴ヶ城[19]	白虎隊[10]	城[22]	歴史[21]	昔[18]
第三中学校 [104]	鶴ヶ城[20]	赤べこ[16]	戊辰戦争[12]	白虎隊[11]	会津[8]
第四中学校 [177]	戊辰戦争[41]	鶴ヶ城[37]	歴史[24]	白虎隊[15]	会津[11]
第五中学校 [106]	戊辰戦争[43]	鶴ヶ城[31]	白虎隊[21]	城[19]	歴史[15]
第六中学校 [27]	鶴ヶ城[10]	戊辰戦争[4]	歴史[3]	起き上がり小法師[2]	赤べこ[18]
湊中学校 [6]	鶴ヶ城[3]	- (以下出現回数が1以下)			
一箕中学校 [106]	鶴ヶ城[38]	白虎隊[36]	飯盛山[16]	戊辰戦争[12]	赤べこ[12]
大戸中学校 [4]	- (以下出現回数が1以下)				
北会津中学校 [55]	鶴ヶ城[15]	白虎隊[15]	城[10]	赤べこ[9]	ほたる[5]
河東学園中学校 [73]	鶴ヶ城[22]	白虎隊[13]	日新館[11]	赤べこ[10]	歴史[8]
会津学鳳中学校 [89]	鶴ヶ城[29]	戊辰戦争[26]	歴史[18]	白虎隊[15]	城[11]
会津若松ザベリオ学園中学校 [45]	鶴ヶ城[18]	歴史[7]	会津[6]	城[5]	こづゆ[4]

問6 あなたが日常の生活で、会津若松市の「歴史・文化」に接するのはどのような機会ですか。(あてはまるもの全てに○印)

- ・市内中学生が「歴史・文化」に接する機会として最も多いのは「学校の授業や行事」で 67.2%が選択している。「テレビやラジオ番組」が 39.0%、「博物館などの文化施設」が 30.6%で続いている。
- ・「自宅にある歴史文化」の回答では、「こづゆなどの郷土料理」、「赤べこ」等の回答が多くみられた。
- ・「その他」の回答では、「習い事」や「部活」等の回答が挙がっている。

総数	人数	割合
学校の授業や行事	681	67.2%
テレビやラジオ番組	395	39.0%
博物館などの文化施設	310	30.6%
年中行事等のイベント	267	26.3%
インターネット	239	23.6%
読書	137	13.5%
新聞・雑誌	115	11.3%
地域で行われる学習会・見学会	76	7.5%
関心も機会もほとんどない	66	6.5%
関心はあるが機会はありません	63	6.2%
自宅	52	5.1%
その他	21	2.1%
無回答	13	1.3%

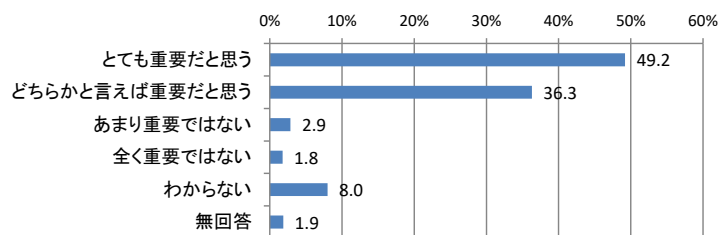


### (3) 歴史・文化の保存・活用について

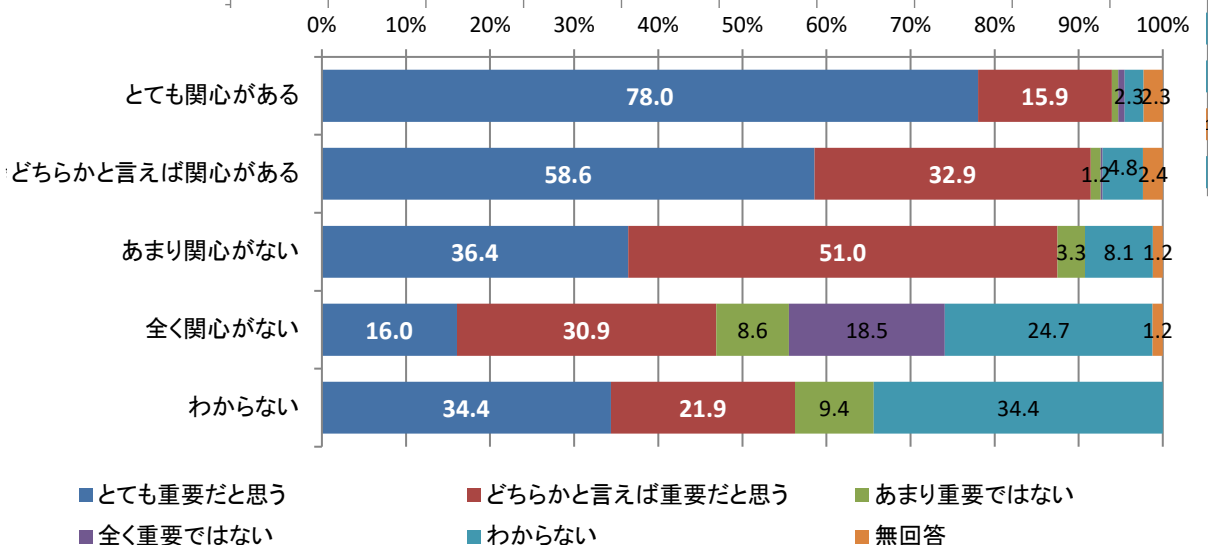
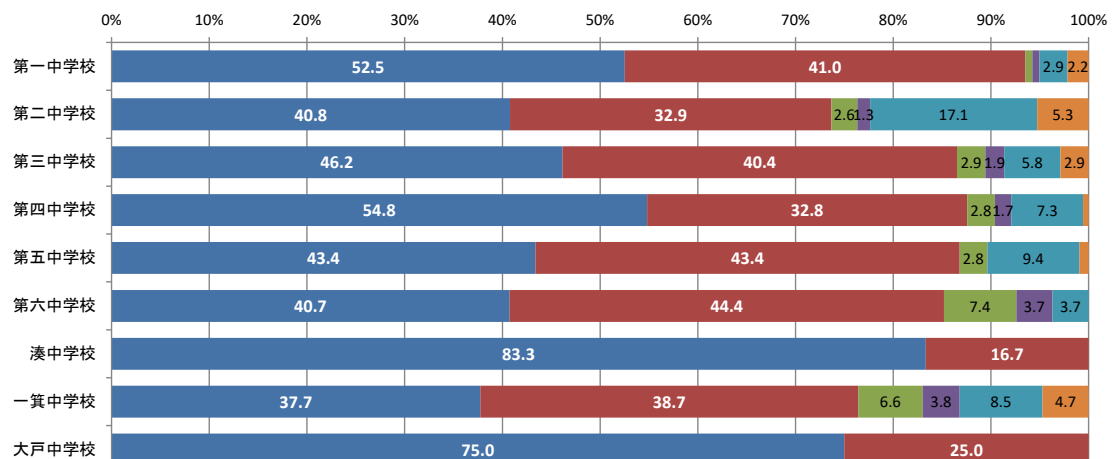
#### 問7 会津若松市の歴史や文化の保存・活用は重要だと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- ・「とても重要だと思う」が49.2%で最も多く、「どちらかと言えば重要だと思う」が36.3%で続いており、市内中学生の85.5%が歴史・文化の保存・活用は重要だと回答している。
- ・地区別の回答では「とても重要だと思う」の回答割合は回答者の総数は少なかった「湊中学校」、「大戸中学校」が最も多く、「北会津中学校」、「会津学鳳中学校」が共に60%以上で続いている。
- ・歴史文化への関心別の回答では、関心を持っている中学生ほど「歴史や文化の保存・活用は重要」だと考えており、関心を持つことで保存活用への意識を醸成できる。

総数	1,014	100.0%
とても重要だと思う	499	49.2%
どちらかと言えば重要だと思う	368	36.3%
あまり重要ではない	29	2.9%
全く重要ではない	18	1.8%
わからない	81	8.0%
無回答	19	1.9%



#### 【地区別の回答】



**問8 問7で答えたその理由を自由に書いてください。**

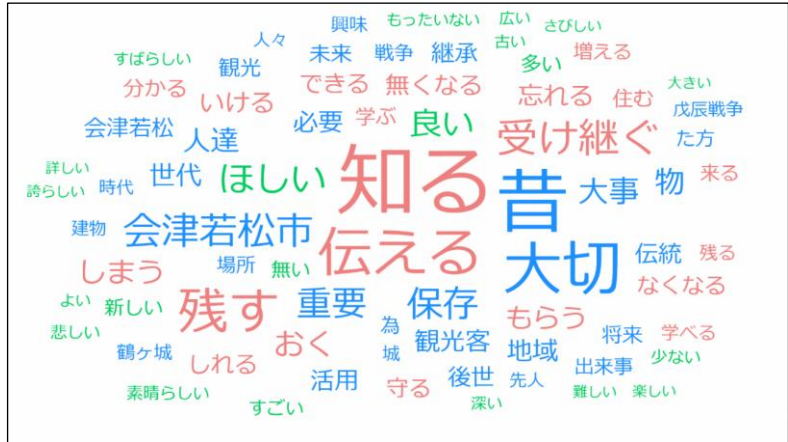
**【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】**

※ユーザーローカル テキストマイニングツール( <https://textmining.userlocal.jp/> )により分析

**【保存活用が重要だと回答した方】**

■ **ワードクラウド**

- ・「知る」、「受け継ぐ」、「伝える」等の次世代への継承に関連する単語がよく回答されている。



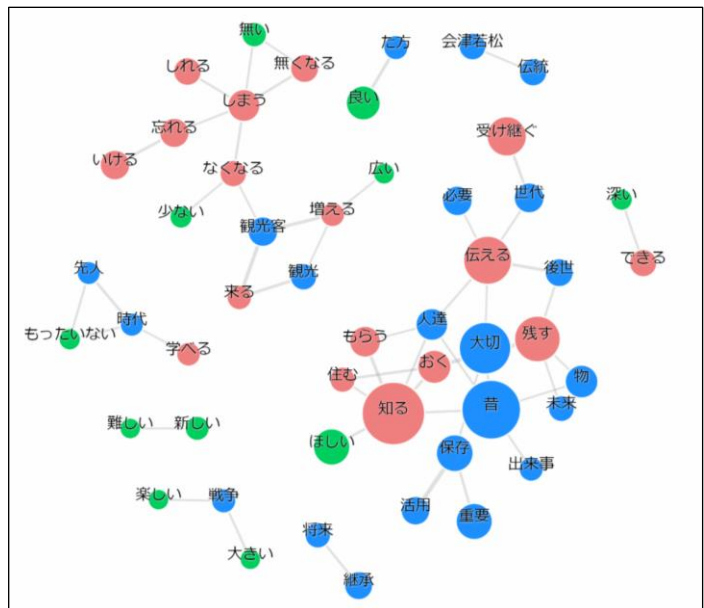
■ **単語出現度**

- ・「昔」が最も多く出現している。
- ・その他に、「大切」や「重要」、「大事」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
昔	名詞	124	大事	名詞	42
大切	名詞	101	物	名詞	41
会津若松市	名詞	57	人達	名詞	38
保存	名刺	54	世代	名詞	32
重要	名詞	52	観光客	名詞	31

■ **出現パターン※2**

- ・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「昔」は「大切」や「伝える」、「物」を「残す」との関連が多い。



※2出現パターン…文章中に出現する単語の出現パターンか似たものを線で結んだ図。出現数が多い語ほど大きく、また共に出現する程度が強いほど太い線で図示している。

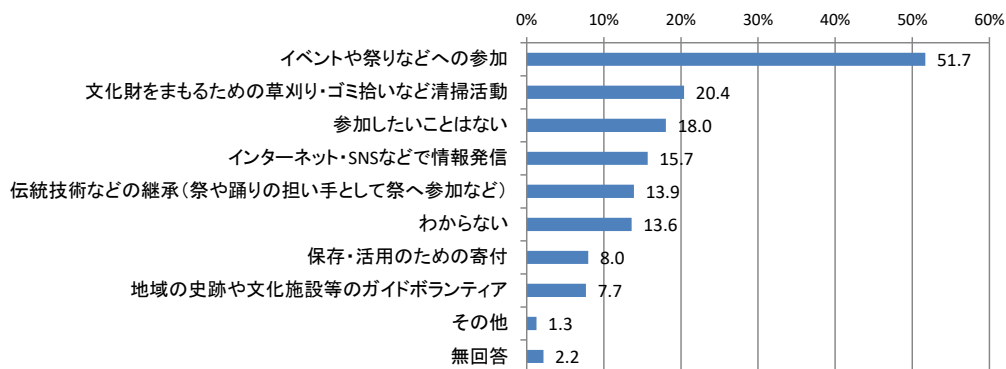




問9 会津若松市の「歴史・文化」の保存・活用であなたが参加してみたいことを教えてください。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「イベントや祭りなどへの参加」が最も多く 51.7%が選択しており、「文化財をまもるための草刈り・ゴミ拾いなど清掃活動」が 20.4%で続いている。
- ・「その他」では「伝統的な料理を覚える」、「PC から参加したい」等の回答が挙がっていた。
- ・「参加したいことはない」との回答が 18.0%、「分からない」との回答も 13.6%が選択しており、8割を超える中学生が歴史文化の保存・活用が重要と考えている一方で「参加したいことはない」が 3 番目に多く選択されている。

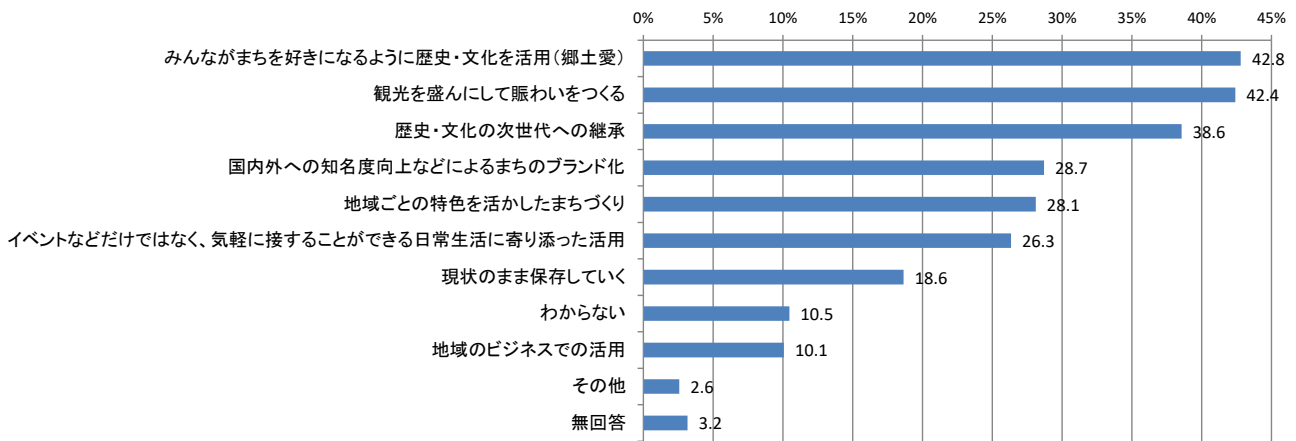
総数	1,014	100.0%
イベントや祭りなどへの参加	524	51.7%
文化財をまもるための草刈り・ゴミ拾いなど清掃活動	207	20.4%
参加したいことはない	183	18.0%
インターネット・SNSなどで情報発信	159	15.7%
伝統技術などの継承(祭や踊りの担い手として祭へ参加など)	141	13.9%
わからない	138	13.6%
保存・活用のための寄付	81	8.0%
地域の史跡や文化施設等のガイドボランティア	78	7.7%
その他	13	1.3%
無回答	22	2.2%



問 10 会津若松市の「歴史・文化」を保存・活用するためには、どのようなことをしたらいいと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用(郷土愛)」が最も多く 42.8%が選択しており、「観光を盛んにして賑わいをつくる」が 42.4%、「歴史・文化の次世代への継承」が 38.6%で続いている。
- ・「その他」では「もっと分かりやすい楽しいイベント」、「小さい子どもでも歴史に親しみやすいような活動」等の回答が挙がっていた。

総数	1,014	100.0%
みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用(郷土愛)	434	42.8%
観光を盛んにして賑わいをつくる	430	42.4%
歴史・文化の次世代への継承	391	38.6%
国内外への知名度向上などによるまちのブランド化	291	28.7%
地域ごとの特色を活かしたまちづくり	285	28.1%
イベントなどだけではなく、気軽に接することができる日常生活に寄り添った活用	267	26.3%
現状のまま保存していく	189	18.6%
わからない	106	10.5%
地域のビジネスでの活用	102	10.1%
その他	26	2.6%
無回答	32	3.2%



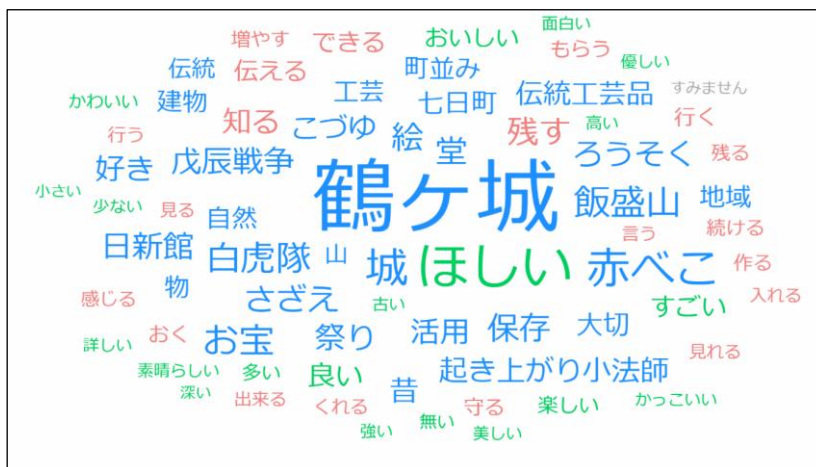
問 11 保存・活用してほしいと思う、あなたが好きな会津若松市の「歴史・文化」など地域の「お宝」について自由に書いてください。

【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール ( <https://textmining.userlocal.jp/> ) により分析

■ ワードクラウド

・「鶴ヶ城」、「白虎隊」等の単語が多くなっており、会津若松市の歴史文化のイメージへの回答と同様の傾向がみられる。



■ 単語出現度

・「鶴ヶ城」が最も多く出現している。  
 ・その他に、「赤べこ」や「飯盛山」、「白虎隊」、「さざえ堂」、「絵ろうそく」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
鶴ヶ城	名詞	318	白虎隊	名詞	54
赤べこ	名詞	106	保存	名詞	37
城	名詞	93	さざえ堂	名詞	35
お宝	名刺	60	絵ろうそく	名詞	31
飯盛山	名詞	57	祭り	名詞	31

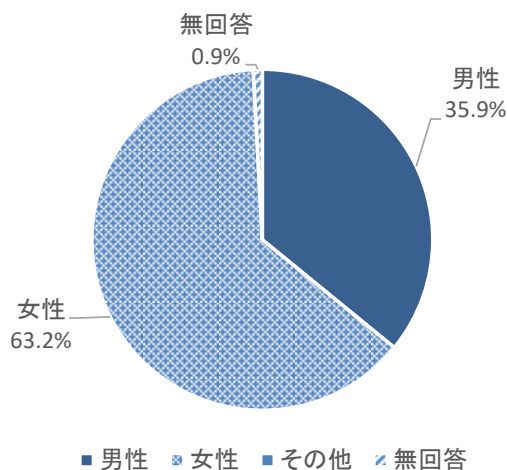
### 3. 歴史・文化に関する市民アンケート調査

#### (1) 回答者について

##### 問1-(1) 性別

・回答者の性別は「男性」が35.9%、「女性」が63.2%となっている。

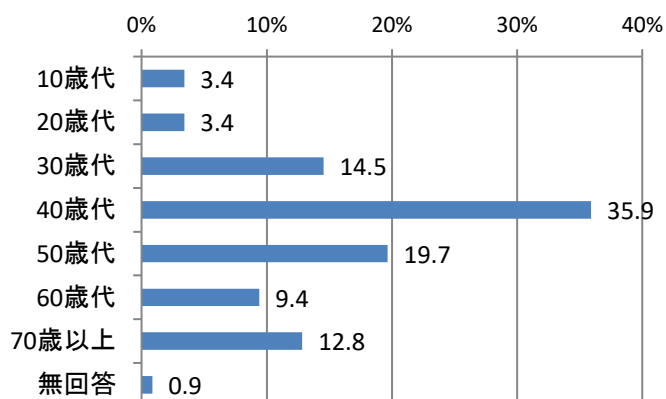
総数	117	100.0%
男性	42	35.9%
女性	74	63.2%
その他	0	0.0%
無回答	1	0.9%



##### 問1-(2) 年齢

・回答者の年齢は「40歳代」が35.9%で最も多く、「50歳代」が19.7%が続いている。

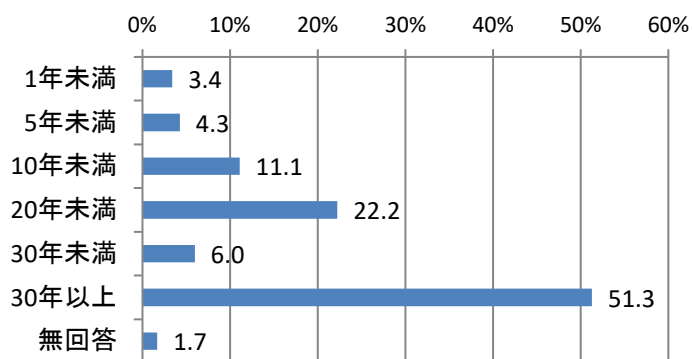
総数	117	100.0%
10歳代	4	3.4%
20歳代	4	3.4%
30歳代	17	14.5%
40歳代	42	35.9%
50歳代	23	19.7%
60歳代	11	9.4%
70歳以上	15	12.8%
無回答	1	0.9%



##### 問1-(3) 居住歴

・回答者の居住歴は「30年以上」が51.3%で最も多く、「20年未満」が22.2%が続いている。

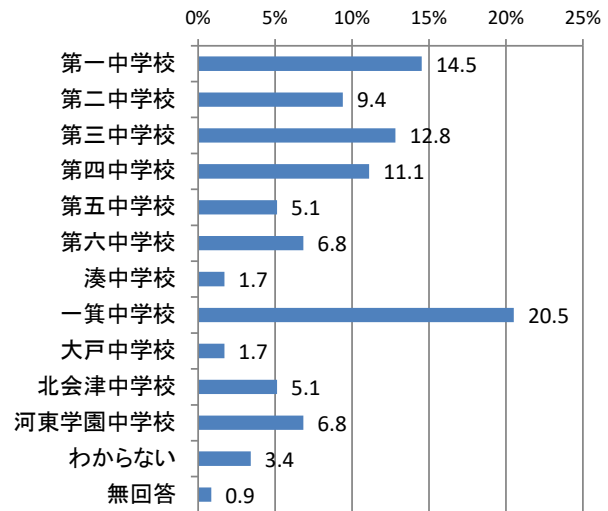
総数	117	100.0%
1年未満	4	3.4%
5年未満	5	4.3%
10年未満	13	11.1%
20年未満	26	22.2%
30年未満	7	6.0%
30年以上	60	51.3%
無回答	2	1.7%



### 問Ⅰ-(4) 中学校区

・回答者の居住する中学校区は「一箕中学校」が20.5%で最も多く、「第一中学校」が14.5%が続いている。

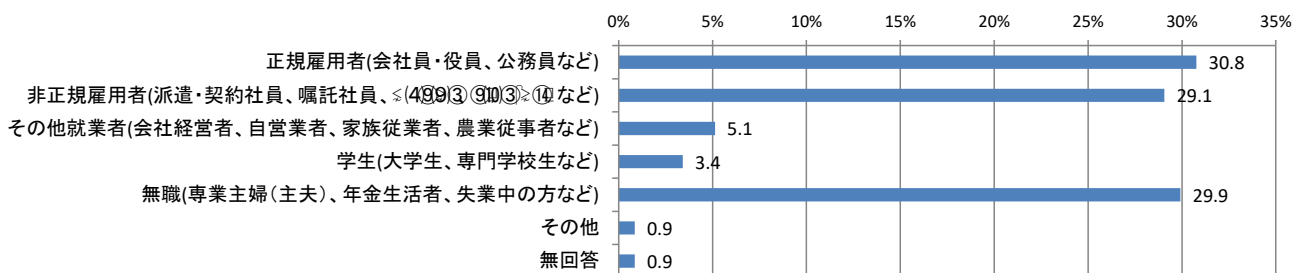
中学校区	総数	割合
第一中学校	17	14.5%
第二中学校	11	9.4%
第三中学校	15	12.8%
第四中学校	13	11.1%
第五中学校	6	5.1%
第六中学校	8	6.8%
湊中学校	2	1.7%
一箕中学校	24	20.5%
大戸中学校	2	1.7%
北会津中学校	6	5.1%
河東学園中学校	8	6.8%
わからない	4	3.4%
無回答	1	0.9%



### 問Ⅰ-(5) 職業

・回答者の職業は「正規雇用者(会社員・役員、公務員など)」が最も多く30.8%、「無職(専業主婦(主夫)、年金生活者、失業中の方など)」が29.9%が続いている。

職業	総数	割合
正規雇用者(会社員・役員、公務員など)	36	30.8%
非正規雇用者(派遣・契約社員、嘱託社員、アルバイト、パートタイマーなど)	34	29.1%
その他就業者(会社経営者、自営業者、家族従業者、農業従事者など)	6	5.1%
学生(大学生、専門学校生など)	4	3.4%
無職(専業主婦(主夫)、年金生活者、失業中の方など)	35	29.9%
その他	1	0.9%
無回答	1	0.9%

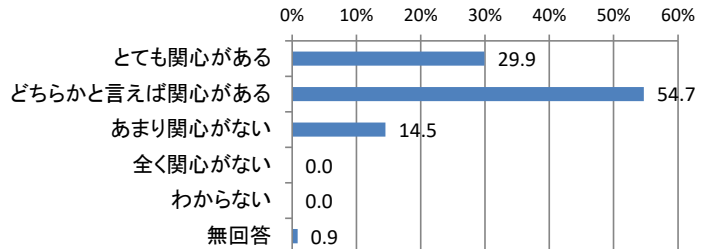


## (2) 歴史・文化への認識について

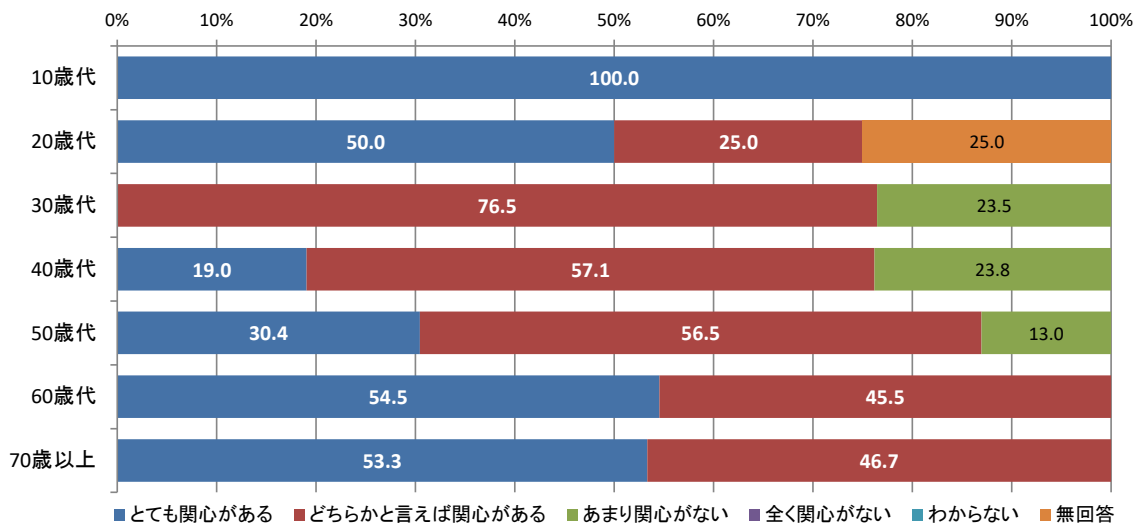
問2 あなたは、「歴史・文化」に関心がありますか。

- ・「どちらかと言えば関心がある」との回答が最も多く 54.7%、「とても関心がある」との回答が 29.9%で続いており、関心があるとの回答は全体の 84.6%となっている。
- ・年齢別の回答では、年齢が高いほど関心が高くなっている傾向がある。

総数	117	100.0%
とても関心がある	35	29.9%
どちらかと言えば関心がある	64	54.7%
あまり関心がない	17	14.5%
全く関心がない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	1	0.9%



### 【年代別への関心別の回答】

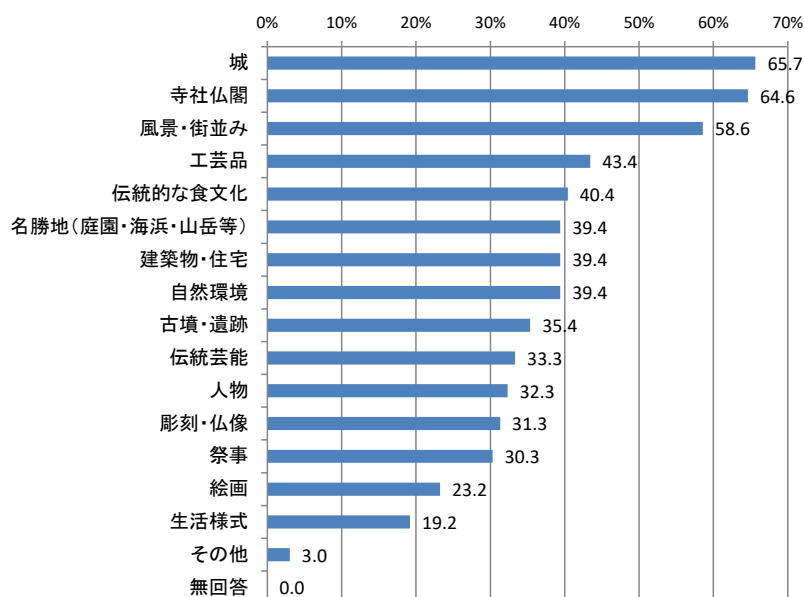


### 【問2において、1、2を回答した方のみ回答】

問3 あなたが関心のある「歴史・文化」はどれですか。(あてはまるもの全てに○)

- ・歴史・文化に関心を持つ市民が最も関心のある歴史・文化は「城」との回答が 65.7%で最も多く、「寺社仏閣」が 64.6%、「風景・街並み」が 58.6%で続いている。
- ・「その他」の回答では「方言」や「会津武士道精神」等の回答がみられた。

総数	99	100.0%
城	65	65.7%
寺社仏閣	64	64.6%
風景・街並み	58	58.6%
工芸品	43	43.4%
伝統的な食文化	40	40.4%
名勝地(庭園・海浜・山岳等)	39	39.4%
建築物・住宅	39	39.4%
自然環境	39	39.4%
古墳・遺跡	35	35.4%
伝統芸能	33	33.3%
人物	32	32.3%
彫刻・仏像	31	31.3%
祭事	30	30.3%
絵画	23	23.2%
生活様式	19	19.2%
その他	3	3.0%
無回答		0.0%



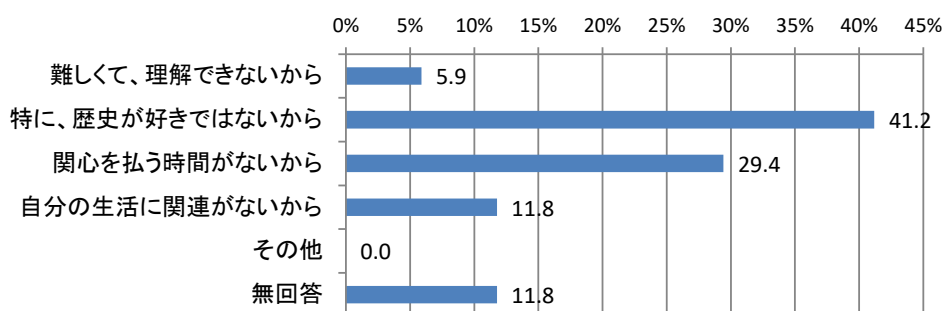
【問2において、3、4、5を回答した方のみ回答】

問4 あなたが「歴史・文化」に関心がないのは、どのような理由からですか。

(あてはまるもの1つに○)

・歴史・文化に関心がないと回答した理由としては「特に、歴史が好きではないから」が41.2%で最も多い理由となっており、「関心を払う時間がないから」が29.4%が続いている。

理由	人数	割合
総数	17	100.0%
難しく、理解できないから	1	5.9%
特に、歴史が好きではないから	7	41.2%
関心を払う時間がないから	5	29.4%
自分の生活に関連がないから	2	11.8%
その他	0	0.0%
無回答	2	11.8%





## ■ 単語出現度

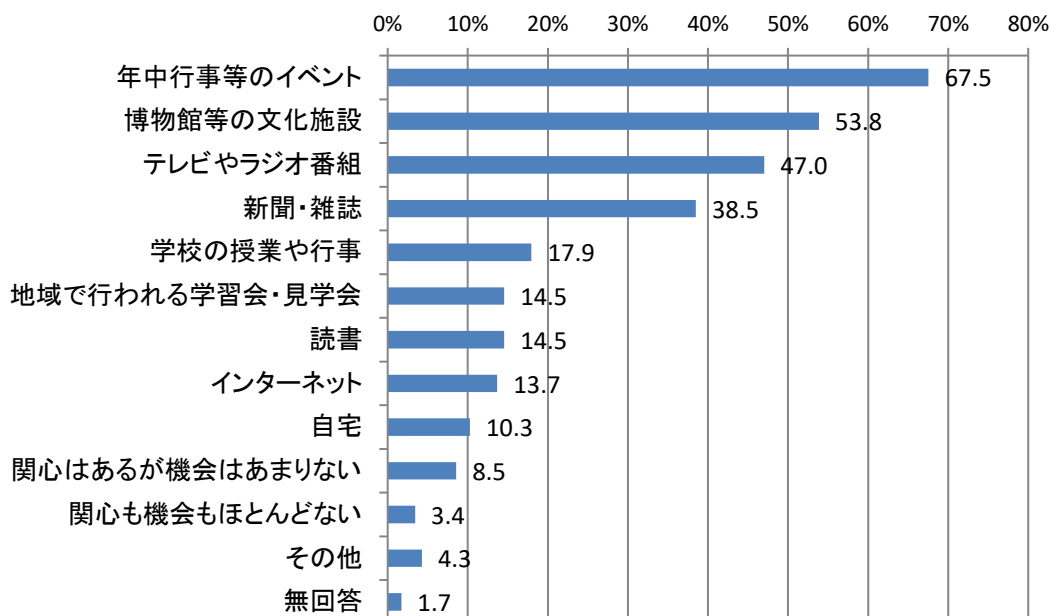
- ・「鶴ヶ城」が最も多く出現している。
- ・その他に、「白虎隊」や「戊辰戦争」等の単語が同じ頻度で多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
会津	名詞	33	大切	名詞	12
イメージ	名詞	17	幕末	名詞	9
戊辰戦争	名詞	16	市民	名詞	9
白虎隊	名刺	15	城下町	名詞	8
鶴ヶ城	名詞	12	城	名詞	8

問7 あなたが日常で会津若松市の「歴史・文化」に接するのはどのような機会ですか。  
(あてはまるもの全てに○印)

- ・「年中行事等のイベント」が67.5%と最も多く選択されており、「博物館等の文化施設」が53.8%、「テレビやラジオ番組」が47.0%で続いており、日常生活と関連した機会は少なくなっている。
- ・「その他」の回答では「市政だより」や「散歩」等の回答が挙がっている。

総数	117	100.0%
年中行事等のイベント	79	67.5%
博物館等の文化施設	63	53.8%
テレビやラジオ番組	55	47.0%
新聞・雑誌	45	38.5%
学校の授業や行事	21	17.9%
地域で行われる学習会・見学会	17	14.5%
読書	17	14.5%
インターネット	16	13.7%
自宅	12	10.3%
関心はあるが機会はあまりない	10	8.5%
関心も機会もほとんどない	4	3.4%
その他	5	4.3%
無回答	2	1.7%



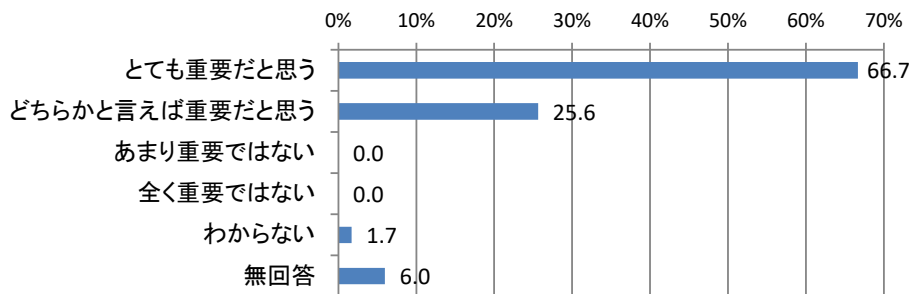


### (3) 歴史・文化の保存・活用について

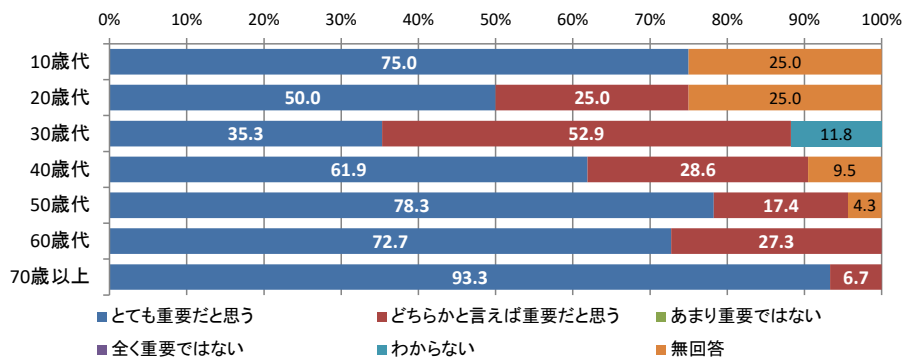
#### 問8 会津若松市の歴史や文化の保存・活用は重要だと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- ・「とても重要だと思う」との回答が 66.7%で最も多く、「どちらかと言えば重要だと思う」も 25.6%となっており、回答者の 92.3%が歴史や文化の保存・活用は重要だと回答している。
- ・年齢が高く、居住歴が長いほど重要だと思う割合が多い傾向にある。

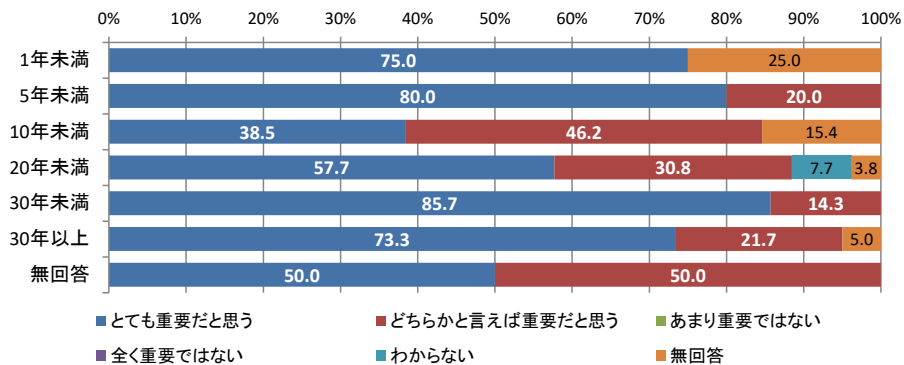
回答	人数	割合
総数	117	100.0%
とても重要だと思う	78	66.7%
どちらかと言えば重要だと思う	30	25.6%
あまり重要ではない	0	0.0%
全く重要ではない	0	0.0%
わからない	2	1.7%
無回答	7	6.0%



#### 【年齢別の回答】



#### 【居住歴別の回答】



問9 問8で答えたその理由を自由にご記入ください。

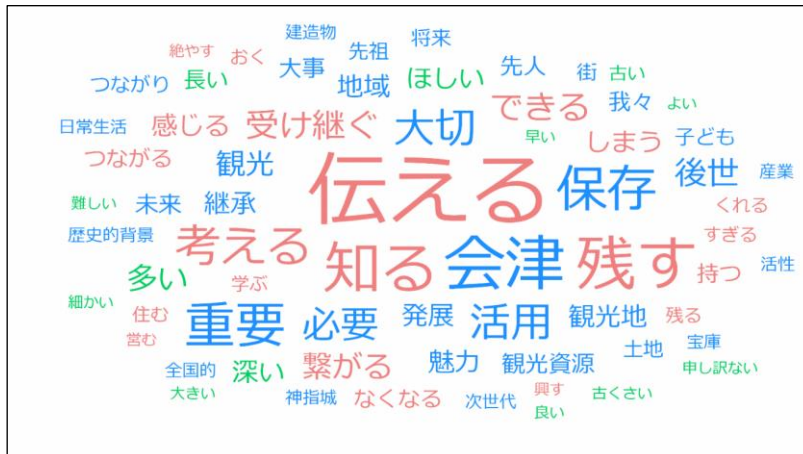
【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール ( <https://textmining.userlocal.jp/> ) により分析

【保存活用が重要だと回答した方】

■ ワードクラウド

・「伝える」、「残す」、「伝える」等の次世代への継承に関連する単語がよく回答されている。



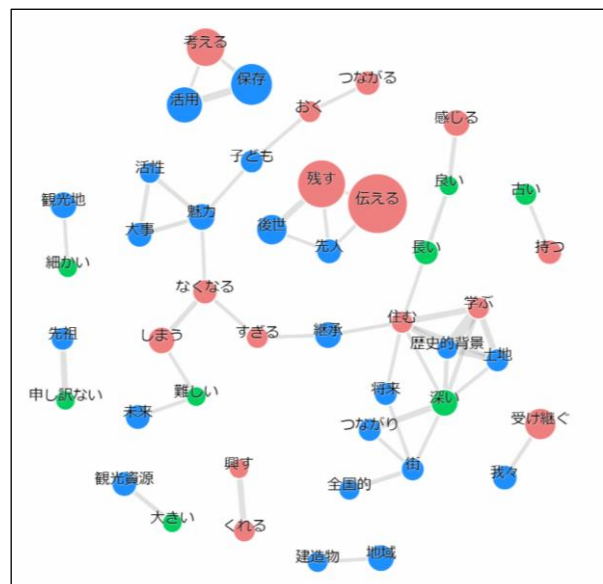
■ 単語出現度

・「重要」や「大切」、「必要」等の単語が多く出現している。  
・「観光」、「観光地」等の単語も多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
会津	名詞	16	必要	名詞	9
重要	名詞	13	後世	名詞	7
保存	名詞	13	観光	名詞	6
活用	名刺	10	観光地	名詞	5
大切	名詞	10	継承	名詞	5

■ 出現パターン

・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「伝える」は「残す」や「先人」、「後世」との関連が多い。



**【保存活用が重要でないと回答した方】**

・「考える時間がない」、「よく分からない」等の回答が挙がっていた。

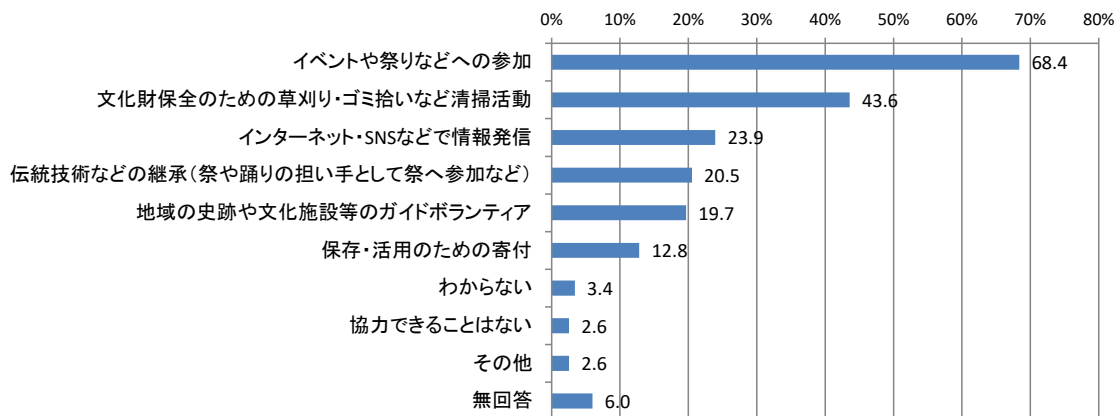
**■ 結果まとめ**

- ・保存活用が重要だと回答する理由としては、「先人の残したものを後世に伝えていくべき」との意見が多く、「観光地としての必要性」、「観光資源であるため」等の意見も多く挙がっている。
- ・保存活用が重要でない回答する理由としては、「よく分からない」等の意見があった。

**問 10 会津若松市の「歴史・文化」などの保存・活用であなたが協力できそうなことを教えてください。(あてはまるもの全てに○印)**

- ・「イベントや祭りなどへの参加」が最も多く 68.4%、「文化財保全のための草刈り・ゴミ拾いなど清掃活動」が 43.6%で続いている。
- ・「その他」の回答では、「伝承」、「教育」等の回答が挙がっていた。

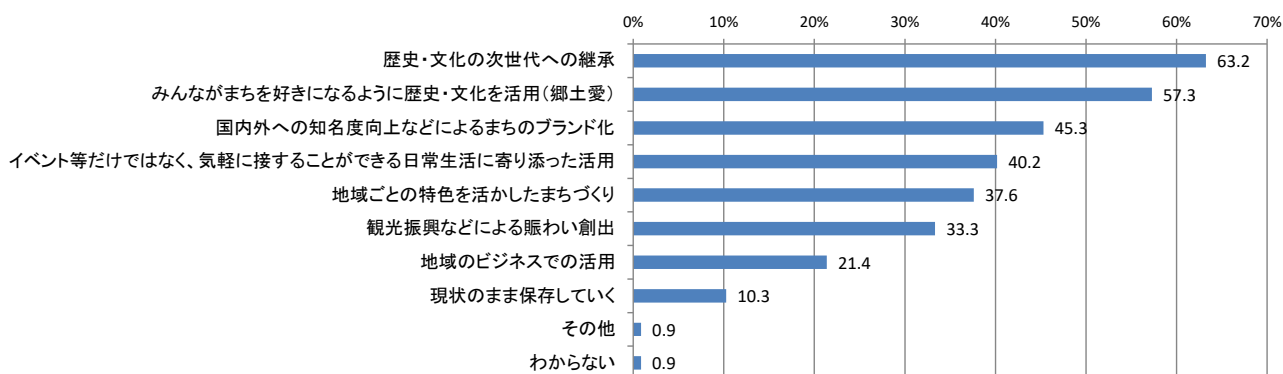
	総数	割合
イベントや祭りなどへの参加	80	68.4%
文化財保全のための草刈り・ゴミ拾いなど清掃活動	51	43.6%
インターネット・SNSなどで情報発信	28	23.9%
伝統技術などの継承(祭や踊りの担い手として祭へ参加など)	24	20.5%
地域の史跡や文化施設等のガイドボランティア	23	19.7%
保存・活用のための寄付	15	12.8%
わからない	4	3.4%
協力できることはない	3	2.6%
その他	3	2.6%
無回答	7	6.0%



**問 11 会津若松市の「歴史・文化」などの保存・活用の方向性はどうしたらいいと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)**

- ・「歴史・文化の次世代への継承」を 63.2%の方が選択されており最も多くなっている。「みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用(郷土愛)」が 57.3%、「国内外への知名度向上などによるまちのブランド化」が 45.3%、「イベント等だけではなく、気軽に接することができる日常生活に寄り添った活用」が 40.2%と続いている。

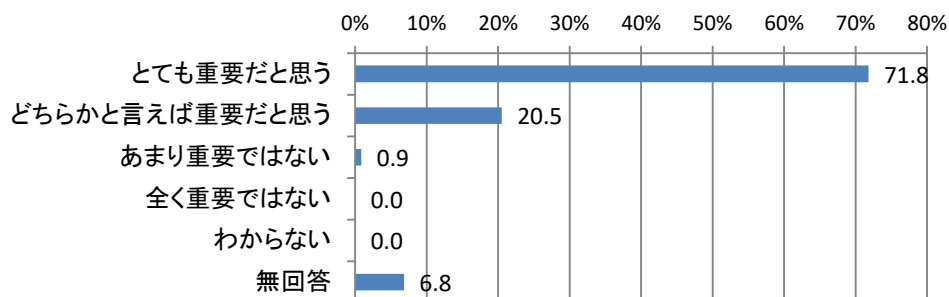
総数	117	100.0%
歴史・文化の次世代への継承	74	63.2%
みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用(郷土愛)	67	57.3%
国内外への知名度向上などによるまちのブランド化	53	45.3%
イベント等だけではなく、気軽に接することができる日常生活に寄り添った活用	47	40.2%
地域ごとの特色を活かしたまちづくり	44	37.6%
観光振興などによる賑わい創出	39	33.3%
地域のビジネスでの活用	25	21.4%
現状のまま保存していく	12	10.3%
その他	1	0.9%
わからない	1	0.9%
無回答	10	8.5%



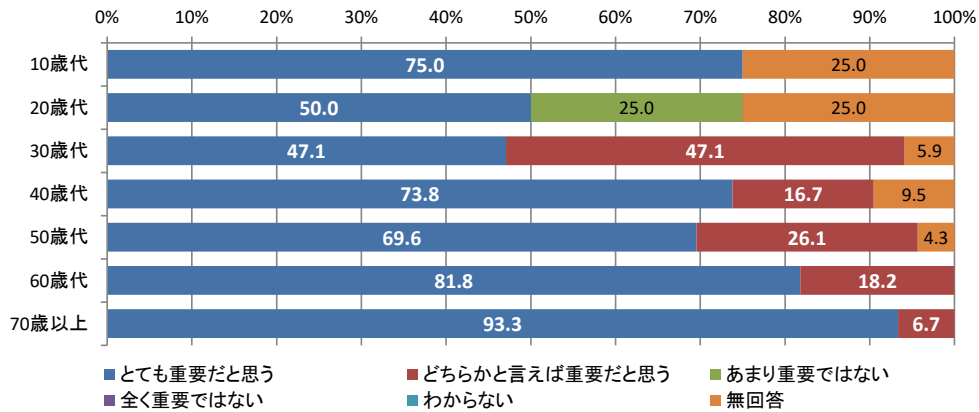
**問 12 あなたは会津若松市の「歴史・文化」を地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと思いますか。(あてはまるもの一つに○)**

- ・「とても重要だと思う」と71.8%が回答しており、回答者の92.3%が「歴史・文化」を地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと考えている。
- ・年齢、歴史文化への関心が高いほど次世代への継承を重要だと回答する傾向がある。

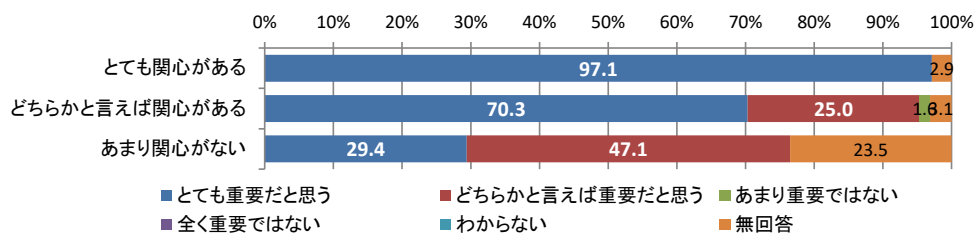
総数	117	100.0%
とても重要だと思う	84	71.8%
どちらかと言えば重要だと思う	24	20.5%
あまり重要ではない	1	0.9%
全く重要ではない	0	0.0%
わからない	0	0.0%
無回答	8	6.8%



【年齢別の回答】



【歴史文化への関心別の回答】



問 13 問 12 で答えたその理由を自由にご記入ください。

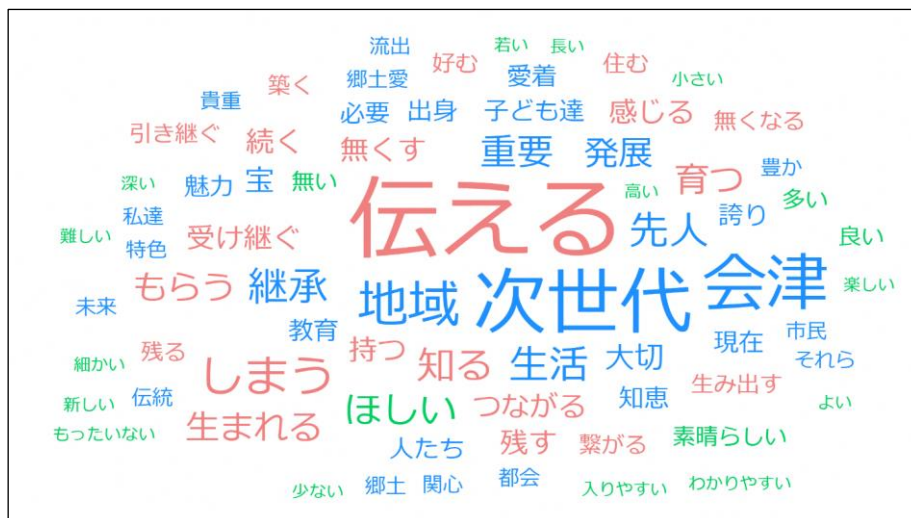
【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール( <https://textmining.userlocal.jp/> )により分析

【次世代への継承が重要だと回答した方】

■ワードクラウド

・「伝える」、「次世代」、「地域」等の単語がよく回答されている。



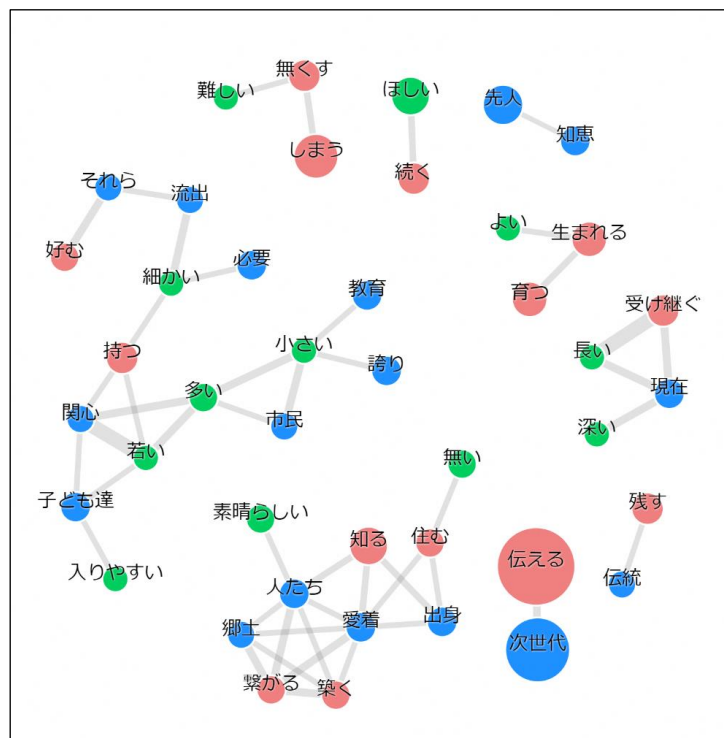
## ■ 単語出現度

・「地域」や「先人」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
次世代	名詞	17	生活	名詞	7
会津	名詞	14	重要	名詞	6
地域	名詞	10	発展	名詞	5
先人	名詞	7	宝	名詞	4
継承	名詞	7	大切	名詞	4

## ■ 出現パターン

・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「伝える」は「次世代」と、「郷土」と「愛着」、「関心」と「子ども達」や「若い」、等が関連して出現している。



### 【次世代への継承が重要でない回答した方】

・「『宝として伝える』よりも、伝えられた世代の人達に『これは地域の宝だ』と思って貰える伝え方をすべき」等の回答が挙がっていた。

## ■ 結果まとめ

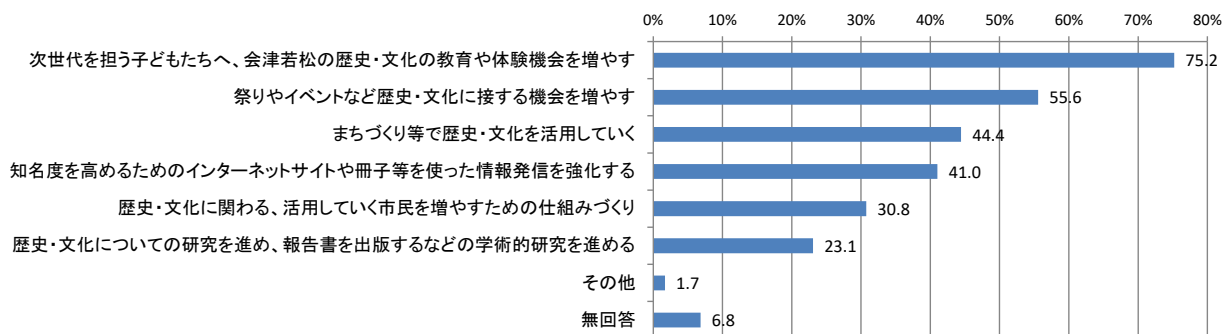
・次世代への継承が重要だと回答する理由としては、「先人の知恵や地域の歴史を受け継ぐこと自体が重要である」との回答や、「地域への郷土愛につながる」等の回答が多い傾向がある。

・次世代への継承が重要でない回答する理由としては、「『これは地域の宝だ』と思って貰える伝え方をすべき」と伝え方が重要であると意見があがっていた。

問 14 会津若松市の「歴史・文化」を次世代に伝えていくにはどうしたらよいと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

- ・「次世代を担う子どもたちへ、会津若松の歴史・文化の教育や体験機会を増やす」が 75.2%と最も選択されており、「祭りやイベントなど歴史・文化に接する機会を増やす」が 55.6%で続いている。

総数	117	100.0%
次世代を担う子どもたちへ、会津若松の歴史・文化の教育や体験機会を増やす	88	75.2%
祭りやイベントなど歴史・文化に接する機会を増やす	65	55.6%
まちづくり等で歴史・文化を活用していく	52	44.4%
知名度を高めるためのインターネットサイトや冊子等を使った情報発信を強化する	48	41.0%
歴史・文化に関わる、活用していく市民を増やすための仕組みづくり	36	30.8%
歴史・文化についての研究を進め、報告書を出版するなどの学術的研究を進める	27	23.1%
その他	2	1.7%
無回答	8	6.8%



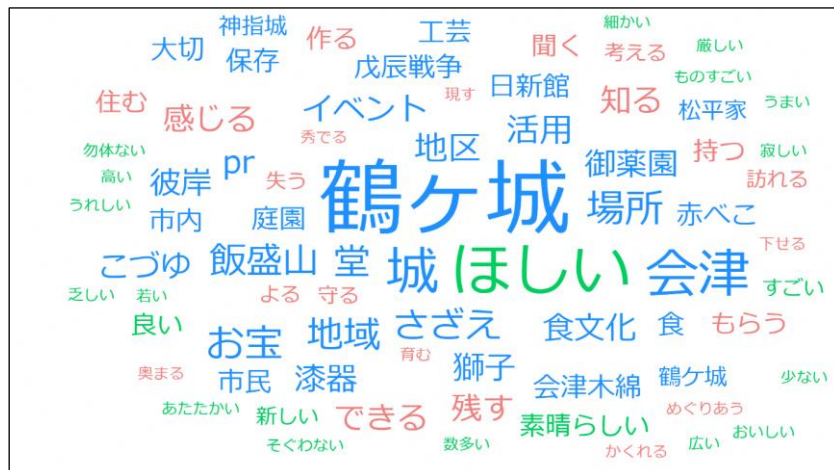
問 15 保存・活用してほしいと思うあなたが好きな会津若松市の「歴史・文化」など地域の「お宝」について自由にご記入ください。

【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール ( <https://textmining.userlocal.jp/> ) により分析

■ ワードクラウド

- ・「鶴ヶ城」、「城」、「飯盛山」等の単語が多くなっている。



## ■ 単語出現度

- ・「鶴ヶ城」が最も多く出現している。
- ・その他に、「飯盛山」や「さざえ堂」等の単語が多く出現している。
- ・「活用」も多く挙がっており、地域の宝の活用やPRを求める意見も多くみられた。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
鶴ヶ城	名詞	25	飯盛山	名詞	7
会津	名詞	13	さざえ堂	名詞	7
城	名詞	13	地域	名詞	7
お宝	名刺	8	地区	名詞	6
場所	名詞	8	活用	名詞	6

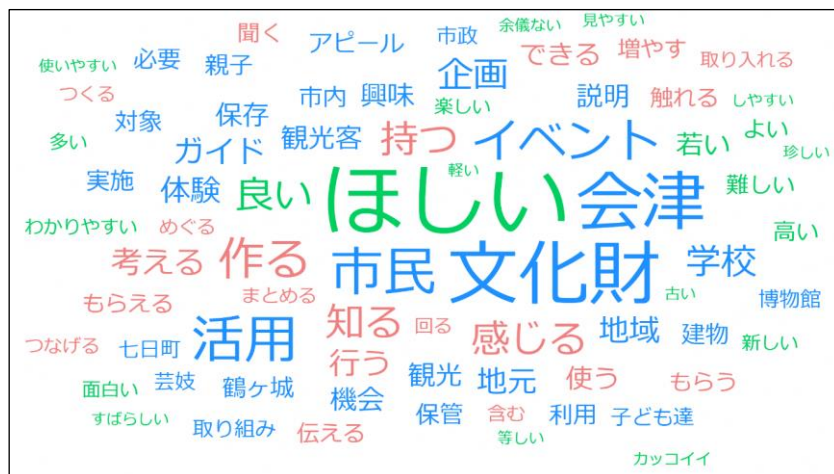
問16 「歴史・文化」の保存・活用に向けたアイデアや、会津若松市の文化財に関わることについて、ご意見があれば自由にお書きください。

### 【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール( <https://textmining.userlocal.jp/> )により分析

## ■ ワードクラウド

- ・「ほしい」、「文化財」、「市民」等の単語がよく回答されている。



## ■ 単語出現度

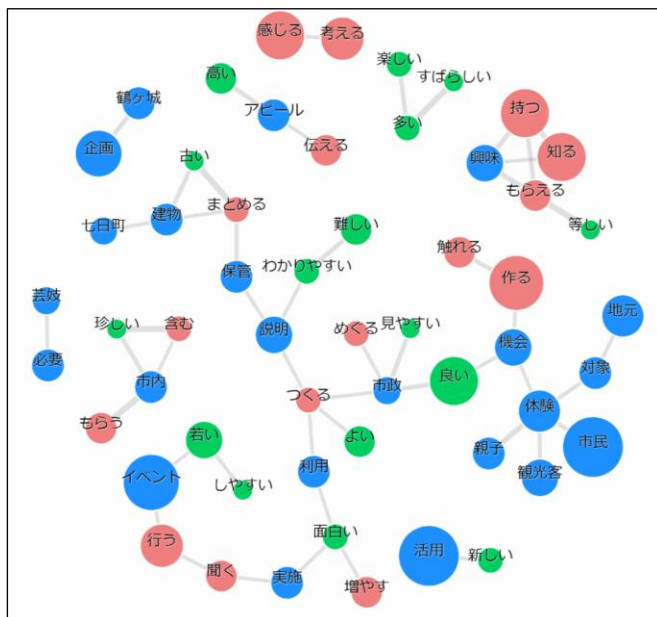
- ・「文化財」や「市民」、「活用」、「イベント」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
文化財	名詞	13	企画	名詞	7
会津	名詞	12	学校	名詞	7
市民	名詞	10	ガイド	名詞	6
活用	名刺	10	地域	名詞	6
イベント	名詞	7	体験	名詞	6



## ■ 出現パターン

- ・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「活用」は「新しい」と、「鶴ヶ城」と「企画」、「興味」と「知る」や「もつ」、「市民」と「体験」等が関連して出現している。



## ■ 結果まとめ

- ・保存活用への向けたアイデアとしては、「若い世代への取り組み」や「まちづくりへの参画」等の興味関心を持ってもらえる取り組みや、「市民や親子を対象とした体験ツアー」等の新たな取り組み、市民への周知やPR等の工夫等の意見があがっていた。

## 4. 中学生アンケート調査との比較

### (1) 関心のある「歴史・文化」

- ・関心のある「歴史・文化」を中学生と市民の回答を比較すると、「城」と回答する割合は市民が多くなっている。
- ・各項目で基本的に市民の回答割合の方が高くなっているが「人物」のみ中学生の関心が高くなっている。
- ・「寺社仏閣」、「彫刻・仏像」で中学生と市民の関心の差が大きくなっている。

項目	①中学生	②市民	①-②
城	48.2%	65.7%	-17.5%
風景・街並み	45.8%	58.6%	-12.8%
人物	45.8%	32.3%	13.5%
自然環境	25.7%	39.4%	-13.7%
建築物・住宅	23.6%	39.4%	-15.8%
伝統的な食文化	23.6%	40.4%	-16.8%
工芸品	22.3%	43.4%	-21.1%
祭り	21.2%	30.3%	-9.1%
名勝地(庭園・海浜・山岳など)	20.8%	39.4%	-18.6%
古墳・遺跡	20.1%	35.4%	-15.3%
伝統芸能	18.1%	33.3%	-15.2%
寺社仏閣	16.1%	64.6%	-48.5%
生活様式	14.3%	19.2%	-4.9%
絵画	13.6%	23.2%	-9.6%
彫刻・仏像	8.5%	31.3%	-22.8%
その他	4.2%	3.0%	1.2%

### (2) 日常で会津若松市の「歴史・文化」に接する機会

- ・日常で会津若松市の「歴史・文化」に接する機会についての比較では、最も差が大きいのは「学校の授業や行事」となっており、「年中行事等のイベント」が続いている。
- ・「インターネット」の中学生の回答割合は市民の回答割合を上回っている。

項目	①中学生	②市民	①-②
学校の授業や行事	67.2%	17.9%	49.3%
テレビやラジオ番組	39.0%	47.0%	-8.0%
博物館などの文化施設	30.6%	53.8%	-23.2%
年中行事等のイベント	26.3%	67.5%	-41.2%
インターネット	23.6%	13.7%	9.9%
読書	13.5%	14.5%	-1.0%
新聞・雑誌	11.3%	38.5%	-27.2%
地域で行われる学習会・見学会	7.5%	14.5%	-7.0%
関心も機会もほとんどない	6.5%	3.4%	3.1%
関心はあるが機会はあまりない	6.2%	8.5%	-2.3%
自宅	5.1%	10.3%	-5.2%
その他	2.1%	4.3%	-2.2%

### (3) 保存活用で協力できること

・「歴史・文化」などの保存・活用で協力できることについて、中学生・市民ともに「イベントや祭りなどへの参加」が最も回答割合が高いが、中学生ではそれ以外の項目が市民と比べると回答割合が低くなっており、「参加したくない」や「わからない」の回答が多くなっている。

項目	①中学生	②市民	①-②
イベントや祭りなどへの参加	51.7%	68.4%	-16.7%
文化財をまもるための草刈り・ゴミ拾いなど清掃活動	20.4%	43.6%	-23.2%
参加したいことはない	18.0%	2.6%	15.4%
インターネット・SNSなどで情報発信	15.7%	23.9%	-8.2%
伝統技術などの継承(祭や踊りの担い手として祭へ参加など)	13.9%	20.5%	-6.6%
わからない	13.6%	3.4%	10.2%
保存・活用のための寄付	8.0%	12.8%	-4.8%
地域の史跡や文化施設等のガイドボランティア	7.7%	19.7%	-12.0%
その他	1.3%	2.6%	-1.3%

### (4) 「歴史・文化」の保存・活用の方向性

・「歴史・文化」などの保存・活用の方向性について、市民では「歴史・文化の次世代への継承」が最も回答が多く、中学生では「みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用(郷土愛)」と「観光を盛んにして賑わいをつくる」が共に42%程度で回答が多くなっており、市民の次世代の継承への方向性に対して、次世代である中学生は観光振興や市民全体での郷土愛での活用との回答になっている。

・中学生の回答では市民の回答に比べ、「観光を盛んにして賑わいをつくる」、「現状のまま保存していく」との回答が多くなっており、現状を維持し観光で活用していくイメージが強い傾向にある。

項目	①中学生	②市民	①-②
みんながまちを好きになるように歴史・文化を活用(郷土愛)	42.8%	57.3%	-14.5%
観光を盛んにして賑わいをつくる	42.4%	33.3%	9.1%
歴史・文化の次世代への継承	38.6%	63.2%	-24.6%
国内外への知名度向上などによるまちのブランド化	28.7%	45.3%	-16.6%
地域ごとの特色を活かしたまちづくり	28.1%	37.6%	-9.5%
イベントなどだけではなく、気軽に接することができる日常生活に寄り添った活用	26.3%	40.2%	-13.9%
現状のまま保存していく	18.6%	10.3%	8.3%
わからない	10.5%	0.9%	9.6%
地域のビジネスでの活用	10.1%	21.4%	-11.3%
その他	2.6%	0.9%	1.7%

## 5. 文化財に関するアンケート調査（所有者アンケート調査）

### (1) あなたとあなたの所有されている文化財について

問1 差し支えなければ、連絡先を教えてください。

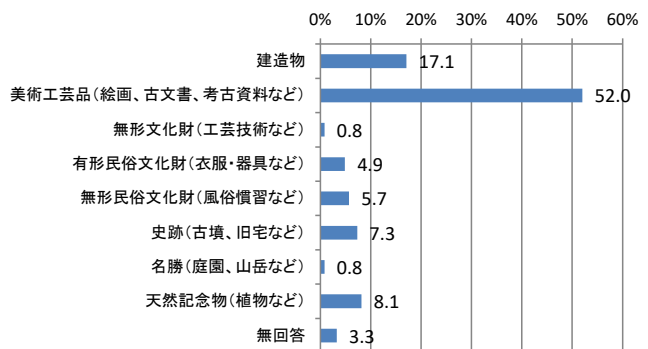
・所有者名（団体名）、回答者名、電話番号を記入。

問2 所有されている下記の文化財について、保存状態を教えてください。（下段の選択肢の中から1つ選び、番号をお書きください。所有者が変わった場合は、新所有者名もご記入ください。複数所有されている場合は、それぞれご記入ください。）

・所有している文化財の分類では「美術工芸品（絵画、古文書、考古資料など）」が52.0%で最も多い。

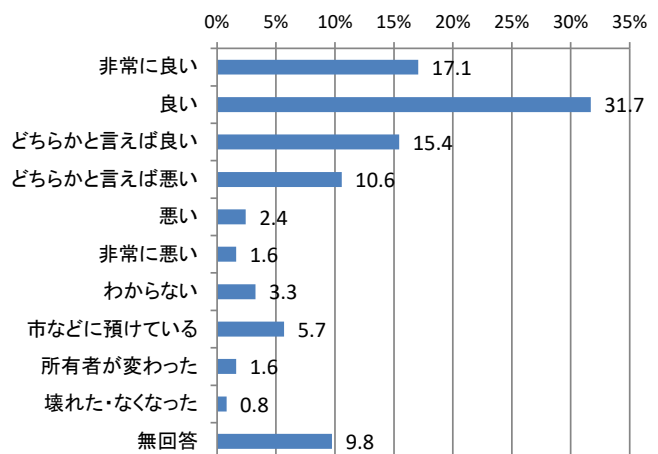
#### 【所有している文化財の分類】

分類	件数	割合
総数	123	100.0%
建造物	21	17.1%
美術工芸品(絵画、古文書、考古資料など)	64	52.0%
無形文化財(工芸技術など)	1	0.8%
有形民俗文化財(衣服・器具など)	6	4.9%
無形民俗文化財(風俗慣習など)	7	5.7%
史跡(古墳、旧宅など)	9	7.3%
名勝(庭園、山岳など)	1	0.8%
天然記念物(植物など)	10	8.1%
無回答	4	3.3%



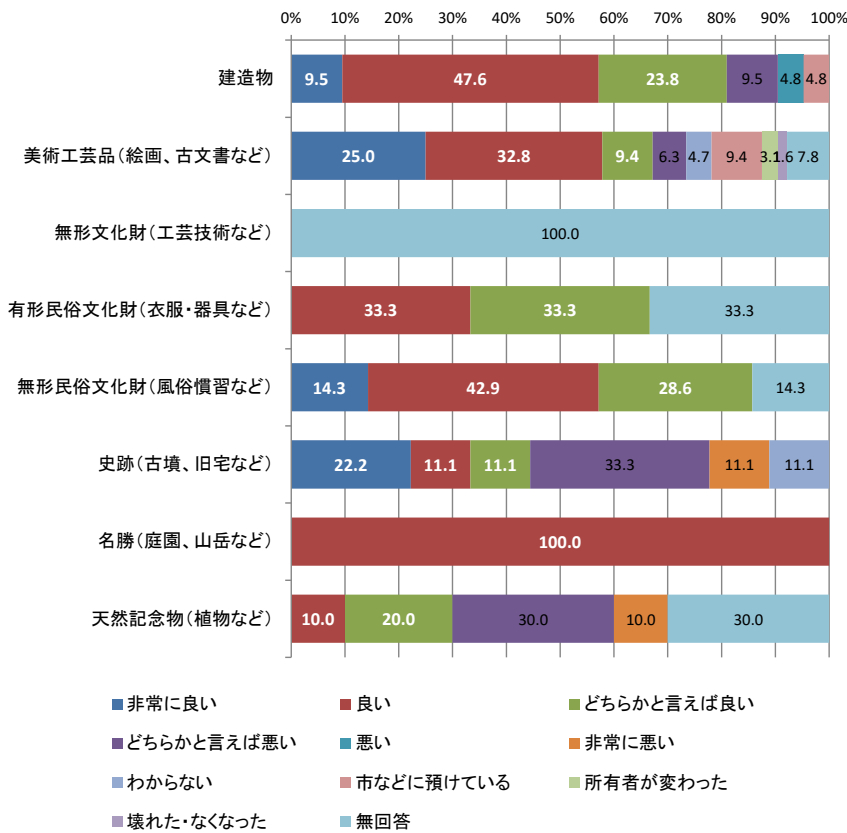
#### 【所有している文化財の保存状態】

保存状態	件数	割合
総数	123	100.0%
非常に良い	21	17.1%
良い	39	31.7%
どちらかと言えば良い	19	15.4%
どちらかと言えば悪い	13	10.6%
悪い	3	2.4%
非常に悪い	2	1.6%
わからない	4	3.3%
市などに預けている	7	5.7%
所有者が変わった	2	1.6%
壊れた・なくなった	1	0.8%
無回答	12	9.8%



### 【文化財の分類毎の保存状態】

・文化財の分類毎の保存状態では、「史跡(古墳、旧宅など)」、「天然記念物(植物など)」では、保存状態が「どちらかと言えば良い」以上の回答が50%以下となっている。



## (2) 所有されている文化財について

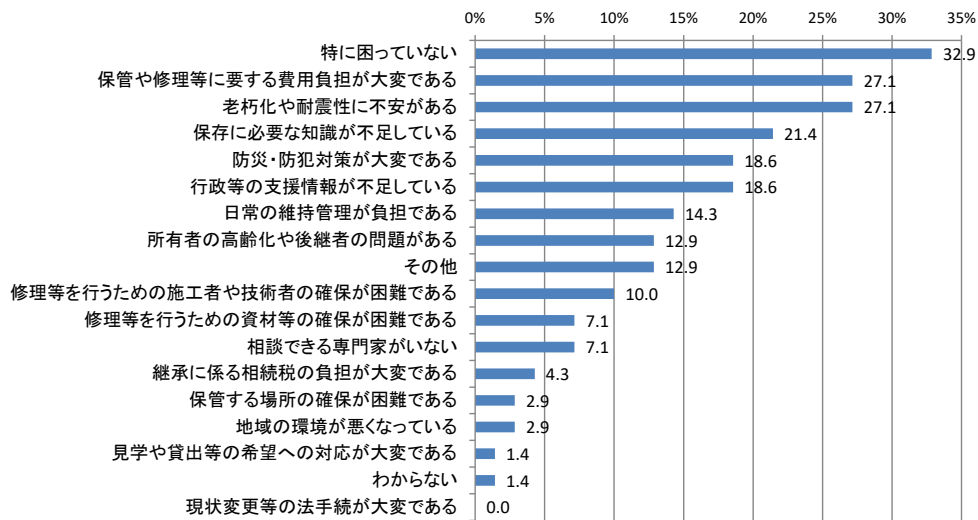
※以下の回答では回答者毎に無回答を除き集計を実施

問3 所有されている文化財の保存にあたって、お困りのことはありますか。

(あてはまるもの全てに○印)

- ・所有されている文化財の保存の困りごとについて、「特に困っていない」との回答が最も多く、回答者の32.9%が回答している。「保管や修理等に要する費用負担が大変である」、「老朽化や耐震性に不安がある」がそれぞれ27.1%で続いている。
- ・「その他」の回答では、「会員の減少」や「観光客の減少」等の回答がみられた。

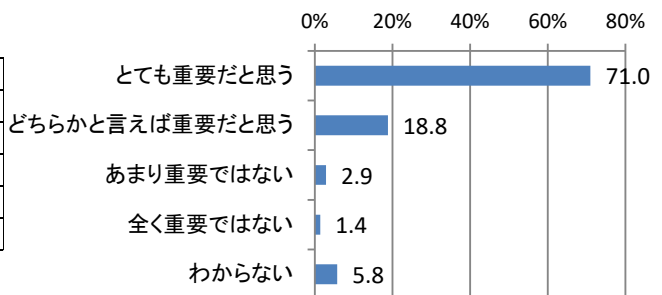
	総数	70	100.0%
特に困っていない	23	32.9%	
保管や修理等に要する費用負担が大変である	19	27.1%	
老朽化や耐震性に不安がある	19	27.1%	
保存に必要な知識が不足している	15	21.4%	
防災・防犯対策が大変である	13	18.6%	
行政等の支援情報が不足している	13	18.6%	
日常の維持管理が負担である	10	14.3%	
所有者の高齢化や後継者の問題がある	9	12.9%	
その他	9	12.9%	
修理等を行うための施工者や技術者の確保が困難である	7	10.0%	
修理等を行うための資材等の確保が困難である	5	7.1%	
相談できる専門家がいない	5	7.1%	
継承に係る相続税の負担が大変である	3	4.3%	
保管する場所の確保が困難である	2	2.9%	
地域の環境が悪くなっている	2	2.9%	
見学や貸出等の希望への対応が大変である	1	1.4%	
わからない	1	1.4%	
現状変更等の法手続きが大変である	0	0.0%	



**問4 所有する文化財を保存し、地域の宝として次世代に伝えていくことは重要だと思いますか。(1つに○印)**

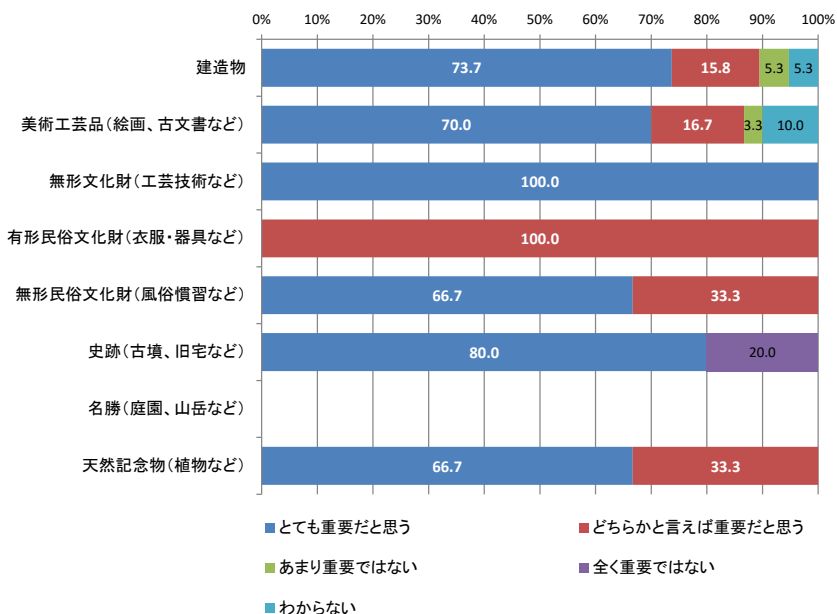
・所有する文化財を保存し、地域の宝として次世代に伝えていくことについて、「とても重要だと思う」が71.0%で最も多く、「どちらかと言えば重要だと思う」との回答は18.8%となっており、重要と回答した方の合計は89.8%となっている。

総数	69	100.0%
とても重要だと思う	49	71.0%
どちらかと言えば重要だと思う	13	18.8%
あまり重要ではない	2	2.9%
全く重要ではない	1	1.4%
わからない	4	5.8%



**【文化財の分類別の回答】**

・文化財の分類毎の保存状態では、「無形民俗文化財(風俗慣習など)」、「天然記念物(植物など)」では「とても重要だと思う」との回答が70%未満となっている。



問5 問4で答えたその理由を自由にご記入ください。

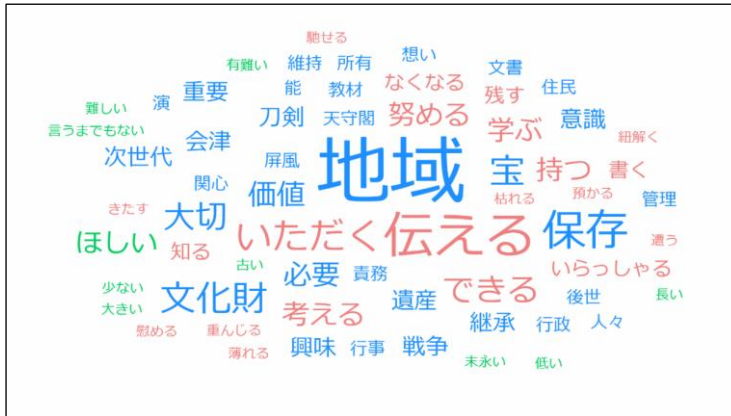
【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール ( <https://textmining.userlocal.jp/> ) により分析

【次世代への継承が重要だと回答した方】

■ ワードクラウド

・「地域」、「保存」、「伝える」等の単語がよく回答されている。



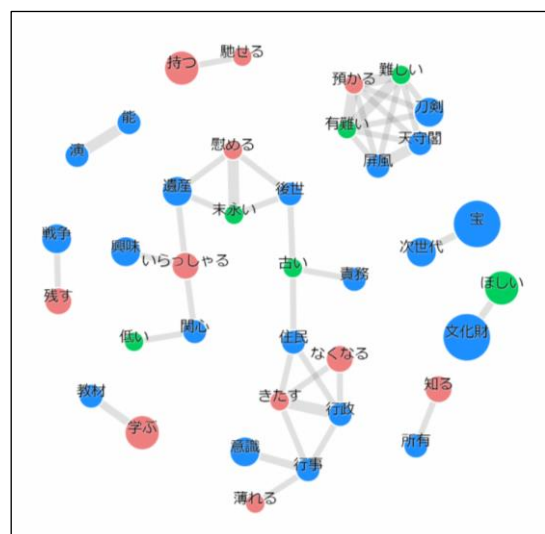
■ 単語出現度

・「地域」や「保存」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
地域	名詞	16	価値	名詞	4
保存	名詞	8	必要	名詞	4
文化財	名詞	6	会津	名詞	3
宝	名刺	6	遺産	名詞	3
大切	名詞	5	次世代	名詞	3

■ 出現パターン

・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「宝」は「次世代」と、「文化財」と「ほしい」、「教材」と「学ば」等が関連して出現している。



【次世代への継承が重要でないと回答した方】

・「興味のある人がいない」、「地域で大切と思っていない」等の回答が挙がっていた。

## ■ 結果まとめ

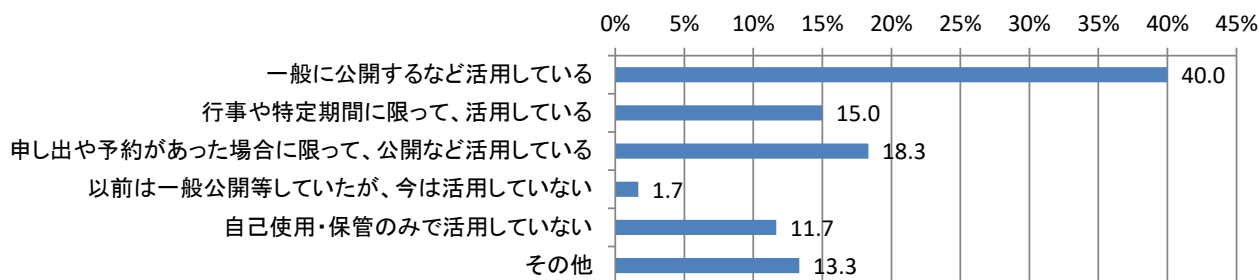
- ・次世代への継承が重要だと回答する理由としては、「地域の宝として次世代へ伝えていくことを責務や当然と考えている」、「地域の歴史を学ぶことが出来る」等の回答が挙がっていた。
- ・次世代への継承が重要でないと回答する理由としては、「地域や市民など興味を持つ人がいない」等の回答がみられた。

### (3) 所有されている文化財の活用について

#### 問6 所有されている文化財を現在どのように活用されていますか。(1つに○印)

- ・所有する文化財の活用について、「一般に公開するなど活用している」が 40.0%で最多となっており、「申し出や予約があった場合に限って、公開など活用している」が 18.3%で次点となっている。
- ・「その他」の回答では、「県立博物館で展示」等の回答が挙がっていた。

活用方法	件数	割合
総数	60	100.0%
一般に公開するなど活用している	24	40.0%
行事や特定期間に限って、活用している	9	15.0%
申し出や予約があった場合に限って、公開など活用している	11	18.3%
以前は一般公開等していたが、今は活用していない	1	1.7%
自己使用・保管のみで活用していない	7	11.7%
その他	8	13.3%

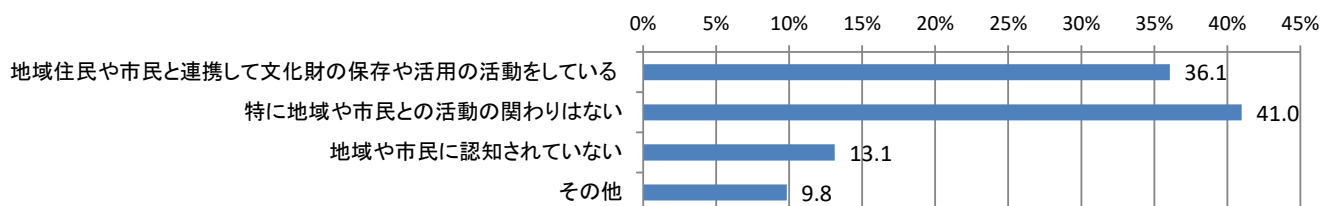


#### 問7 所有されている文化財と地域や市民との関わりの現状について教えてください。

(1つに○印)

- ・所有する文化財と地域との関わりについて、「特に地域や市民との活動の関わりはない」が 41.0%で最多となっている。
- ・「その他」の回答では、「観光協会」や「市の美術展への出展」等の回答が挙がっていた。

関わり状況	件数	割合
総数	61	100.0%
地域住民や市民と連携して文化財の保存や活用の活動をしている	22	36.1%
特に地域や市民との活動の関わりはない	25	41.0%
地域や市民に認知されていない	8	13.1%
その他	6	9.8%

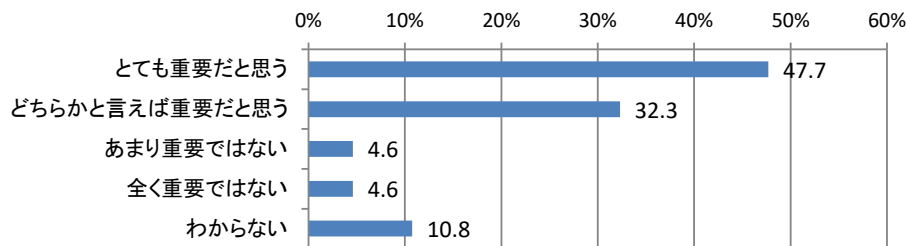




**問8 所有する文化財の活用は重要だと思いますか。(1つに○印)**

- ・「とても重要だと思う」が 47.7%、「どちらかと言えば重要だと思う」が 32.3%となっており、回答者の 80.0%が所有する文化財の活用は重要だと考えている。
- ・所有する文化財の次世代への継承と比べると、活用をとても重要だと考える割合は低くなっている。

総数	65	100.0%
とても重要だと思う	31	47.7%
どちらかと言えば重要だと思う	21	32.3%
あまり重要ではない	3	4.6%
全く重要ではない	3	4.6%
わからない	7	10.8%



**【次世代への継承との回答割合の比較】**

回答項目	所有する文化財の次世代への継承	所有する文化財の活用
とても重要だと思う	71.0%	47.7%
どちらかと言えば重要だと思う	18.8%	32.3%
あまり重要ではない	2.9%	4.6%
全く重要ではない	1.4%	4.6%
わからない	5.8%	10.8%

**問9 問8で答えたその理由を自由にご記入ください。**

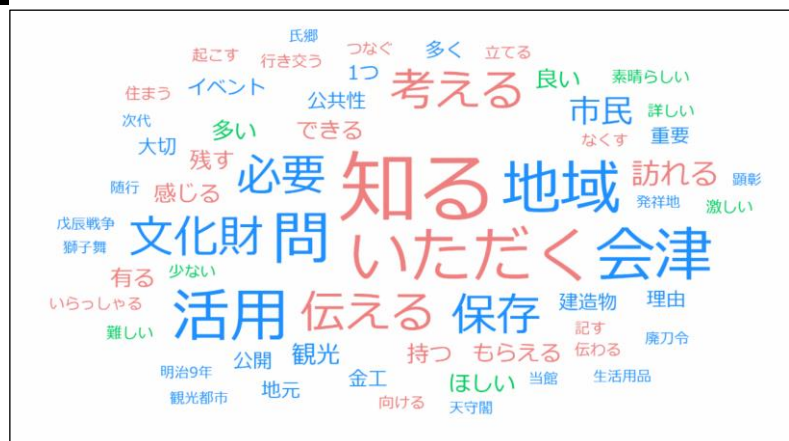
**【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】**

※ユーザーローカル テキストマイニングツール ( <https://textmining.userlocal.jp/> ) により分析

**【文化財の活用が重要だと回答した方】**

■ワードクラウド

- ・「知る」、「地域」、「必要」等の単語がよく回答されている。



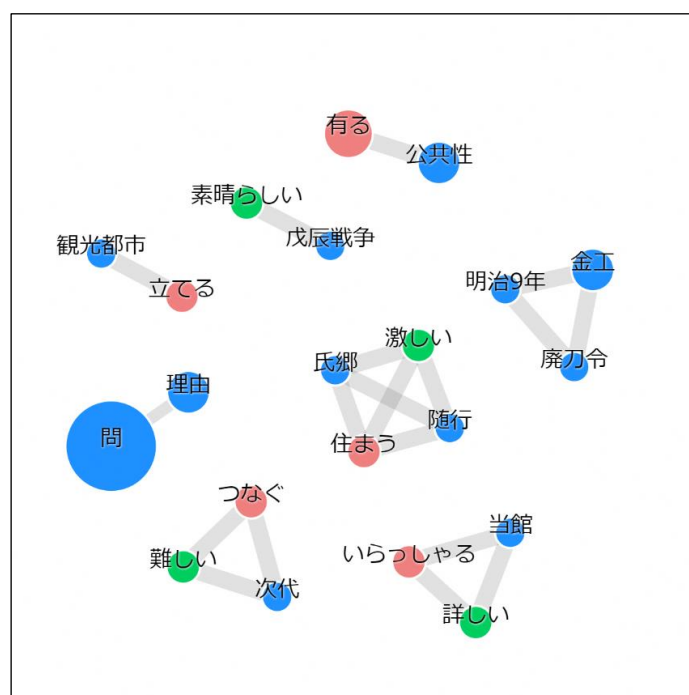
## ■ 単語出現度

・「活用」や「市民」、「観光」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
会津	名詞	6	必要	名詞	4
活用	名詞	6	市民	名詞	4
地域	名詞	6	観光	名詞	3
文化財	名刺	5	重要	名詞	2
保存	名詞	5	イベント	名詞	2

## ■ 出現パターン

・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「次代」は「難しい」や「つなぐ」等が関連して出現している。



### 【文化財の活用が重要でないと回答した方】

・「文化財を活用することの意味が分からない」、「知っている人も少ないし興味のある人もいないから」、「後継者がいない」等の回答が挙がっていた。

## ■ 結果まとめ

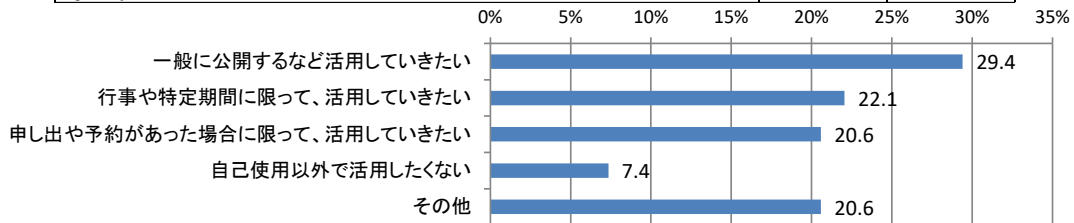
・文化財の活用が重要だと回答する理由としては、「多くの人に知ってもらえる」、「伝えていく必要があるから」、「活用しなければ保存できない」、「観光都市だから」等の回答が挙がっている。

・文化財の活用が重要でないと回答する理由としては、「活用へのイメージが出来ない」、「知っている人が少ない」、「後継者がいない」等の回答がみられた。

**問 10 所有されている文化財について、今後の活用はどのようにお考えですか。(一つに○印)**

- ・「一般に公開するなど活用していきたい」が 29.4%で最も多く、「行事や特定期間に限って、活用していきたい」が 22.1%で続いている。
- ・「その他」の回答では、「現状維持」や「わからない」等の回答がみられた。
- ・現在の活用と今後の活用意向を比較すると、今後の活用意向では、ある程度期間や内容を限定しての活用を希望する割合が多くなっている。

回答項目	件数	割合
総数	68	100.0%
一般に公開するなど活用していきたい	20	29.4%
行事や特定期間に限って、活用していきたい	15	22.1%
申し出や予約があった場合に限って、活用していきたい	14	20.6%
自己使用以外で活用したくない	5	7.4%
その他	14	20.6%



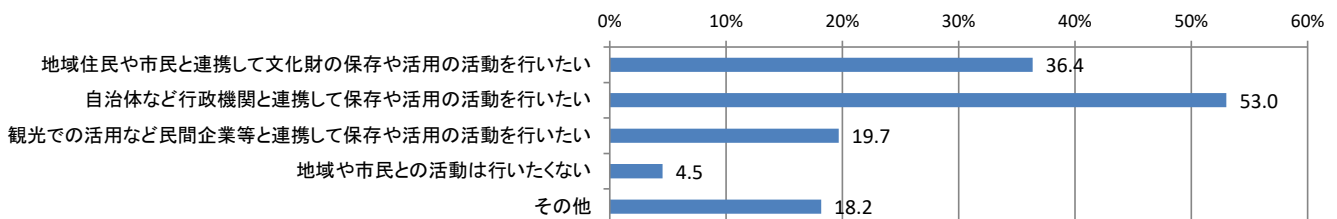
**【文化財活用の現状と今後の意向の比較】**

回答項目	現在の活用	今後の活用意向
一般に公開するなど活用	40.0%	29.4%
行事や特定期間に限って活用	15.0%	22.1%
申し出や予約があった場合に限って	18.3%	20.6%
活用していない/自己使用以外で活用したくない	13.4%	7.4%
その他	13.3%	20.6%

**問 11 所有されている文化財について、今後の地域や市民との関わりはどのようにお考えですか。(あてはまるもの全てに○印)**

- ・「自治体など行政機関と連携して保存や活動を行いたい」が 53.0%で最も多くなっている。
- ・「その他」の回答では、「現状維持」や「わからない」等の回答がみられた。

回答項目	件数	割合
総数	66	100.0%
地域住民や市民と連携して文化財の保存や活用の活動を行いたい	24	36.4%
自治体など行政機関と連携して保存や活用の活動を行いたい	35	53.0%
観光での活用など民間企業等と連携して保存や活用の活動を行いたい	13	19.7%
地域や市民との活動は行いたくない	3	4.5%
その他	12	18.2%



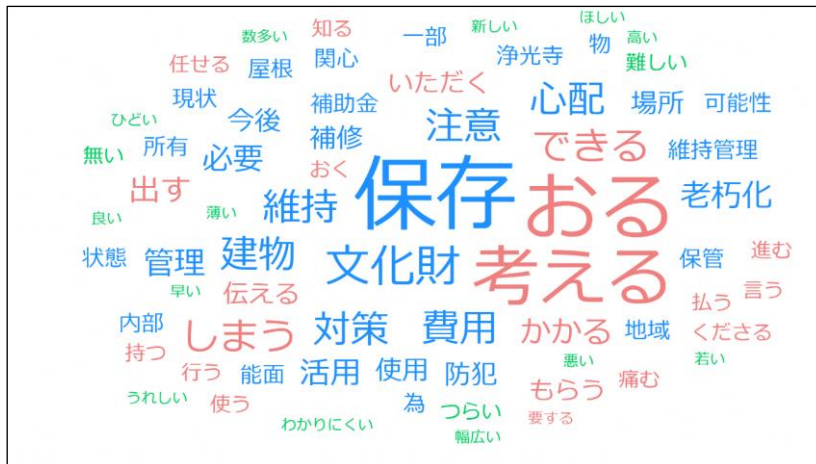
問 12 あなたの所有する文化財の保存・活用について、保存に関し注意していることや心配していること、活用へのお考えについてなどご自由にご記入ください。

【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール ( <https://textmining.userlocal.jp/> ) により分析

■ワードクラウド

・「保存」、「文化財」、「費用」等の単語がよく回答されている。



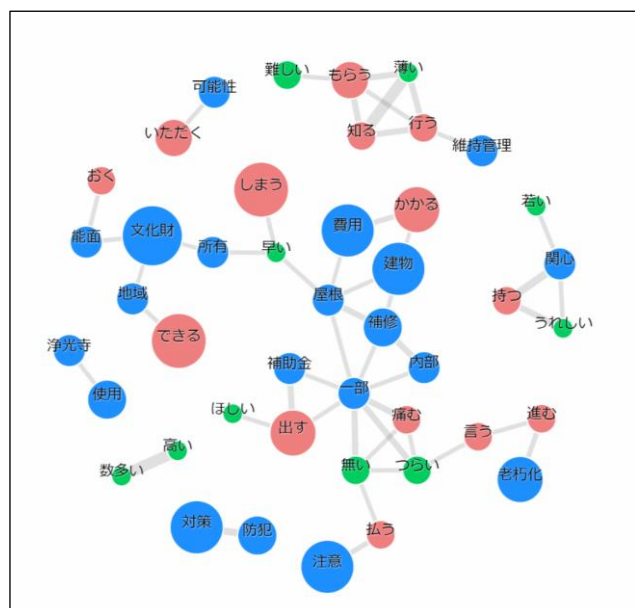
■ 単語出現度

・「保存」や「文化財」に加え、「建物」や「費用」等の単語が多く出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
保存	名詞	12	対策	名詞	6
文化財	名詞	7	注意	名詞	6
建物	名詞	6	心配	名詞	6
費用	名刺	6	老朽化	名詞	5
維持	名詞	6	活用	名詞	5

■ 出現パターン

・出現回数の多いワードの出現パターンをみると、「費用」は「かかる」や「屋根」、「建物」と、「対策」は「防犯」と、「関心」は「若い」や「嬉しい」等と関連して出現している。



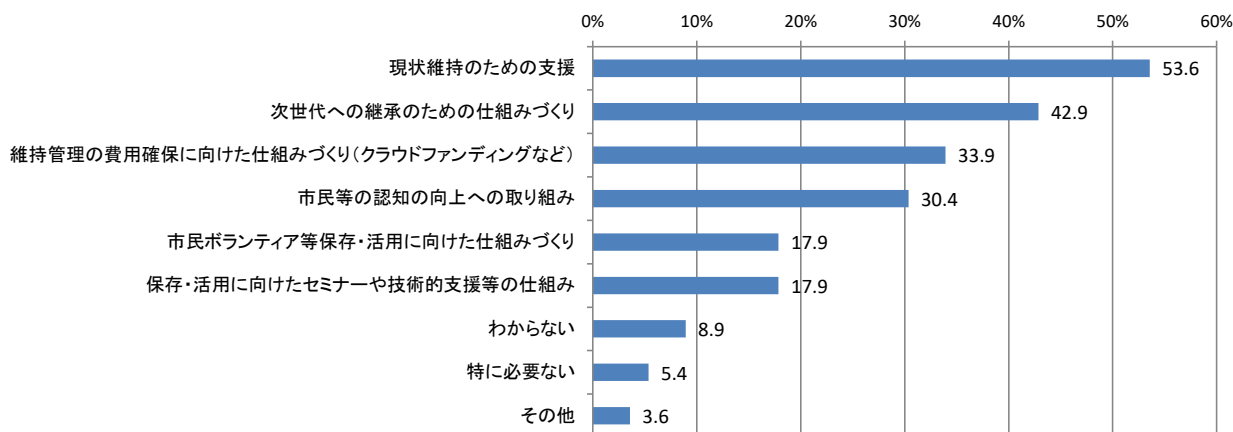
## ■ 結果まとめ

- ・文化財の保存・活用への注意点や心配等について、「老朽化や修繕、資金調達に対して個人での維持管理や実施が難しい」、「若い人の関心がない」、「地域住民との関係が希薄になっている」、「防犯が心配」、「人が育たなければ保存も活用も形だけになってしまう」等の意見が挙がっている。

**問 13 今後、所有されている文化財の保存・活用を考えていく場合どのような仕組みや取り組みが必要であるとお考えですか。(あてはまるもの全てに○印)**

- ・所有されている文化財の保存・活用に必要な仕組みや取り組みについて、「現状維持のための支援」が最も多く53.6%の人が回答している。「次世代への継承のための仕組みづくり」が42.9%、「維持管理の費用確保に向けた仕組みづくり(クラウドファンディングなど)」が33.9%で続いている。
- ・「その他」の回答では、「文化財の意義や重要性の周知」や「行政の関わり」等の回答がみられた。

総数	56	100.0%
現状維持のための支援	30	53.6%
次世代への継承のための仕組みづくり	24	42.9%
維持管理の費用確保に向けた仕組みづくり(クラウドファンディングなど)	19	33.9%
市民等の認知の向上への取り組み	17	30.4%
市民ボランティア等保存・活用に向けた仕組みづくり	10	17.9%
保存・活用に向けたセミナーや技術的支援等の仕組み	10	17.9%
わからない	5	8.9%
特に必要ない	3	5.4%
その他	2	3.6%



## (4) 会津若松市の歴史・文化の保存・活用について

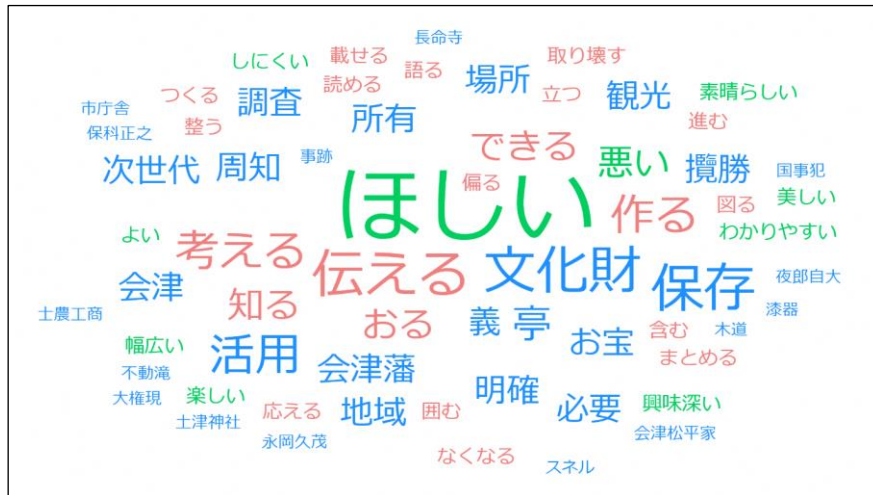
問 14 保存・活用してほしいと思う、あなたが好きな会津若松市の「歴史・文化」など地域の「お宝」について自由にご記入ください。

### 【自由記述へのテキストマイニングによる分析結果】

※ユーザーローカル テキストマイニングツール( <https://textmining.userlocal.jp/> )により分析

#### ■ ワードクラウド

・「ほしい」、「伝える」、「文化財」等の単語が多くなっている。



#### ■ 単語出現度

- ・「文化財」や「保存」が最も多く出現している。
- ・その他に、「攬勝亭」や「会津藩」、「観光」等の単語が出現している。

単語	品詞	出現回数	単語	品詞	出現回数
文化財	名詞	5	周知	名詞	2
保存	名詞	5	お宝	名詞	2
活用	名詞	4	次世代	名詞	2
攬勝亭	名刺	3	調査	名詞	2
会津藩	名詞	2	観光	名詞	2



## 5 ヒアリング調査

### 1. 調査概要

#### (1) 調査の目的と趣旨

本調査は、会津若松市や各地域における歴史や文化の特色、歴史や文化の保存・活用に関する現状や意向等について把握し、「文化財保存活用地域計画」策定の資料とするため、文化財の保存・活用等に関わる個人・団体や関連事業者を対象に実施した。

#### (2) 調査の対象・調査実施日

調査	調査対象	実施日
地区別ヒアリング調査	大戸史跡保存会	令和2年12月17日
	北会津郷土史研究会	令和2年12月18日
	会津河東史談会	令和2年12月18日
	中村五郎氏	令和2年12月21日
	みんなと湊まちづくりネットワーク	令和2年12月21日
	五十嵐義氏	令和2年12月23日
	会津史談会	令和2年12月24日
	会津史学会	令和2年12月24日
	渡邊明氏	令和2年12月24日
	前田宜裕氏	令和2年12月25日
	平出美穂子氏	令和2年12月25日
	飯盛商店会	令和2年12月25日
	事業者ヒアリング調査	スマートシティAiCT
会津大学短期大学部		令和2年12月17日
凸版印刷株式会社		令和2年12月17日
旧滝沢本陣		令和2年12月18日
会津藩校日新館		令和2年12月23日
会津若松観光ビューロー		令和2年12月24日

#### (3) 調査方法

調査	調査方法
地区別ヒアリング調査	対面によるヒアリング調査
事業者ヒアリング調査	対面によるヒアリング調査

#### (4) 調査項目

調査	調査内容
地区別ヒアリング調査	①会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について ②地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
事業者ヒアリング調査	①会津若松市の文化財(歴史・文化)に関する認識や活用の現状 ②文化財に関する今後の活用の意向・アイデア ③文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見



## 2. 地区別ヒアリング調査結果

### (1) 大戸史跡保存会

対象	大戸史跡保存会(室井会長、木野氏)		
実施日	令和2年12月17日	実施場所	大戸公民館

#### ■ ヒアリング対象について

- ・保存会は昭和27年に創設。
- ・旧大戸小学校跡に江戸時代後期に活躍した画家である遠藤香村の屋敷があり、それを考証しようというのが始まりである。
- ・文化財の保存が主な活動である。
- ・集まって定期的に、研修旅行などを行っている。
- ・現在10数名在籍(会費はない)。
- ・保存会の会員は高齢化しており、皆70歳以上となっている。

#### ■ ヒアリング設問

問: 会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大戸の窯跡は、東日本最大の窯跡であり、奈良時代～室町時代までの200数十基見つかっている。</li> <li>・窯跡も発掘したところは、どこにあるかはわかりやすかったが、最近は見えづらくなっている。</li> <li>・鹿目伊豫(芦ノ牧の地頭)の墓と共に市指定天然記念物のいちいの木(樹齢約400年)があり、保存会が設立間もなく作製した説明看板もある。保存会で整備しているが、地元の方々も整備しているようだ。</li> <li>・江戸時代の街道の一部が残っており、そこに一里塚が残っている。</li> <li>・会津洋画の先駆者である遠藤香村の絵は市でも数枚所有している。</li> <li>・地区に秋のお祭りは多くある。</li> <li>・金峯神社には石の祠がある。</li> </ul>
問: 地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠藤香村碑、看板を保存会で整備した。</li> <li>・金峯神社の祭りなどで集まる場所を整備し、いわれを書いた看板を設置した。</li> <li>・大戸の窯跡のパトロールを月1回以上行っており、維持管理している。(市との委託契約)</li> <li>・一里塚を保存会で歩いたことがある。看板なども作ってきた。木柱は保存会で建てた。</li> <li>・南原、香塩、大豆田の3地区で祭りをやっている。それぞれの地区で管理している山車も出て、3台まとまって子ども達が引く。子供が少なくなり、馬越などからも子供が参加している。</li> <li>・祭りの運営は地区ごとに係がある。</li> <li>・子どもへの祭りの伝承も、子どもも教える方も少なくなり、できなくなっている。</li> <li>・今後も文化財を巡回し、維持管理していく。</li> </ul>

#### 問: その他

- ・若い人に声をかけているが、難しい。香塩地区に香村会というものがあるらしいが、実際は活動していないようだ。
- ・他の保存会との交流はない。

### (2) 北会津郷土史研究会

対象	北会津郷土史研究会(八木橋会長)		
実施日	令和2年12月18日	実施場所	会津若松市役所

#### ■ ヒアリング対象について

- ・会員数は8名で高齢である。
- ・北会津というより周辺地域に行き見聞を広めている(慧日寺など)。総会も行う。
- ・文化財を広くとらえてやっている。

#### ■ ヒアリング設問

問: 会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<p>&lt;北会津の歴史・文化について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「北会津村の文化財」1号では小松の彼岸獅子、白山沼のイトヨ生息地、平田の櫛の木、田村山古墳を最初に指定。2号では元の蓮華寺の焼け跡からの墨壇の彫刻などが掲載されている。</li> <li>・初期に指定されたものは北会津村のシンボリックなものである。</li> <li>・北会津村は昭和40年ごろから大規模な圃場整備を行ったので、遺跡の発掘調査が行われており、そういったことも「北会津村の文化財」に掲載されている。</li> <li>・郷土行事覚書(昭和53年)は、昔の言い伝えや集落の行事、年中行事、信仰などが墨書きで記載されている。(お正月には暗いうちに川の水を汲んできてお茶を飲む、春先の鳥追いなど)なくなっただけのものも多い。</li> <li>・北会津村村史(昭和42年)は文化財保護条例前に編さんされた。</li> <li>・合併前につくった北会津村史3冊、仏像1つ1つを調査してもらったところ、良いものもあるそうである。</li> <li>・村史には御神明様という信仰(占い)など、昔の風習なども記載ある。合併の際の村史はこちらを基に編集員がかき集めたものを載せている。</li> </ul> <p>&lt;古墳について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめは古墳である。塚のようなものはあちこちにあったが、基盤整備でなくなりました。</li> <li>・田村山は基盤整備前に住民が発掘し、鏡や璧がたくさん出土し、保存している。</li> </ul> <p>&lt;自然について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白山沼のイトヨは、とげがあり、産卵期に色を帯び、巣をつくるなど珍しいということで保存している。地下水が豊富であったが、周辺の環境の変化により、だんだん出てこなくなり、現在は、市でポンプアップしてやっている。環境の変化により、イトヨの大きさが小さくなっている。</li> <li>・蛍の数が減った時に、ふるさと創生事業にて、ホテルの保護を行い、市の事業でホテル祭りをやっている。</li> <li>・蛍(ゲンジボタル)の飼育をしており(文化財にしている)中学校の体験授業でもホテルの飼育をした。公民館のそばに蛍小屋(養殖)がある。</li> <li>・ホテルの里をまもる会は、平成の初め頃、北会津で募集し、当初100名くらいで飼育した。</li> <li>・ホテル祭りを開催、現在は商工会に移管し、有名になったが、農産物売る機会となった。</li> <li>・農産物のマークに蛍が入っていたりする。マスコットや曲をつくったりしている。</li> </ul> <p>&lt;文化祭・彼岸獅子について&gt;</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和 40 年代後半から、文化財保護調査員が中心となり、北会津村の文化祭をやるようになった。そこで文化団体などが踊りなどを住民に発表する場としたり、絵画などの発表をしたり、北会津郷土史研究会も昔の住居を再現したりした。(発掘した土器を置くなどした。)</li> <li>・文化祭は合併後の今も公民館ごとに行っている。</li> <li>・彼岸獅子は他にもあるが、小松の彼岸獅子は昔から言われがあり、唯一葵の紋があることから文化財に指定された。</li> <li>・彼岸獅子の、獅子役は小松の長男しかできない。あとは太鼓や弓。</li> <li>・彼岸獅子なので春の彼岸に披露しているが、要望により活動している(本来は厄払い)。保存会が組織されている。</li> </ul> <p>&lt;景観の変化について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もとは、木々が生い茂り、丘があるなどして、隣の集落がわからなかった。圃場整備により平坦になった。</li> <li>・区画が整い、稲を植えたときにすごくきれいであった。減反政策により、部分的にハウスが建ち、別の作物が植えられ、一面の景色ではなくなってしまった。</li> <li>・本郷の山から見た田園風景はすばらしい。</li> <li>・北会津村の伝説を、まとめたものがある。行事覚書書の様なことにも触れている。</li> </ul> <p>問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について</p> <p>&lt;旧北会津村時代の保存・活用について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心のある人で郷土史研究会をつくり、それぞれの研究分野を集めて 1 冊の冊子などを手作りしていた。</li> <li>・今は、そういった専門家というよりも、やってみようという初任者の方が多く、本は作っていない。</li> <li>・北会津村で昭和 47 年に文化財保護条例をつくり、文化財の調査員を配置した。北会津の文化遺産を発掘してまとめていくということで、それぞれの関心のある分野を集めて毎年冊子「北会津村の文化財」を作成していた。(合併するまでの 29 年分を合併時にまとめている)</li> <li>・冊子には有形無形の文化財が載っており、最初は、指定した指令書の様なレベルで作っていたが、次第に委員の人たちも勉強し、専門的に記載された部分もある。</li> <li>・行政も「北会津村の文化財」に力を入れてきたようで、冊子は各家庭に配布されていた。</li> <li>・調査員は昭和 50 年代、県の指導で保護審議員となり、1 冊にして配布することにより、旧村民に普及して啓蒙したりしていた。その活動で、基盤整備工事の時は発掘調査をして、収集した土器もたくさんある。遺跡が複合扇状地で、石器が多く発掘された。</li> </ul> <p>&lt;現在の住民の文化への意識について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白山沼のイトヨに関しては住民の誇りが薄れている。住民としては、現在は蛍の方が、関心があるようだ。</li> <li>・全体的に何らかの団体に入ることが薄れてきており、団体の維持が難しくなっている。</li> <li>・昔、川南小学校の学科外授業では彼岸獅子を教えていた。子ども用の獅子頭を作った。今はやっているかわからない。教える方も高齢化している。</li> <li>・小松の彼岸獅子は一度途切れかけた(戦争の際は途切れた)が、有志が思いだして作られた。</li> <li>・「小松獅子舞考」(坂井正喜、昭和 63 年)に踊りの詳細が記載されている。</li> <li>・葵の紋をもらっているということもNHK で取り上げられたこともあり、他の獅子とは違う、という意識もあり続いているのかもしれない。</li> <li>・獅子の担い手は職業が違ったり休みのタイミングなども違い、難しい。</li> <li>・田村山は、地域の人が草刈り等している。白山沼も、下流の水を利用する方々が沼払いしている。だが沼は水が湧かなくなり、市でポンプアップしている。</li> </ul> <p>問:その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツや趣味のつながりが多くなり、昔からのつながりがほとんどなくなった。</li> <li>・観光農業を見据えて、季節に合わせて蓮華や菜の花などを植えられたらよいが、所有者の問題で難しい。</li> <li>・北会津ワイン(鈴漕地区)醸造権の取得が難しい明治の頃に、神戸へ赴いて取った醸造権で現在個人醸造しているが、そこまで広まっていない。</li> </ul>
---

### (3)会津河東史談会

対象	会津河東史談会(内山会長)		
実施日	令和 2 年 12 月 18 日	実施場所	会津若松市役所河東支所

#### ■ ヒアリング対象について

- ・会津河東史談会は 50 年以上の歴史がある。組織の会員は高齢化が進んでいる。
- ・郡山遺跡に、看板を設置したことが会津河東史談会の始まりである。
- ・今年度はコロナの影響もあり活動があまり出来ていないが、年に 1 回は会誌を発行している。史跡探訪を年に 2 回実施している。(会津高田や坂下、田島、喜多方等)史跡探訪では、公民館のバスを利用している。
- ・夏休みの研修や講座を子供向けに、会員に対しても講座を実施している。
- ・女性向けの座談会も実施。
- ・会員は現在 80 名、300 人規模だった時期もあった。
- ・河東村の当時は、村から研究費をもらっており、会員も多かった(各集落の有志、議員、町長が顧問であった)。合併によって予算はなくなった、会費は町内の事業者さんに広告費を頂き出版している。

#### ■ ヒアリング設問

<p>問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について</p> <p>&lt;個別の文化財について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・熊野三社は、源頼義が討伐時に、戦勝を祈願した。その後、打替山に立てこもったものである。熊野三社はのちの時代に喜多方へ移された。</li> <li>・高館跡は、家老が入ったものである。高館の碑が立っている。</li> <li>・融通寺跡は、天皇直属の寺であり戊辰戦争の時に焼かれなかった寺の跡である。</li> <li>・八田野一里塚は、会津五街道の二本松街道の一里塚であり、立派であるため保存している。</li> <li>・代田組郷頭風間家墓所は、立派ではないが、現存している。</li> <li>・十六橋は、戊辰戦争でなかなか壊れなかった橋であり、現物も残っている。</li> <li>・戸波遺跡は、島集落にあり、現状は畑である。</li> <li>・古屋敷跡は、貝塚である。明治大正昭和にかけて養鶏者が貝殻を養鶏に食べさせていたらしい。</li> <li>・南原遺跡は、河東学園の裏の谷沢の丘陵である。ここで発掘された遺物の多くが河東支所で展示されている。</li> <li>・甘石山でとれる甘石は、柔らかく加工しやすい石である。火消し壺という暖房器具に使われていた。</li> <li>・弘法山には、磐梯山が噴火した際に、弘法大師が祈禱したという伝説がある。</li> <li>・日橋川新橋は、輩名が伊達政宗から逃げる時ために橋を下した場所である</li> <li>・風間大明神は、発掘したら様々な遺物が出てきた。</li> <li>・新四郎堀周辺は、白虎隊が戦った場所であり、白虎隊の孫が碑をたてている。</li> <li>・旧戸の口廻船問屋五十嵐家には、以前に会津藩の米蔵があり、廻船問屋を通して船で向こう岸まで運んだ。旧会津中学校の漕艇上の基地もあった。</li> </ul>
---

<ul style="list-style-type: none"> <li>赤井谷地は、いくつかの北方の植物の南限地域である。天皇陛下（昭和天皇）が訪れ、ほろむいいちごをご覧になった。</li> <li>塩の道は、新潟から郡山の安積へ続く道である。</li> <li>史談会の活動として看板設置を、郡山遺跡→蘭方医古河春英墓所（八重の桜に出てきたため）→旧六丁原代官所跡→打替山→代田組郷頭荒井家の順に行った。</li> <li>子ども達への研修は、十六橋、古戦場、八業寺、八田野一里塚、蘭方医古河春英墓所、旧六丁原代官所跡、蘭方医古河春英墓所、藤倉二階堂を回るコースで、大体 2 時間程度のものである。</li> <li>会誌は、研究発表の場である。</li> <li>お金が集まれば、文化財のマップを作成しようと考えている。</li> <li>昨年の文化祭では、段ボールで立体的な文化財マップを作った。展示で会に興味を持つ人もいる。</li> </ul>
問：地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<p>&lt;会津河東史談会の状況について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一番若い会員は 40 代である。友達経由でのつながりから紹介で入会している。会費は 3500 円である。</li> <li>合併する前は区長など全員入っていた。発掘調査の参加者などは相当数いた。</li> <li>会員は 5 人ずつくらい入っては辞め、入っては辞めを繰り返している。</li> <li>会津には同じような組織がいっぱいあるが、中身がなくなってきており、組織自体もなくなってきている。</li> <li>河東が残っているのは熱意、地に足をつけて活動しているからでないか。昨年の現地調査の報告会も 100 人程度集まる。</li> <li>文化財について知ってもらうことを頑張っている。子どもたちにも情報発信していこうと思っている。</li> <li>戦時中、敗戦したら高塚山が噴火して電信柱に花が咲く（負けないの意）という歌を歌わされていた。大東亜戦争もどうつたえるか考えなくてはならない。大東亜戦争は戊辰戦争の反省も踏まえられていなかったと感じる。戊辰戦争の跡の近現代をどう伝えるかも考える必要がある。</li> </ul> <p>&lt;今後の活動について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>河東の集落について冊子にしようかと思っているが、予算がない。今の行政はそこに予算が出ない。</li> <li>足元の歴史を皆もつと振り返ってほしいので、郷土史のマップを是非作りたい。住民の半数は外から来た人である。外から来た人が話を聞き、散策できる環境が歴史に関する認識がまとまってくると思う。</li> <li>東高野壱田之碑があり。集落の生い立ちも確認して、新たな碑を建てようかと検討している。</li> <li>各集落で掘り出していけばまだまだ変わったものが出てくると思われる。</li> <li>集落に残る屋号の調査を行っている。</li> <li>郡山郡衙をうまく利用していきたい。</li> </ul> <p>&lt;会津史談会との連携について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会津史談会と会津河東史談会の両方に入っている会員がいる。会津河東史談会の会員が会津史談会の重要な役職についている。</li> </ul>
問：その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>開拓の余地は広く、会員も勉強熱心である。</li> </ul>

#### (4) 中村五郎氏

対象	中村五郎氏
実施日	令和 2 年 12 月 21 日
実施場所	会津若松市役所

##### ■ ヒアリング対象について

・福島県文化財保護審議会委員や福島県考古学会顧問等を歴任してきた。

##### ■ ヒアリング設問

問：会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴（地域のお宝・おすすめ理由等）について
<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代のは、子孫が最近どんどんいなくなり、お寺に立派なお墓があっても、後継ぎがない。</li> <li>立派なお墓も壊されなくなってしまうのではないかと懸念がある。何か取っておける場所がないかと考えている。</li> <li>大窪山の墓地なども、誰がどのように残し、管理していくの不明瞭である。写真ぐらいは撮って管理したいと考える。</li> <li>どこにどういとお墓があるのかというところから、組織を作って調べられればよいと思う。</li> <li>会津若松の市民の認識については、手順を踏んでいけば今のようにならなかった。関心を持たせなかったから、市民の関心がないのではないかと。考古学の観点からの考古学と役場の考古学に相違がある。図書館でいろいろな資料もあるのだが、公開されていない。</li> <li>足軽クラスの家だと古くても見逃しているのではと思う。足軽クラスの家のもので、今となれば貴重品である。江戸時代の建物など、立派なものに残りやすい。</li> </ul>
問：地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<ul style="list-style-type: none"> <li>中町の旧安田銀行跡の病院（野口英世が手術した医院）が、文化財になればよい（旧銀行自体は明治村に移転している）。明治時代に建築、市の方で台帳を見ればわかるはず（明治 10 年代～20 年代）。銀行時代、担保のために土蔵もついていたが、明治村への移転時に土蔵だけ残っていた。家を持っている方は土蔵の中に柱があって、野口氏もサインしているという。もう少しきちんとすれば、中心にできるのではないかと。</li> <li>大戸の窯と本郷を結びつけて何か盛り上げられないだろうか。</li> <li>学校の校長や教師が定年になったら中間層になってもらい、そういう仕事をしてもらったりすればよいのでは。歴史好きの先生の市民講座などどうか。そこでしか撮れないお墓の写真や撮ったり、仏像の写真撮ってそれを活かしまちをガイドする等、退任後の教師にお願いするのはどうか。</li> <li>歴史のグループが作れるような、風通しの良い環境が必要。皆が垣根を外し情報共有していけばよい。歴史だけでなく、自然分野についてもそのようにあればよいと思う。</li> <li>町内会を活用してはどうか。</li> <li>若松市民は定住志向が強い。会津に根を下ろすために、一つのを掘り下げるための支援をすればよい。</li> </ul>
問：その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>年中行事で、お正月にはだんごさしなどをしてきたが今はできる人がいない。できる人がいれば、地区の会館などで実演する等、やる人も聞く人も負担にならないように開催するのもよい。地域での年中行事を伝えていくのも大事である。</li> </ul>

## (5) みんなと湊まちづくりネットワーク

対象	NPO 法人 みんなと湊まちづくりネットワーク(小松山会長、鈴木氏、上野氏、大竹氏)		
実施日	令和 2 年 12 月 21 日	実施場所	湊公民館

### ■ ヒアリング対象について

- ・地域活性化協議会としてスタート。平成 26 年秋～27 年から組織として名前を変えつつ、現在 NPO 法人として活動。
- ・歴史などを守りながら、子どもから大人まで伝えていく活動をしている。
- ・ネットワークには 70 名弱在籍。うち約 3 分の 1 が教育環境部会。
- ・月に 1 度の活動(10～15 名ほどが参加)。

### ■ ヒアリング設問

問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・極力今ある資産を使いながら、あまりお金を使わずに色々なものを紹介したい。</li> <li>・白虎隊関係(戦場跡)、赤井遺跡、大イチョウのライトアップなどもある。</li> <li>・日本遺産・近代遺産群の一部もある。</li> <li>・展望台希望地からは赤井谷地～古墳群が見える予定となっている。</li> <li>・大イチョウ夜会なども行っている。</li> <li>・湊に関東武士が入ったころの板碑はほとんどが区画整備等で動いているが、館山だけは当初の場所のままである。</li> <li>・当時のまま残っているという特徴は素晴らしいことであり、現場を見れば何か見えてくる。</li> <li>・資料としては一級でも、活用(開発)していくことは環境破壊と裏表である。また、大窪山からは古墳の形が見えるが、その素晴らしさを伝えるのは難しい。</li> <li>・赤井谷地は整備すること自体が環境を壊してしまうのではないかと懸念がある。そこに何かできて観光地になってしまっは守れない。</li> <li>・笹山原古墳群は県内一古い古墳と言われているが、一般の人がみな理解できるかというのは難しい。動画的なもので紹介できれば良いと思う。</li> <li>・学びを大切にする方に来てほしいので野外“博物館”という構想になった。</li> <li>・レク公園をうまく使いながら、常に対応説明ができるようになれば良いと考える。</li> <li>・守るためにはお金が必要となるだろう。</li> </ul>
問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<p>&lt;保存・活用に関する取組や状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湊の 116 か所に市の埋蔵文化財包蔵地があり、月 1 回、8 カ所を見回っている。</li> <li>・板碑は鎌倉武士が会津に入った際の、時代がはっきりしたものが多いが、雨などで板碑の保存状態が悪く、手当てが進んでいない。</li> <li>・山城ツアーは年 1 回行っており、今年は 12～13 人程度集まった。</li> <li>・語り部の活動もある。7～8 名程で、湊に伝わる昔話を編集しており、ここ 30 年程、公民館へ寄贈している。</li> </ul> <p>&lt;まちづくりネットワークについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内のネットワークができることにより、住民が湊の文化を再発見するきっかけとなった。</li> <li>・鉄の産地だったことも、この 3～4 年のツアーなどにより具体的になった。</li> <li>・地区には滝が 3 つあるが皆知らない。以前、湊を再発見しようという取組で、タケノコ山の滝めぐりというツアーを企画し 60 人ほどが参加した。</li> <li>・豊臣秀吉が伊達政宗に命令して作らせた太閤道、太閤桜など他にも知られていないものがある。</li> <li>・組織ができたことによって、色々な情報を集めることができた。</li> <li>・湊チャンネルでの発信を行っており、YouTube でも発信している。</li> <li>・ネットワークでは「自治部会(区長会)」「生活・福祉部会(高齢者)」「産業・交流部会(産業、観光)」「教育・環境部会」の 4 部会で構成されている。ほかに湊 PR 隊やルート 294 湊翔会(若者のグループ)もある。</li> <li>・大イチョウライトアップは 35 歳以下で形成する若い(ルート 294 湊翔会)が行ったものである。</li> <li>・教育環境部会は、50 歳くらいの方や元校長などで構成されている。</li> <li>・以前は、ふるさと研究会という組織があり、草刈りなどをしてきたが、高齢で活動が困難となり、大竹さんに声がかかり、現在に至る。現在は、大竹さんのようなガイドを育成している。</li> <li>・今後は、会津刀の玉鋼について検証していきたい。子どもや地域の方、学校などを巻きこみ、砂鉄集めなどからイベントを行い、発信していきたい。</li> <li>・湊の滝めぐりを実施したきっかけは、ここにいながら行ったことがないところもあり、地域には隠れた資源があるだろうという考えから。会津若松だと名所としては難しいが、他市町村なら素晴らしいと思えるレベルである。</li> </ul>
問:その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レク公園の建物を有効活用したい。</li> </ul>

## 6. 五十嵐義氏

対象	五十嵐義氏		
実施日	令和 2 年 12 月 23 日	実施場所	会津若松市役所

### ■ ヒアリング対象について

- ・生物関係の保護に関わる。

### ■ ヒアリング設問

問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<p>&lt;歴史・生活文化に関わるものについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松では、歴史・生活文化が中心となる。</li> <li>・古い稲刈り機等、農家が使ったものはあまり保存されていないので、残した方がよい。唐箕、足踏みの稲扱きなど農村文化に関心を持ってもらおうと文化財として生きてくる。</li> <li>・盆踊り、地域によってだんだんなくなっている。無形文化財を残していくのは大切。神社仏閣関係が主に関わるが、施設によっては協力してもらえない状況もある。</li> <li>・道路元標などは、管理責任は複雑になっている。</li> <li>・門田にある石は形が珍しいらしく、そういうものも残したい。大人だけでなく子どもに知らせていく体制が大切であると思う。</li> <li>・唐人凧、やっこ凧なども文化財としては大事である。唐人凧は、個人的に作成している人はいるようである。</li> <li>・蔵、陶器の枕、漆塗りの台なども昔の人の家、肝煎当りの家なら、出てくるのではないかと。</li> <li>・麻生新田あたりなら掛け軸など出てくるのではないかと。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅は古く、一揆にやられた傷が残る。明治維新以前のもは一切ない。少し離れれば残っているところもあると思うが、新しくなってしまう今、古いものを見せる場所があってもよいと思う。</li> <li>・旧町村において、文化財も引き継いだり、合併して新たに探して指定した文化財はない。基準が様々である。</li> <li>・若い人に伝わっていかない。面倒くさいことはやめようという傾向が強い。</li> <li>・歳の神などは田んぼの問題でなくなってきている。</li> <li>・おたねにんじんも廃れつつある。以前作っていた所もなくなってきている。高付加価値化のため、あえて情報を制限しやっているとこもあるらしいが、それでは発展しないのではないかと。</li> <li>・古い農村の家にいるものが、今やらないとどんどんなくなっていく。</li> <li>・糸車なども見たことはあるが使ったことはない世代。もう捨てられているだろう。回収できれば、今なら使い方は伝えられる。機織り経験のある方は会津に多い(会津木綿など)。</li> <li>・赤べこ、起き上がり小法師を店で絵付け体験などはあるが、売り物でもちゃんとした伝統的なきれいな絵付けのものが少ない。</li> <li>・文化財を保存するにしても将来、子孫が処分する傾向になるだろう。</li> </ul> <p>&lt;自然・生物について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物、赤井谷地の状況も変化してきている。遠くから見ると林が大きくなっている感じがしている。外に比べ中の方はまだよいが、それでもマツは昔より増えている。昔の写真を取っておけば良かったと感じている。ヨシも入り込んでおり、今後対応が必要である。今やらないと間に合わない。</li> <li>・背あぶり山から見る景色はよい、豊臣秀吉が会津に入る際に越えた山とされている。</li> <li>・樹木で指定しているものもある。イチヨウ、サクラ、ケヤキなど。神社管理のものが多い。</li> <li>・昆虫なども暖かい地方のものが入り込んできており、絶滅危惧種として守っていかなければならないものもいるが、名前を出すと取りに来る人がいるので、あまり名前を出せない。</li> <li>・植物なども珍しいものは持っていかれてしまう。イノシシ被害も出てきている。</li> <li>・赤井谷地などは地区の方の協力で状況の確認、散策会などしていただいている。</li> </ul> <p>問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について</p> <p>&lt;取り組むべきことについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人用の資料の他にも、子ども用の資料(修学旅行のパンフレットなど)により、子ども達に伝えていくことが重要である。</li> <li>・文化財を回収して、専門家が解説を作成し、価値は別として、子どもに見せるなどはないか。</li> <li>・30年代までは機織機も使用していたと思う。今は邪魔になってしまっているものでも、子ども達の目に触れられるようにするのが大切である。</li> <li>・ものの使い方もわからなくなっている。メンテナンスの仕方もわからなくなっている。唐箕は使っているところもある。</li> </ul> <p>&lt;盆踊りについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松はあまり盆踊りをやらない。特に櫓を建ててやるまつりは特になく。学校とのタイアップでやろうとしてみるのもよいと思う。運動会で踊る等はあるらしい。会津まつりのとき、各社から呼び集めるのも手かもしれない。</li> <li>・盆踊りの櫓はこの20年で徐々に減ってきた。我々の集落では5年ほど前までやっていた。管理者はわからないが建てようと思えば可能。門田地区では一ノ堰はやっている。若松市内でも建つと子どもの郷土研究に出ている。このまま30年ぐらい経てば建てられなくなるだろう。建てられる人もいなくなるだろう。</li> <li>・現在、櫓をどこか立てて、どこか立っていないか、正確には把握できていない。</li> <li>・盆踊りの櫓建ては地区でやっていた。細木を使い縄で縛って組み立てていた。毎年同じ木を使っていた。そこから、巡業方式で櫓や演奏等セットで他所からくる時代があり、その後、櫓があまり建てられなくなった。</li> <li>・昔の文化を教えたいという高齢者は、農村部に多いと思う。80代の方が良く知っている。</li> </ul> <p>問:その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お酒は情報を公開し競争することで、一気によくなった。そのような流れがよいのではないかと。</li> </ul>
--

## (7) 会津史談会

対象	会津史談会(成田会長、築田氏、安積氏、熊田氏、井上氏、今野氏、齊藤氏)		
実施日	令和2年12月24日	実施場所	会津若松市役所

### ■ ヒアリング対象について

- ・会報「會津史談」を昭和6年から毎年発行、2021年に90周年を迎える。(会津で一番古い)
- ・部局は総務部(取りまとめ)、研修部(現地を訪ね学ぶ文化史講座・古文書講座)、調査部(調査・現地研修)、出版部(出版・引用元の確認)、寺社研究部(保有の仏像や絵画などを含めた寺社の研究)
- ・寺社研究部は、平成初めから、全会津について11冊の本を出している。
- ・会員220名。一時期は600名を超えていた。
- ・好きな部局に入れる。入るときは文化史講座が多い(7~8割)。
- ・全国に会員がおり、市内メンバーは8割程度である。

### ■ ヒアリング設問

<p>問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について</p> <p>&lt;会津若松市の歴史文化のイメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津歴史のイメージとしては、400年前の蒲生氏郷、それ以降の松平になる保科家(保科正之)について、点として置かれた文化財を、面としてきちんと捉えていくことが重要である。</li> <li>・若松城はひとつの大きなものだが、東山の小田山地区(小田山城跡)と西側の神指城跡。若松城は利用されているが、実際はその地区の中で構成されていた3つの城をお城の大きなくくりとして面としてイメージを作りあげていく必要がある。過去に取組は行っている。</li> <li>・神指城については上杉景勝、直江兼続が鶴ヶ城の倍の大きさの城を作ろうとしたが徳川家康が途中まで来たため竣工に至らず、跡地としてのみ残っている。</li> <li>・神指城の石垣は廃城となった後、加藤明成が鶴ヶ城大改修の際に2か所の石切り場からの石と併せて石垣に使われた。だが、記した古文書などは戊辰戦争後に焼かれてしまっている。</li> <li>・石垣のための石切り場は2か所(慶山、天寧)わかっており、鶴ヶ城に運んだようだ。</li> <li>・鶴ヶ城の高石垣に使われている石だけで約4,000個(数えた人がいる)、全体では数万個使われているだろう。</li> </ul> <p>&lt;白虎隊について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白虎隊のお墓は観光地となっている。史談会では19名全員自刃には疑義があるが、言ってしまうと観光地がおかしくなる。見たわけではないので曖昧で良い。</li> <li>・白虎隊はその後軍国主義の象徴として利用された。</li> </ul> <p>&lt;失われた文化財について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人所有で失った例としては、攬勝亭。県外在住の所有者から、業者に渡ってしまった。</li> <li>・戊辰戦争で鶴ヶ城が破壊されたことにより、残念だが会津の文化は無くなった。今の鶴ヶ城、日新館、武家屋敷は本物でない。そういうことからも地元住民は歴史から引いてしまっているのではないかと。</li> <li>・戊辰戦争初期、会津に向かう長岡藩のために食料調達できず、責任を取り自刃した只見の代官、丹羽族について、八重の桜で</li> </ul>
--

注目された大龍寺に墓があるが無縁仏となっている。顕彰会をつくり、市で管理すべきとの声もある。
問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<p>&lt;史談会について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史談会は単なる研究会ではなく、飯盛山の亡くなった方を顕彰する、そういうものを支える一翼としてできた団体であり、個人の集まりではない。色々な研究会があるが、史談会は別格である。</li> <li>・様々な会ができ分散、情報入手も容易になり個人の好みも多様化し減少。各団体、会員の募集に苦労している。</li> <li>・稽古堂の碑に史談会の名が入っている。</li> <li>・住吉神社の北側に藩の酒蔵の跡（現気象観測所）。史談会の名が入った看板があったが、観測所無人化の際に行方不明になった。</li> <li>・戊辰戦争で戦死した長岡藩の藩士の墓の入口にも史談会の名が入った碑がある。</li> <li>・上記の活動は他にもあり、史談会の実績であるが、最近はそのような活動はできていない。</li> <li>・昭和 20 年前ぐらいまで西洋風の立派な建物の中の一部に部屋を持って活動していた。その後中央公民館という建物に変わっても中心を担う部屋の共同活用をしていたが、昭和の終わり頃から民間団体だけでは公の場所を取れなくなった。</li> <li>・文化史講座は歴史が古く、人数も多いので毎年内容の濃い行事を行っている。</li> <li>・文化史講座は、会員の方が希望、幹部で予算組みをし、行っている（会員のみ参加可）。宿泊講座は年1回、宿泊を伴わないものも年に数回行っている。各地区の会員が、安積からは中通りの会津藩士について、いわきからは会津戦争・風土などを教えてくれる。年2回、会員の研究発表あり。</li> <li>・文化史講座は大きく2つ、宿泊講座が1回、会津地方の現地を回る講座が3回で計4回、講習会については5回程度のうち、県博の学芸員の講座が1回ある。</li> <li>・史談会の高齢化と会員の減少及び、会費の減少で講座の回数も減少傾向である。</li> <li>・史談会の会費は4,000円、文化史の講座の会費3,000円、古文書1,000円、各会の参加費を徴収している。</li> <li>・今後調べたいのは加藤明友（明成の子）。当時の水口藩に行って調べたいと思っている。</li> </ul> <p>&lt;今後取り組むべきことについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津には建物を含め文化財がたくさんある。点を線とし、面としていくことが文化財の活用として問われている。</li> <li>・すでに指定されている文化財を強化する、市から県に強化する。</li> <li>・文化財指定の高瀬の大木、石部桜なども面としてつなげ、更には点を強化していくのが大事。</li> <li>・個人所有の方が、文化財保存の認識を高めていかないといけない。指定時の所有の方ではなくなくなり、認識が薄い。</li> <li>・お城についてはしっかりやってきたが、商工・経済に関する歴史調査は十分でない。もっと早くやるべきだった。</li> <li>・踊りなどの無形文化財も取り上げてほしい。</li> </ul>
問:その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市とのコミュニケーションが重要である、今回のような場をつくるのが大切である。以前よりやっていたが、少なくなっている。多くの民間団体のうちの一つでしかないと思われる。</li> <li>・市の文化課と年に1~2回でもよいので、文化財の指定などについて話し合う場があれば、攬勝亭のようなことは避けられていたかもしれない。人手に渡ってからでは遅く、先手を打って対策すべき。</li> <li>・他団体と密にコミュニケーションをとることは、マンパワー的に難しい。</li> </ul>

## (8) 会津史学会

対象	会津史学会(大川原会長、森川氏、秋山氏)
実施日	令和2年12月24日
実施場所	会津若松市生涯学習総合センター

### ■ ヒアリング対象について

- ・会津史学会の会員は現在170名。8割が地元だが関東方面や遠方の会員も。最盛期は230名程度。
- ・範囲は古代(石器時代)~現代まで広くテーマを作って、各個人で歴史の勉強を行い機関誌を発行。
- ・発表会を年に1回開催している。
- ・歴史を学ぶための古文書研修会を毎月1回、会津藩の歴史「会津家世実記」の解説も月に1回実施。
- ・会津藩と関わりのある地を巡る一泊旅行を年に1回(近年は集まり悪く未実施)、日帰り旅行2回行っている。
- ・研修会は会員のための会だが、実際は会員以外の方も参加している。
- ・会の運営は年会費のみで運営。
- ・昭和43年に設立。

### ■ ヒアリング設問

問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財と言ってもいろいろある。関心のあるのはお寺の仏像。文化財に指定されているものも多い。ほんの一部の人にしか紹介できない分野でもあり、なぜ文化財にならないのかと思っているものもある。ツツミザワ(よく盆踊りをするとところ)など市の文化財にしてもよいと思うものがある。</li> <li>・会津若松の歴史文化では江戸時代が一番アピールされているが、筆名や伊達や松平等各時代で分けて考えてもよい。蒲生氏郷は滋賀県の日野市でよくPRされている。会津若松市は蒲生が作った街だが、観光面でのPRは幕末がメイン。</li> <li>・会津は筆名の代が長く、伊達、蒲生、上杉、加藤など、時間的に短い文化も多い。</li> <li>・蒲生3代については、市民の方も認識はないかもしれない。もっとアピールしたほうが良いと思う。</li> <li>・大町四つ角札跡。飯盛山の石碑(7基)</li> <li>・会津若松市だけで考えることは難しい。大塚山古墳、喜多方市の灰塚山古墳、坂下にも立派な古墳があり、これらを一体と考えればもっと脚光を浴びる。灰塚山古墳の先生に講演いただいたが、大塚山古墳をもう少し掃除してほしいと言われた。(何も取り組みがない)</li> <li>・会津は歴史文化の材料が多すぎるが関心の9割は幕末。幕末以外の影が薄くなっている。</li> <li>・現時点で喜多方や会津坂下等との連携はない。各地の研究会等に入っている会員はいる。</li> <li>・史談会は昭和6年設立、史学会は43年設立で後輩である。史談会は幕末、史学会は広く対象を研究している。</li> </ul>
問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松市の財政を考えると歴史文化の保存活用は難しいと感じている。</li> <li>・現時点で保存活用は特にないが「まなべこ」で文献の調査を実施している。</li> <li>・文献と現在の文化財はどうなっているのか?の視点。松平御廟は文献では、猪苗代の保科正之の文献とどう違うのか?考え方という事で文化財の層が厚くなってくる。</li> <li>・どこか一つで学術的に発掘できないかと思っている。石棺など(松ヤニをどう入れたのか等文献調査)</li> <li>・ガイドをやっていると会津の観光客に対して3庭園の紹介、日新館には天文台など説明していたが、知らないうちになくなっていくものが多い。天文台も景観が悪くなっている。</li> <li>・失われているものがたくさんある。市民の人がもっと知っていれば違った。攬勝亭(らんしょうてい)も同様に予兆はない。</li> <li>・攬勝亭について。会津には3大庭園があったが、そういうものに焦点を当てるべき。なくなってから気づく。</li> <li>・所有者のお話を聞く機会が必要。埋もれているものも多いと思う。残すことへの想いが希薄になっているのでは。</li> <li>・攬勝亭、可月亭(持ち主)では市民や周りの方が助けるとかはなかった。保存は持ち主次第。</li> </ul>

- ・若松でみんなの寄付で出来たのは、鶴ヶ城や瓦だけ。貴重なものがあればお金は集まると思うが難しい。
- ・攪勝亭の金額も何億ではないと思うがその文化財を守るのか、取捨選択は難しい。
- ・お寺も墓地が売りに出されて開発されたりしている。
- ・上杉の神指城跡の本丸の跡はもう少し大事にしたほうが良い。上杉が徳川を迎え撃つため会津に北の一大都市をつくらうとした歴史がある。現在の神指城跡は石垣が残っている程度。そのうち住宅地になるのでは。
- ・歴史背景との絡みで価値になるが歴史背景を市民の人はご存じない。
- ・お金を出し合っという話が出たが、かつてはそうした取り組みがあったが、現在の市内には何百億も儲ける企業はない。支援できる人がいない。鶴ヶ城を買って寄付する遠藤敬止(えんどうけいし)のような人がいない。(今の人には余裕がない)
- ・文化財も大切だが、歴史をどう伝えていけるかが一番の大きな問題。子どものうちから地元の歴史を伝えていくことが根底にあることが大事であり、地元の人が興味を持っていると外部の人も興味を持つ。
- ・会津の産業の基本は“観光産業”。観光産業を活かすためにも投資が必要。これまでは出来ていない。重点をおいて投資すべき。何もしないで金を落とせば難しい。短期間では NHK の大河ドラマの誘致など。保科正之などで長野県はやる気になっている。
- ・会津に来る人は新選組が好き人が多い。歴女が多い。
- ・地域にたくさんありすぎて文化財を大事にしない。地図も情報が多くて大変。分からないうちになくなっていく。重点的に守るべきものを決めておくべき。
- ・近年は証拠を見せろとするさくいわれて活動がやりづらくなっている。

問:その他

- ・史学会は若い人は少ない。40代が数人程度。若松市出身でない会員については若い人が多い。
- ・史学会に入ってくる人が少なくなっている。現在でも歴史春秋をみて問い合わせがある程度。
- ・タモリの番組の後はかなり人が来た(さざえ堂)。マスコミの力を活用していくことが大事。
- ・史学会でガイドしている人も多い。(40人程度)
- ・ガイドの教本の内容に載っている歴史文化が消滅しているのは悔しい。こうしたことがないような体制や仕組みが欲しい。
- ・文化財をいかに伝えるか。家庭に歴史文化に関する冊子を1冊配ることも提唱したい。子どもから教えると違う。
- ・若い人に興味を持ってもらうのが大事だが、30過ぎ、40過ぎぐらいからが重要かもしれない。
- ・子どもたちに伝える際には漫画が良いのではないかと。若い人たちに興味をもってもらえるような情報発信や体験等の工夫があるとうい。

## (9) 渡邊明氏

対象	渡邊明氏		
実施日	令和2年12月24日	実施場所	会津若松市生涯学習総合センター

### ■ ヒアリング対象について

- ・武器道具の後継者(刀を勉強したい人)の養成・指導を毎月実施している。(平安末期から明治までの作った方の作者(鍛冶)を資料提供し、誰がいつ作ったか勉強会(テスト形式)を開いている。刀匠博物館の取り組みを踏襲した方式である)
- ・会津史談会には昭和50年ごろから加入しており、一時は理事も務めた。
- ・高齢者大学校あいつわくわく学園で講師を務めている。
- ・以前、教育委員会の文化課が開催していた文化財指導者養成講座で11年間ほど教えていた。将来の文化財の調査や講師を受け持つ方を育てることを目的にしていたが、大半の人は勉強しようというだけであり、研究発表することはなく終わってしまった。
- ・福西本店でボランティアガイドの養成しており(現在5期目(1期:30回))、その中で4回(仏像・武器道具、うるし等)を担当している。若い人も多く参加している。
- ・お城の観光ガイドの養成講座もたまに教えている。

### ■ ヒアリング設問

問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について

<会津若松の状況について>

- ・会津は戊辰が中心で美術工芸などの文化財に目が向けられていない状況である。
- ・江戸末期の歴史より関ヶ原以降の会津の歴史を検証したほうがよいと考えている。特に産業を大切にすべきであると考えている。会津漆器は美術工芸につながり、武家文化につながる。
- ・戊辰は何しなくても皆さんが好きなので何とかできるが、それ以外はなんともならないだろう。

<美術工芸・仏教文化について>

- ・会津の美術工芸は、技術的にも中央で高く取り上げられているものもある。
- ・会津史談会で美術工芸の機関紙を提案したが出来なかった。気の合う仲間と「会津の文化財」を発行し、年に1冊で全9巻まで作成した。
- ・会津の歴史は武家文化だけでなく、仏教文化は東北で一番古い。徳一という法相宗の僧が、会津から最澄仏教論争へ挑んでいる。奈良や京都と姉妹都市になること提案したこともある。
- ・仏教文化については、10年前は会津一円のお寺へ新潟県から来ていた。
- ・喜多方は蔵が多いといわれるが、会津若松の方が実は多い。通りに面してない蔵がたくさんあり、見えにくい。建物として貴重である。座敷蔵が多く、保存していくべきである。
- ・漆器の技術は平安時代の漆の技法は仏像の金箔、建造物の金箔等から始まり、器に塗ってくるのはその後であり、江戸時代に全国の各藩への輸出産業として発展した。

問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について

<漆器について>

- ・会津で伝統的な技法や産業が残っているのは漆器とお酒だけである。酒は技法的なものであり、技術としては漆器だけである。
- ・漆器技術の保存の取り組みとしては、会津漆器共同組合で技術者を養成するために、毎年生徒を募集し2年間教えている。
- ・産業は時代が変わっている。宴席や結婚式は昔のように家でしなくなり、道具を集める必要がなくなった。消耗品でよくなり、よいものを集めなくなった。昔は、蒔絵装飾がされている赤い重箱を使用していた。
- ・夜伽(黒い重箱に料理を詰めて加をする)から重箱にお金、香典袋にお金と変化していった。
- ・養成をしても生業としてなりたたない。会津漆器共同組合の講座では、卒業した時に器だけでなく、建造物まで手を伸ばせといっている。
- ・新しい漆器の活用を時代に合わせて作っていかないといけない。
- ・漆の原材料はほとんどが輸入で、岩手県のみ本格的に生産している。
- ・岩手の漆職人(かきこ)は現場に入らずに5年間は弟子として修業している。会津は素人でも取るため、良い漆はとれない。
- ・岩手の漆は年間1トンだけ生産し、すべて文化庁で買い上げている。
- ・年々、工芸品を収集している人が少なくなってきた。昔は何人も集めていた。収集している方は高齢化している。絵画にしても書にしても集めていこうとする方が少なくなってきた。勉強しようとする関心がなくなってきた。
- ・昔は集めていた方は、商店の親方が自分たちの部屋の装飾で位を誇示していたが、後継者が引き受けたくなく売りに出している。最近では書も値段がつかなくなってきた。

<p>・工芸品は投資の対象であったが、薄れてきた。          &lt;後継者の育成について&gt;          ・若い人達にもっと教えていけばよかったと感じている。          以前の講座でも、若い人達を考えて実施していたが、時間的縛りも多かった。(平日は若い人は参加できない等)          ・福西本店での講座は、18時～19時半で実施しており仕事終わりの若い方も参加している。          ・福西本店のガイド4～5名が定着されている。その方はお城のボランティアガイドや展示の手伝い等。          &lt;一般市民の関心について&gt;          ・一般市民は、見学はしているが次につながっていない。次のステップの受け皿がない。          ・今なら、講座などの開催を指導者に要請が出来る。仏像・絵画は県立博物館のスタッフがいる。5年～10年経つと機会がなくなる。          ・学ぶ場所を引っ張る人がいない。          ・お城の管理が市の観光課から観光公社に変わる前は、民間の若手に展示を手伝ってもらうなどする学びを発揮する機会があった。それがなくなってしまった。          ・サイクルがなくなった背景は、観光公社に移った際に学芸員がやることとなり、手伝っていた委員会が解散となったことである。          ・県立博物館は、今は講座だけをやっていると思われるが、展示等も手伝ってもらうようになれば関心が出てくる。          ・福西本店では、ボランティアガイドと展示を手伝う人を養成している。興味があることを教えている人もある。現在も発展途上である。          &lt;市民の関心を高めるために&gt;          ・展示のお手伝いは、現物を触ることができ、参加者にとって非常に魅力的であり、関心が高まる。          ・本庁舎の移転後、現庁舎を美術館にしないかと提案している。工芸品に関わる人が増えて市民の関心が高まるのではないかと。現庁舎を利用すると警備も既存のもので賄える。          ・自身も30過ぎて文化財に関心を持ちはじめ、見たり読んだりするよりは手で触れることが大事であった。触れることで自慢になり、もっと良いものをふれてみたいという意識が高まった。触れることは、ケース越しや写真とは違う。          ・福西本店の講義でも必ず刀に触れてもらっている。以前、小学校高学年に講義をする機会があり、児童に本物の刀を持ってもらった。</p>
<p>問:その他          ・手で触れることが重要である。保存するために、関心を持ってもらわないといけな。そのためにはモノを理解する場、触れる場をつくっていく必要がある。</p>

## (10) 前田宜裕氏

対象	前田宜裕氏	実施日	令和2年12月25日	実施場所	会津若松市歴史資料センター
----	-------	-----	------------	------	---------------

### ■ ヒアリング対象について

・工業高校の教員

### ■ ヒアリング設問

<p>問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について          &lt;歴史文化のイメージについて&gt;          ・戊辰戦争や会津の幕末の武家文化が中心である。その時代のものについてもほとんど残っていない。          &lt;柴五郎の石碑について&gt;          ・柴五郎の石碑がある。「ある明治人の記録」に載っており、陸軍中將になってから若松連隊を訪れ、一家が自害した生家の跡に記念のヒマヤスギを植えて、それを囲った柵の支柱に、「柴家邸宅の跡」と彫ったものが1本、「遺児 陸軍中將 柴五郎」と書かれたものがあつた。          ・つばくろ公園の北側に柴家邸宅の跡の看板があり、その下にも石碑(石柱)が埋めてある(「遺児 陸軍中將 柴五郎」の碑)。埋めてある上に看板を立てたようだ。もともと跡地から個人が庭にとっておいたものを、会津史学会として埋めた。          ・取り壊された市営住宅に個人が見つけて取っておいた柴家邸宅の跡がある。その石柱は、市営住宅取り壊しの際にそこだけ残してもらった。          &lt;関わってきた文化財について&gt;          ・旧滝沢峠の頂上付近のふな石は何かできないのかと思う。          ・古川御殿の跡地は、江戸時代に殿様の別荘であつた。古い木や庭石があるのでもったいないと思う。          ・諏方神社の鳥居に戊辰戦争の弾の跡がある。鳥居の下は交換したが、上の弾の跡は残っている。          ・十日市の大町通りの古い漆器屋に会津藩の長持ちがお店に飾ってあつたが、閉店してしまつた。          ・会津工業高校の正門を入る手前に左側に家が数件あり、個人のお宅の庭に、池と築山のようなものがあり、昔の外堀の跡と土手だと聞いている。          &lt;代替わりで失われた文化財について&gt;          ・あれを取ってあげればよかったという話はよく聞く。戊辰当時の衣類や小物などもカビや虫食いで捨てることもあると聞く。価値がわからないと保存もしない。長く保存できるのは立派な家だけである。          ・米熊さんの庭(家老の屋敷の庭)も、経済的にも持つことが難しいだろう。          ・柳原の攬勝亭は、個人の所有の時には公開していなかつたと思う。今になり、大きな会社が購入し、分譲地になる話になっている。          ・窓口があり、どのようなものが文化財になるとわかれば、うちのも出そうかなという人の呼び水になるかもしれない。          &lt;表に出している(公表している)が失われそうなもの&gt;          ・飯盛山の、白虎隊自刃の地の松の大木はどこに行ったのか。ここ数年で枯れたかもしれない。早川家に問い合わせればわかるかもしれない。          ・七日町の下柳橋の下流に五輪の塔があるが文化財でもなく、忘れられていると思う。          ・会津藩が戊辰戦争の際、御霊櫃峠に小原砲兵隊が大砲を隠して撤退した。大正時代に地元民が発見し、帝国博物館(国立博物館)に寄贈した。その後九州に収蔵してあるが公開しているわけではない。会津若松市の方で取り戻せないか。          ・同様に日本中に会津若松のものがあるのでは。公の機関が動かないと難しいだろう。          ・市内城下の旧道路。今は何かの敷地になっているところもあるが、未だ制約のあるところもある。          ・七日町の阿弥陀寺に戊辰戦争の時のことを描いた絵がある。城の南側の戦い(天神橋口の戦い)の絵。福島中央テレビ文庫で扉絵になったこともある。          &lt;市民の認識(二分化)について&gt;          ・市民の認識は、二分化というよりは多様化していると感じている。好き、流行り、商売などそれぞれの目的による。          &lt;逸話や言い伝えについて&gt;          ・若松の旧市内の人たちの話し言葉について、録音も簡易な時代になっているので、今のうちに残しておくべきである。イントネーション、言葉遣い、発音の仕方など、戦争前から旧市内で育つたお年寄りの言葉は今ではほとんど聞けない。昭和初期から旧市内で生まれ育つた人でないと、その言葉は伝わっていない。昔は教育委員会で会津言葉の本を出していた。音声などもあわせて再構築するにはギリギリの時期である。</p>
---



問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<p>&lt;後継者について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の持ち物である文化財は、知っていたとしても口外できない。そういうことから会津若松の文化財もあいまいになってしまったのではないかと考えている。今出ていないものは、出たくないものである。表に出たくないものもたくさんある。</li> <li>・個人の持ち物に関わっていくことが難しい。個人によって価値の受け取り方が違う。価値の受け取り方の違いにより、所在などがだいぶ分からなくなっている文化財もかなりあると思う。</li> <li>・ある程度公の団体でつないでいるものはいいが、個人所有のものは後継者に伝わらないことは仕方がない。公の団体で収蔵する力があれば、捨てるよりはいいと思う人がいるかもしれない。飯盛山のように、寄贈ではなく寄託で観てもらおうなど。祖父が大事にしていたものを孫が売るなどあるだろう。他所で価値がなくとも、会津にあることで価値があるものもある。古本の目録などで会津のものが流出していることが分かることもある。</li> </ul> <p>&lt;高校生による地域文化の活用などの取り組みについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業科の生徒は喜多方の古い町の文化を取り込んで、観光につなげるという取り組みをしている。現在の経済活動に直結するようなことをしている。</li> <li>・山口県では歴史を中心に教える学校があり、素晴らしいと思う。お金もかかるが、その取り組みによりいいもの集まるのだと思う。</li> </ul>
問:その他
・指定制度を活用して、文化財を集めるなどできると良い。

## (11) 平出美穂子氏

対象	平出 美穂子氏
実施日	令和 2 年 12 月 25 日
実施場所	平出氏自宅

### ■ ヒアリング対象について

・学校栄養士を経て保健所栄養士・病院栄養士・会津短期大学の助手・講師、2004年郡山女子大学准教授となり、2012年退職。現在は日々郷土食の研究に打ち込んでいる。「古文書にみる会津藩の食文化」を出版している。

### ■ ヒアリング設問

問:会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<p>&lt;会津食文化のイメージ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・枳餅を食べる文化を残そうという活動しているグループがあり、道の駅で商品を販売している。</li> <li>・会津にはお菓子の長い文化があるが、1700年代のお菓子がなくなっている。江戸時代から続くような干菓子のお店がない。文化としてはあったのだが、閉店してしまい、復活は難しい。今のお菓子屋さんには生菓子だけでなく干菓子文化も残してほしい。</li> <li>・伝統野菜については、会津の農業書「会津農書」をもとにして活動もしたが、会員数が少なく、農業遺産にはならなかった。だが、自然農法はこれからも残さなければならない。</li> <li>・会津伝統野菜というのがあるが、20種ほどある。会津農林事務所と会津農業高校で残そうとしている。</li> <li>・伝統野菜は会津若松中心にそれなりに作っている。茎立菜、小菊南瓜など。どんどん減ってしまい、作っているのは高齢者。若い人は若干。でも、会津若松市は頑張っている。</li> <li>・おたねにんじんはアレルギーがあるので、体質に合った食べ方などを研究している。</li> <li>・こづゆは容赦公の時代、参勤交代で帰京する際の重に材料が載っていたのが発祥と言われている。商品化されたものは残っていくだろう。</li> <li>・子どもが中心にやってきただんごさしなど、昭和40年代ぐらいまではやっていたが、不道德だと禁止されたため、なくなった。</li> </ul> <p>&lt;今なくなってしまいたいもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津には礼法家小笠原流があり、礼儀作法やしきたりは会津に浸透してきた。それが会津藩のいいところだった。核家族になり、嫁姑も遠慮して言わず、作法がなくなってしまう。</li> <li>・風習、礼儀作法と、人を敬う心、それを含め和食(世界遺産)。和食が世界遺産になったのは、そういったものも含めてだと思ふ。作法など習う機会があっても、その時だけとなり、身についていない。</li> <li>・会津文化はこだわりが強い。良さに気付かず、そのこだわりをなくしてはもったいない。</li> </ul> <p>&lt;郷土料理について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それなりに作られていると思う。年中行事は無くなってきている。</li> <li>・年中行事でも残したいのは12月1日の「かっぱらい餅」：子どもが水難事故に遭わないために、川に餅を流し、川下では、子どもたちが流れてきた餅を取り、食べる。この行事も現在ではほとんど行われなくなった。</li> <li>参考:年中行事は以下にあり(平出氏著)「福島県の行事食」 <a href="http://www.fgk.or.jp/wp-content/uploads/2017/05/h28_hokokusho_06-1-3.pdf">http://www.fgk.or.jp/wp-content/uploads/2017/05/h28_hokokusho_06-1-3.pdf</a></li> <li>・数年前より、給食から食文化を発信しようという活動をしている。昔は親→子だったが、今は学校給食を通して子ども→親と広めていく活動。おたねにんじん、戊辰戦争の頃の食事なども出している。学校給食でも8つのための箸の作法は教えている。それは良い取組と思う。</li> </ul>
問:地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<p>&lt;おたねにんじん&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おたねにんじんの関係者は頑張っている。昔は400件ほど作っていたが、今は4件ほどである。どのような形にすれば残しているのかと考えている。会津のおたねにんじんの組合も6年ほど前に解散してしまった。</li> <li>・おたねにんじんがなくなっていったのは、作るのに5年。今の社会では成り立たない。収入のためにつくるには難しい。食べ方など広めているがなかなか広がらない。</li> </ul> <p>&lt;外部の人が郷土料理を学ぶ機会&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数日前、県の事業で会津の四季と食文化という講座をやった。県内各地から30名集めてやったが、もっとやってほしいという要望が多かった。定期的に行えばいいと思う。企画が必要。宿泊した方もいた。</li> <li>・会津漆器とのマリアージュを過去に3年間やったことがあるが、その時は人があつという間に集まり進んでいった。</li> <li>・郷土料理を教える講座などをやるにあたっては、事務的な活動をしてくれる方がいるとありがたい。</li> </ul> <p>&lt;地元の方の意識を高めるために必要なこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松に食文化の継承会のようなものがあり、定期的に参加できるような仕組みがあればいいと思う。勉強したことを還元していきたい。</li> <li>・郷土料理を学びたいというニーズは多いが、事業を運営する人がいない。</li> </ul>
問:その他
・家業の油屋の事業継承は難しい。昔の方式では、薪の火加減が複雑であり、できるまで時間がかかる。

## (12) 飯盛商店会

対象	飯盛商店会(飯盛会長、古川氏)		
実施日	令和2年12月25日	実施場所	幸泉小法師

### ■ ヒアリング対象について

- ・墓前祭等の行事を行っている。
- ・依頼があった時、各商店で通常営業の中で案内を行っている。

### ■ ヒアリング設問

問: 会津若松市及びその地区の歴史文化のイメージ、特徴(地域のお宝・おすすめ理由等)について
<p>&lt;商店会として取り組んでいるもの&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕末～明治維新の壮大なドラマの舞台であり、毎年相当数の観光客が来る。観光客の目的的文化財は白虎隊の墓所、さざえ堂、本陣の主に3つ。</li> <li>・商店会の中でも文化財を活用し、通常営業の中でそのエリアを案内したり、食事を提供したりして商店が成り立っている。</li> <li>・行事的なものは、墓前祭、鎮魂祭、会津絵ろうそく祭りの3つである。</li> <li>・墓前祭は、春秋2回(4月と9月)あり、商店会としてはそれに合わせ白虎隊ウォークというのを行っている。白虎隊が戦火に追われ、戸の口堰という用水路を飯盛山へとくぐり抜けた逸話にあわせて、一般人を募り、その道を歩いてみようという試みである。</li> <li>・鎮魂祭は、旧暦の8月23日に自刃したことから、白虎隊の日とされている8月23日に行っている。さざえ堂と同じ敷地内の宇賀神社に、白虎隊の霊像を祀ってある。神社の前の広場で神事を行っており、同じ敷地のさざえ堂のライトアップや、ステージをつくり、静かな音楽イベントなどを一昨年から行っている。</li> <li>・会津絵ろうそく祭りは冬季に行い。飯盛山も商店会として参加している。</li> </ul> <p>&lt;観光客について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災で一度落ち込んだが、大河ドラマ「八重の桜」の影響で、平成25年あたりから右肩上がりて入込数は増え、令和元年はかなりの客数だった。</li> <li>・客層は地元幼稚園から高齢者までである。幼稚園で会津の文化(白虎隊の踊りなど)を伝えるため、先生方が連れてくる。修学旅行は小・中学校が多い。高校生は林間学校などが多い。</li> <li>・幼稚園、小学校では遠足の他、郷土学習も盛んで、地元のいろいろなことを調べる目的で訪れる。近い学校では写生会などで訪れる。</li> <li>・後継者がおらず閉めたお店もある。オーナーに高齢者が多く、お店を貸したりして若い人が引き継ぐなどもある。空き家もわかる中で1店舗である。入る予定があったがコロナで延期かキャンセルになったのか。普段こんなに長く空き家にならない。</li> <li>・子どもの頃に来て、大人になってから懐かしんで、県外からくる方もいる。地元の人が客人を案内するために訪れることもある。</li> </ul>
問: 地区の歴史文化の保存・活用に関する取組内容、その体制、後継者の有無について
<p>&lt;さざえ堂について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さざえ堂は、守っていくための修繕などは県、市の補助や拝観料でまかなっている。個人所有なので大掛かりなことはできない。飯盛山の山林は私の持ち物で、拝観料で山林も含め何とか保っている。経済的に厳しい状態である。メンテナンス費や人件費のやりくりで終わり、将来の修繕には回らない。</li> <li>・さざえ堂は224年経っており、全面的な解体修理が必要で、申し入れはしているが、期間、金額も大きいので全体予算が出ず、自分の負担もある。さざえ堂を愛する会(人数は30名ほど、高齢者が多い)という任意団体も立ち上げていただいているが、必要な金額も明確でなく、資金を集めるのが難しい。木造なので毎年傷んでいくばかりである。</li> </ul> <p>&lt;周辺地域とのつながり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いにしえ夢街道として連携でパンフレットなど作っている。飯盛山も組み込まれていて連携しているが、密ではない。</li> <li>・宗像神社は、滝沢町内会が守っている。</li> <li>・洞門くぐりの水は猪苗代湖の水で、水利組合があるため、我々ではできないこともある。多くの文化財があるが、様々な地権者がこの一帯で密になっており、連携は難しい。</li> <li>・白虎隊戦死者墳墓は公益財団法人(会津甲霊議会)で管理している。利害関係が複雑である。</li> </ul> <p>&lt;地域の方々の協力について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飯盛山は会津甲霊議会でやっており、行政も手を出せないのが現状。一緒にやろうというのは難しいが、地域に根差した形にしたいので、子供会などを連れてくるなどはしている。</li> <li>・甲霊議会は教育関係者、役所退職者(助役など)が多い。元々は松平家の財産を管理するための団体だと聞いている(創立100年以上)が、その後会津藩の慰霊などが主たる目的となった。</li> </ul> <p>&lt;周辺の保全など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれ地権者がおり、夢街道といっても街道沿いの店舗が主体となっている。山林の遊歩道は山沿いの方まであり、広範囲のためカバーが難しい。</li> </ul> <p>&lt;文化財の保存活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・墓所の参道が200段ぐらいあるが、老朽化している。石段なので崩れたりしている箇所もあるが、修繕には莫大な金額がかかる。お客様の安全にもかかわるため、気になっている。</li> <li>・白虎隊の墓所の奥に自刃の地があるが共同墓地のため、町内会の管理となり、特定の所有者はない。その段階も直したいが、町内会で管理しており、簡単に直してくれとも言えない。</li> <li>・会津観光の顔であるため、市で整備してもらいたい。</li> </ul> <p>&lt;行政からの支援の希望について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組むイベントは今の3つ(墓前祭、鎮魂祭、会津絵ろうそく祭り)が目一杯である。環境整備について支援してもらいたい。また看板の整備が必要である。</li> </ul> <p>&lt;文化財保護に関するネットワークについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元にはない。全国の所有者連盟には登録しているが、参加はできていない。</li> </ul>
問: その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・飯盛山全体として、市や県などの支援が欲しい。環境整備など、経済的なもので実現できないことが多い。入込さえ増えれば潤うと思う。</li> <li>・知られていないが、飯盛山自体が古墳である。どうやら3~5世紀の古墳らしい。また大塚山も古墳である。宝はあるが知られていない。</li> <li>・滝沢に神社が3つあり、管理が大変である。本来なら気軽に行って見て欲しいが、暗くて危険である。</li> <li>・現在、商店会でそれぞれガイドしているが、1件1時間程度かかるため、常設のプロのガイドが欲しい。</li> </ul>

### 3. 事業者ヒアリング調査結果

#### (1) スマートシティ AiCT

対象	スマートシティAiCT 入居企業(会津大学 藤井客員准教授他)		
実施日	令和2年12月9日	実施場所	スマートシティ AiCT

##### ■ ヒアリング対象について

・ICT スマートシティ事業を通じた地方創生・地域活性化を推進するプラットフォーム

##### ■ ヒアリング設問

問:文化財に関する認識や活用の現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古い建物を残すには、儲けないと残せないのではないか。</li> <li>・江戸時代からの民家に賃貸で住んでおり、改装費用を持ち代わり、安く住まわせてくれと大家さんと交渉した。</li> <li>・熊本城は震災前に作成していた VR データをもとに復元をした。</li> <li>・(建築物の)古材を京都の業者が買い付けに来たりしているが、会津若松市内では価値化できない。(価値があると認識されていない)</li> </ul>
問:文化財に関する今後の活用の意向・アイデア
<ul style="list-style-type: none"> <li>・屏風をアーカイブすることで、破損のリスクなく市外の施設で展示会を行うことができるうえ、普段は見えない細かい部分まで見ることができる。</li> <li>・AI で古文書の文字データが読み込めるようになると、博物館にある多くの古文書の解析が進み、新たな発見があるかもしれない。現在は、AI に学ばせるデータ・予算が足りていない。他県の徳川家に縁のある銀行から、古文書の読み込みができないかという依頼もあった。</li> <li>・会津若松はオープンストリートマップが盛んである。マップを作る有志が集まって地図を作るイベントであるマッピングパーティなどと連携してはどうか。</li> <li>・高齢者が人が知っているが地域の人知らない伝承を聞いて、その場で wiki ペディアに編集し、地域のことをデジタルデータとして残していこうという取り組み(wiki ペディアタウン)が面白い。wiki ペディアタウンは会津若松市でも行ったことがある。県内では、浜通りの被災地域で盛んに行われている。</li> </ul>
問:文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々が地域の資源を知らないのが、goto 地域キャンペーン(会津若松に住んでいる人が地域に泊まる)を行うことで、会津若松の資源を気付いてもらうきっかけを作ってはどうか。</li> <li>・西会津町では、高齢者が昔行ったことがあるが誰もいなくなった社・滝へ、探検隊と称して探しに行く活動をしている。</li> <li>・AI に古文書の文字を学ばせることは、予算がつけづらいだろうが、AI で古文書を読めるようになるとインパクトは大きい。</li> <li>・文化財と言われると広すぎるので、分けてもらえるとうりやすいのではないか。(市民のための文化財、街並みを守るための運動に関するもの、古い名所やお墓を掘り起こして観光コンテンツにするもの等)</li> <li>・東京から来た人間としては、蔵をもっと大事にした方がよいのではないかと感じる。</li> <li>・日本酒と蔵でストーリーを作り、一般人が入れない酒蔵の VR コンテンツで見せて、日本酒を買って文化財保護しよう等、市民参加型の文化財保護ができればよいのではないか。</li> <li>・不動産事業者としては、古い建物を解体して新築し、販売した方が儲けになるため、観光地であるにもかかわらず、古民家がどんどん解体されており、資源を喪失している。目標となる基準(守る建物数等)を設定した方がよいのではないか。</li> </ul>
問:その他
特に無し

#### (2) 会津大学短期大学部

対象	会津大学短期大学部(産業情報学科青木准教授)		
実施日	令和2年12月17日	実施場所	会津大学短期大学部

##### ■ ヒアリング対象について

・湊地区にはいって地域づくり協議会の支援を行っている、  
・ワークショップを実施し、そこで出たアイデアの実現のため情報発信、チラシ作りなど、他大学生学生も交えて支援している。

##### ■ ヒアリング設問

問:文化財に関する認識や活用の現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松市の先進的なところは、専門家のサポートがはいるり価値化が進んでいるところである。</li> <li>・地域活性化センターの公開講座で地域資源を挙げてもらった際にたくさんの資源の情報がでて、資源を誇りに思っている市民が多いと感じた。</li> <li>・市民ベースでの文化財の活用の取り組みは、やっているところもあるが、あまり積極的とは感じられない。</li> <li>・会津若松市では、個人が関心のある歴史・文化について学ぶ傾向が強く、継承する次の世代を作っていくなどの動きは弱い。自分たちが学んだことをアウトプットし、活躍する場がない。講座で歴史・文化を学んだ受講生の方も活動したいという欲求があるが、引き出せていない。</li> <li>・歴史・文化の保存・活用について携わっている人と一般市民の乖離が激しく、中間層がない。携わっている人はたくさん役割をやっており、忙しくなっていることに加えて、徐々に高齢化してきており、事業を動かすパワーが落ちてきている。</li> </ul>
<湊地区について>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が、湊地区では以前、鉄を作ったという話を学生が聞いてきたことをきっかけに、キャラクターづくり等の製鉄の歴史を活かすための提案なども行ってきた。</li> <li>・たたら炉のご指導をいただいたりして、鉄づくりのイベントを行い、東北の各地からも愛好家が集まった。</li> <li>・湊はスポーツが盛んで、それに対する支援を地域協議会でやっている。なので、30代の住民も関わっている。</li> <li>・湊の場合は、地域の方が歴史・文化を大切に思っていたので、取り組みにつながった。</li> <li>・大戸地区でも、竹炭づくりを行っていた歴史から、竹を使った取り組みを行っている。これから、竹を使ったストラップづくり、秘密基地づくり、鳥獣害対策等をしようとしている。</li> <li>・今年度からは地元の高校生も参加し始めており、これまで知らなかった地元の文化を認識し始めている。</li> <li>・外部の若い学生が入ることで、地域の一部の人が知っていた文化が掘り起こされた。</li> <li>・学生では地域と関わりたいという人が多くなっている。</li> <li>・卒業しても声掛けをすれば出てきてくれる。地域の知り合った人からの声掛けが有効である。</li> <li>・地域側の方は大学との関係性の中で事業を位置付けているので、卒業後に地域の人から卒業生に声をかけることは少ないようである。</li> <li>・卒業後も地域に関わりたいと思うかは学生の志向性によるので、卒業後の関わる仕組みを作るのは、バランスが難しい。</li> </ul>

問:文化財に関する今後の活用の意向・アイデア
・米沢市等にある生涯学習で学んだ人が先生になって、講座をやるといような仕組みや流れを作ってはどうか。 ・中間支援の機能が薄いので、サポーターのような人々を作ればよいのではないか。
問:文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見
・地域づくり協議会などの地域の拠点があつたほうが、文化の掘り起こしや活用の事業が行いやすくなるのではない。 ・機運が高まった時に事業を進めやすいように、ファンド機能があつた方がよい。 ・情報発信やプロモーションについては、湊の人も行っているが、HP 作りなどは地元では弱いところではあるが、サポーターのような程よい距離感で付き合えるグループがあればよいと思う。
問:その他
・大学入試において、高校時代にどのような活動に参加してきたかも評価対象になってきたので、高校生が地域に入る機会が増えてきている。 ・それに伴い、大学の仕組み(カリキュラム)や大学生の質も変わり、地域と関わる可能性が高まることが見込まれる。

### (3) 凸版印刷株式会社

対象	凸版印刷株式会社(下山郡山営業所長)		
実施日	令和2年12月17日	実施場所	会津若松市役所

#### ■ ヒアリング対象について

- ・営業所は郡山だが、AiCTにも入居している。
- ・自主事業より、プラットフォームを作ってそこに乗ってもらうことが多い。
- ・多くの自治体で地域資源活用に携わっている。

#### ■ ヒアリング設問

問:文化財に関する認識や活用の現状
<p>&lt;文化財を観光・教育につなげる手法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像・VRシアター、展示企画、ガイドシステム、プロジェクションマッピングに取り組んでいる。</li> <li>・VRを使用した城のアーカイブへ取り組んでおり、熊本城の再生において、3D データを活用し石垣の再建を行った。国立博物館でコンテンツを上映。チャリティ資源として協力した。</li> <li>・撮影において、ワンソース・マルチユース方式で撮った素材を様々な形で活用できるようにしている。</li> <li>・3次元計測では、城、競技場、船等の復元データを作成できる。</li> <li>・スキャニングでは、古文書など、劣化状態や形態に適した手法でデータ化しアーカイブすることができる。</li> <li>・色彩計測では、色の情報を高度に記録することができる。</li> <li>・モノクロ写真のカラーリメイクや動画のデジタルリメイクを行っている。</li> </ul> <p>&lt;デジタルアーカイブによる地域資源利活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何もない跡地などから VR をつくる時、正しいかどうかは第一人者(学者等)に学術的監修をしっかりと受け、色も含め精度にこだわっている。</li> <li>・VRシアター、現地体験型アプリ、土産品の開発、ツアー醸成、イベント企画まで活用の幅を広げている。</li> <li>・CG制作においては、様々な城、古墳、遺跡など多くの実績がある。何もない現地でタブレットをかざすとそこに当時の暮らしを再現、可視化させるような取り組みも行っている。</li> <li>・日光東照宮の大改修の際、陽明門が見られない間、VRシアターをつくり改修後の姿や、江戸時代のような姿だったのかなど、バーチャルで見せた。</li> <li>・VRはヘッドマウントディスプレイをイメージしがちだが、用途に応じてシアター形式など多様な視聴環境を提供できる。</li> <li>・VRシアターは、現在立ち入れない鉱山の内部の学習などにも利用されている。</li> <li>・スマホを活用する紙製VRスコープはお土産などにもなっている。</li> <li>・ストリートミュージアムというアプリを作成している。現地に行った人だけがVRコンテンツを見ることができるものである。プラットフォームアプリであるので、年間利用料のみで更新などの手間、費用が少なく利用できる。ストリートミュージアム利用料は年間80万円ほど(システムアップデート込)である。VR復元史跡、地図・古地図、スタンプラリー、記念撮影などが楽しめる。</li> <li>・VRを活用したガイドツアーの開発も行っている。タブレットをかざし現代の街並みと当時の街並みを比較でき、時空散歩や違う季節の景色を楽しめるものを開発している。</li> <li>・ARでは、商品パッケージやパンフレットにかざすとキャラクターが飛び出して案内するなどの仕掛けで、カードやマーカーを読み取ることでより詳細な情報を提供できる。</li> <li>・記録映像の作成としては、お祭りや民俗芸能を映像としてアーカイブを行っている。</li> <li>・ジオラマとプロジェクションマッピングを組み合わせることで様々なシーンを投影できるものを制作している。</li> <li>・デジタルアーカイブでは、データ化だけでなく、ユーザー参加型の企画に活用するなど、プロモーションに活かしていく工夫を行っている。</li> <li>・展示企画としては、震災遺構、映像コンテンツ、震災記録展示(巡回展示用にパッケージ)等を企画している。トータルメディア開発研究所(関連企業)と提携し、公共文化施設の企画を行っている。</li> <li>・江戸時代以前のくずし字を高精度でテキスト化できる新方式OCRを開発している。</li> <li>・会津の禁門の変屏風の複製は、4K撮影でどこまでも寄れる。博物館の展示だと、ショーケース越しだが、屏風に描かれた合戦の一人一人の表情まで寄れる。そこではじめてわかることもあり、面白い。</li> <li>・地域文化遺産と謎解きを組み合わせたVRイベント等も企画している。</li> <li>・図録・DVD制作、パンフレット制作、まんがでよくわかるシリーズ、デジタルコンテンツのおみやげへの活用等を行っている。</li> </ul> <p>&lt;実績について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すみだ北斎美術館では「須佐之男命厄神退治之図」を残された白黒写真から復元した。</li> <li>・大坂冬の陣図屏風をデジタル想定復元した。</li> <li>・被災民具資料等のデータベース化も行っている。</li> <li>・復興支援プロジェクトとしてブックワゴン(移動図書館)の企画・運営を行った。</li> <li>・災害の継承の展示企画にも取り組んでいる。</li> <li>・群馬の古墳はただの野原であった。こんなものがあつたというものをCGで再現することで、キャンプをしながらタブレットをかざし、古代を想像するなど、意味のある場所となった。</li> <li>・日光東照宮の陽明門のたくさん彫刻にもそれぞれストーリーがあるということを見ている人はほとんど知らなかった。映像の中で伝わると、再度実物を確認しより深く浸透していった。</li> <li>・富岡製糸場が世界遺産に登録されたタイミングで、デジタルで見てもらおうと企画した。スマートグラスで現実にはないものが見られると当時ニュースで話題になり、パブリシティ効果も評価された。まだ新しい仕掛けなので、VRをやっていること自体がプロモーション効果をもたらす。</li> <li>・教育プログラムなどのコンテンツだけ作ってもうまいかない。教えるガイド等の養成については企業、DMOに参画などが必要である。</li> </ul> <p>&lt;会津若松市で特に活用できそうなコンテンツについて&gt;</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国のミスキャンパスによる地域活性プロジェクトを手掛けている(キャンパスラボ)。ミスキャンパス達が若者目線で地域の良いものを掘り起こしていく。実際に現地を周って考え提案してもらい、またインフルエンサーである彼女たちの SNS による発信で、若者を流入させる。面白いアイデアが出てくる。</li> <li>・IOA 仮想テレポーテーション、遠隔体験を支援するソリューションで、自分がそこにいるような感覚で見ることが出来る。高校生の沖縄の修学旅行で、学習コンテンツとして、琉球王国の戦いの歴史を学びながら、東京にいる有識者と繋いでリモート講座をしたり、福島から離れた子供達に避難先からバーチャル福島遠足をしたりと、行けない所に行ける。</li> </ul>
問:文化財に関する今後の活用の意向・アイデア
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセンチュアと連携していく中で、会津若松の観光もスマートシティとしての市の取り組みを連携させてデジタルの取り組みの中で観光資源をどう活用していくかというところを一緒に考えられないか?と話をいただいている。ソリューションとしては持っているのをどうはめ込んでいくかが今後の取り組みとして動くところである。</li> <li>・鶴ヶ城を中心として、周遊にどのようにつなげていくかというのは課題。ぜひ参画していきたい。</li> <li>・保存止まりではなく、せっかく保存したものをどのように活用し、地域に活かしていくのかは重要であると思う。</li> </ul>
問:文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・したいことのイメージを教えてください、実現に向けた手法を提案することができると思うので、声をかけていただきたい。</li> </ul>
問:その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・AiCT ではコロナのせいもあり、行政、医療、農業等、住民の暮らしをよくするための DX 関係が主流で、観光活性はまだそこまで話されていない。</li> </ul>

## (4) 旧滝沢本陣

対象	旧滝沢本陣(横山周平氏)	実施日	令和2年12月18日	実施場所	会津若松市役所
----	--------------	-----	------------	------	---------

### ■ ヒアリング対象について

- ・引き継いで18代目である。本格的に管理し始めて2~3年となる。
- ・観光客を対象として、見学の際に拝観料を頂いている。
- ・依頼があった場合は、無料で貸し出しも行っている。
- ・年間来場者数は7,000~8,000人。

### ■ ヒアリング設問

問:文化財に関する認識や活用の現状
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1度、白虎隊の慰霊祭の日に、出陣場所として(200人程度参加)、レポートもある。</li> <li>・2019年にはTUFの三味線や琵琶のミニコンサートを行った。音楽イベントははじめての実施であり、100人以上が参加した。</li> <li>・NHKのドラマのロケ地として、検討中である。</li> <li>・修復は何度も行っているが、本物が残っている点では会津の歴史の一端として価値がある。</li> <li>・会津の本陣だと思っている人は少ないのではないかと。</li> <li>・観光用のつもりで、地元の方に活用してもらうという認識はなかった。</li> <li>・修繕費は入場料と持ち出しの自己資金と補助金で賄っている。家計の負担にはなっている。</li> <li>・会社勤めであり、滝沢本陣に注力することが難しかったが、来年度からは力を入れて行ける状況になりそうである。</li> <li>・地元の子も達が学校教育の一環で来ることは、以前はあったが、現在はあまりない。</li> <li>・歴史を見に来ているので、(受付の格好など)現代的なものを排除するようにはしている。</li> <li>・修繕は、専門業者でおこない、ボランティアなどの募集は行っていない。</li> <li>・ボランティアの活用は頭の中になかった(知らなかった)。</li> <li>・ガイドは基本的にない。(強いて言えば祖母)ボランティアガイドは考えことはなかった。</li> <li>・滝沢本陣に関する勉強会などは行っていない。</li> </ul>
問:文化財に関する今後の活用の意向・アイデア
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会津若松の観光客の0.2%程度しかきていない。魅力発信し、1%を目指したい。</li> <li>・ミニコンサート、個展などのイベントに積極的に使ってもらいたい。</li> <li>・認知度を高めて、入場者を増やしていきたい。</li> <li>・ある程度負担であっても、所有を続けていく意思はある。</li> <li>・HPは作りたい。SNSはやっている。</li> <li>・歴史を守るために維持していくところを市民に伝えたい。</li> <li>・やれるところは自分でやろうと思っているため、他人のアイデアも欲しい。</li> <li>・会津若松市の周りとの連携は、将来的にも必要になるだろう。</li> <li>・飯盛山から東山までいにしえ旧街道という協議会がある。様々な業種が会員で、そこには参加しており、そこなら、イベントなどもできるのではないかと。</li> <li>・どう活用していくかを考えるのは全く苦ではない。</li> <li>・地道な活動をしっかり継続して音頭を取れる存在が必要。</li> </ul>
問:文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の維持管理に加え、トイレの老朽化なども対応したいが補助金対象にならない(史跡、重要文化財の構成要素ではないため)。</li> </ul>
問:その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・滝沢本陣を引き継いだことによる反響は、会津若松市民からは特にない。</li> <li>・他のほとんどの文化財所有者と面識がない。(知っているのはさざえ堂ぐらいである)</li> <li>・観光目線だと、維持管理はどこともしっかりしていると思うが、市内に点々とスポットがあるが、線になっているのか。ルートのなもの、歴史的なものに興味を持ちレポートにつながるレベルかという点では不安。ものは揃っているが、コンテンツとしてまた来たいと思えるものか不安である。</li> <li>・鎌倉や金沢などは街並みが統一されているように、観光地にきたという演出をブラッシュアップできないかと思う。</li> <li>・職場でも一時期英語のできる職員を集め、ボランティアガイドを派遣したことがある。</li> <li>・観光課との距離が近い。ロケの話なども観光課経由できた。</li> <li>・滝沢本陣について相談できる場所や人がない。</li> </ul>

## (5) 会津藩校日新館

対象	会津藩校日新館(仮名観光事業部長)		
実施日	令和2年12月23日	実施場所	日新館

### ■ ヒアリング対象について

- ・利用者:入場者数9万人
- ・教育旅行など学校関係の入場者数:3割弱
- ・体験入場料でメンテナンス等を賄っている。
- ・会津のほとんどの学校が半成人式(4年生)や遠足で訪れる。
- ・社員研修にも利用されており、大きな企業でも毎月、数名ずつ研修をしている。

### ■ ヒアリング設問

問:文化財に関する認識や活用の現状
<p>&lt;日新館の現状について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の保存が一番の使命である。</li> <li>・維持管理は大変であり、メンテナンス、草刈り、雪下ろしなどで手一杯である。</li> <li>・ここでの教育の在り方は、今でも参考になる。教育の精神部分に触れていただき、感じてもらうことである。</li> <li>・建物見ていただいても理解が難しいので映像で見ていただいたり、民具を展示したりしている。</li> </ul> <p>&lt;利用状況について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人客を誘致する活動も行っており、先日も外国人に体験していただき、フィードバックしてもらった。</li> <li>・以前は、勉強会を行っていたが、なかなか難しい。教育旅行をメインとして利用してもらう。教育旅行のニーズとしては、体験が求められる。会津で体験のプログラムを作ったのは、日新館が初めてであった。</li> <li>・武士道・茶道・座禅などの体験を行っている。座禅や茶道、弓道等は近隣市町村を含めた外部講師に協力いただいている。</li> <li>・会議室利用は、よそからの人が使う場合が多い。日新館を見学しながら、勉強するというようにしている。何でもよいとはしておらず、大学のサークル活動などで利用している。</li> <li>・半成人式や修学旅行のリピーターが来る。修学旅行の直後に家族を連れてきた子どももいる。</li> <li>・弓道体験のために訪れる子もいる。国体に合わせ整備された、目の前に磐梯山も見える立派な弓道場となっている。</li> <li>・みとみ学園(総合教育学習教室)が毎年、200人規模の席書会を行っている。</li> <li>・青年会議所主催のかるた大会も行われる。</li> <li>・会津や日新館から全国への広がりについては地元でも興味ある人のみが知っている程度である。</li> <li>・大正15年に後世に白虎隊の精神を伝えたいと飯盛山を整備したのが、白虎隊隊士であった山川健次郎(日本初の理学博士)である。</li> <li>・日新館の仕の掟、童子訓は会津の家庭教育、幼少教育の重要な基礎となっていた。</li> </ul>
問:文化財に関する今後の活用の意向・アイデア
<p>&lt;アクセスについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の検定会や論語の普及の窓口になってもらいたいという話はあるが、稽古堂のような場所にあればよいが、駐車場がもう少し少ないと難しい。</li> <li>・入場料が安いので、値上げして、駅までバスを出せないかという人がいるが、賄うのは難しい。</li> <li>・一番のネックは交通手段。かつて2次交通がなく、みなづる号というレトロバスが運行されたが、維持・更新できず路線バスになり、観光客に存在が分かりづらくなった。</li> </ul> <p>&lt;コンテンツについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンになってもらい、レポートしてもらい、口コミで広げてもらうためには、行きやすさが大事。今後の課題は、2次交通がなければ、足がなくなり、認知度が下がってしまうこと。</li> <li>・見学は研修の一つと考え、侍文化、教育文化を感じてもらおう→体験したいと思ってもらおう→白虎隊が何を学んでいたのか?と利用者の段階に応じたコンテンツを充実させていきたい。</li> <li>・他施設へ赴くなどの連携はない。人材不足でなければやっていきたい。</li> </ul> <p>&lt;目指す方向性について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日新館のストーリーを継承する人材を育てていきたい。</li> <li>・飯盛山の白虎隊のお墓が出来上がるまでに、日新館関係者の思いや尽力があった。そのストーリーを伝えていきたい。</li> <li>・日新館の本質は建物ではないということは、認識してもらいたい。</li> <li>・会津の文化を継承されている方に建物を利用してもらって、他の文化の後継者づくりに貢献したい。</li> <li>・市内の各顕彰会が高齢化している。やっていけなければ、再編も必要ではないか。</li> <li>・日新館は次の世代にバトンを渡す場所にしたい。</li> </ul>
問:文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政は厳しく人材が増やせないところ。鶴ヶ城にて養成中のボランティアガイドが研修がてら来るが、通訳を通し英語で伝える難しさなどの課題が山積みである。勉強会などが必要。</li> </ul>
問:その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の高齢は高めで、最も若い職員は40代。</li> </ul>

## (6) 会津若松観光ビューロー

対象	(一社)会津若松観光ビューロー(馬場企画課長)		
実施日	令和2年12月24日	実施場所	会津若松観光ビューロー観光物産事業部

### ■ ヒアリング対象について

- ・鶴ヶ城、御薬園といった史跡や名勝である会津若松市の観光関連施設の管理運営および関連事業を行うとともに、市民に向けた観光意識の醸成および観光振興の推進と高度な観光サービスの提供をしている。

### ■ ヒアリング設問

問:文化財に関する認識や活用の現状
-------------------

<文化財を活用した観光の状況について>

- ・鶴ヶ城は、会津若松を象徴する文化的・観光的スポットである。
- ・天守閣というよりも鶴ヶ城公園全体の面的な価値があり、近年、石垣が特に注目されている。
- ・石垣の積み方や歴史的背景をガイドが説明すると、反応が良い。
- ・御薬園に人があまり行かないが、御薬園にまつわるストーリーを発信すれば人が来るかもしれない。江戸時代の建物が残っているのは、大変珍しく、価値があると思う。
- ・問い合わせはないが、大塚山古墳をもったいないと感じる。大塚山古墳の神獣鏡(県博所蔵)が出土したが、東北ではここだけである。なぜ出たかという言い伝え(大彦命たちが北上し出会ったエピソード)が面白い。
- ・福西本店などの、商家めぐりなどを行っている。新たに作るのではなく、あるものと連携し、パフォーマンスを高めていく。
- ・商家めぐりをつなぐガイドを養成している。市民と鶴ヶ城1dayガイド(ボランティア)などが入って、勉強されている。
- ・商家めぐりについては、1つのお店・施設ではやっていけないので、事業者の反応はよい。クーポンで支払える金額設定でもある。
- ・県立博物館では、来年度行う会津の怖い話の特別展に合わせ、実際に現地に行くような企画を考えているようだ。IT、ICTなどを紐づけて活用する検討をしているらしい。
- ・会津の奇妙な物語というものがある。寛保2年に会津の浪人・三坂大弥太春編が選んでまとめた奇談集で、幽霊・妖怪・狐・蛇など特に会津のものが多い。遠野物語に影響を与えたといわれる。

<観光に関する取り組みについて>

- ・日本遺産関係では、三十三観音をめぐる人は間違いなく増えている。御朱印についても市内に限り、無人の施設でももらえる場所、仕組みを地区の方が工夫して設けている。掃除などもしている。人が来ることで意識が変わった。
- ・農水省の SAVOR JAPAN(食文化によるインバウンド誘致)の認定地域になっている。コロナ禍で今年度はリモートで活動している。
- ・日本一、世界一の酒と食を組み合わせる受け入れ態勢の促進が良いのでは。第一次産業にも良い影響、滞在型にもなる。そこにもストーリーがあると思う。
- ・評判が良いものは、酒蔵見学(試飲)、会津の食材を使ったフレンチ。フレンチにする理由は、インバウンドが自国に帰っても、身近な食材と日本酒の組み合わせを楽しんでもらうため。また、酒米と食用米の違いを知ってもらうため、酒米のおにぎりを食べてもらう。

<課題について>

- ・ビューローでストーリーを考えているが、広げられていない。
- ・秩父宮家と御薬園の物語などを仕掛けたが、認知もなく、興味関心がなかった。
- ・猪苗代と会津若松の高低差による水力を活かした工場もたくさんある。工場見学もしたいが、なかなか見せてくれない。明治初期のレンガ造りの倉庫などがあるが。

問:文化財に関する今後の活用の意向・アイデア

- ・県立博物館と、文化財を活用した観光で連携している。アカデミックなものだけでなく歴史ロマンを語るようなコーディネートにし、学芸員も入れつつ会津の古代歴史ロマンツアーの様なものになれば重層的になり面白いと思う。
- ・幕末以外をどう見せていくか、坂下町との連携なども考えられる。
- ・文化庁で文化クラスター推進事業というものを進めており、観光と紐づいている。地域の DMO と組んで、県立博物館を中心とした観光に紐づいた事業のための拠点計画に先月応募し、認められた。これから県立博物館を中心とした、文化と観光の融合事業をすすめていく予定である(今年度より)。今年度の事業は「県博とまちなかのガイドツアー」のみである。
- ・ガラス越しにしか見えないことをどのように伝えるのか。触れるクラスの文化財をどれだけ身近に感じるようにできるか。
- ・左下り観音など外観は良いのだが、安全対策をしっかりとしないと、登ってみたら怖いという感想になる。
- ・アンケートでは鶴ヶ城と大内宿が特に人気で、全国でもお城と宿場町が近いところは少ない。街道歩きが流行りでもあるので、2点を結ぶ会津西街道の氷玉峠などを大内宿から鶴ヶ城に向けて歩くなどでできれば良い。
- ・まほろば街道がサイクルツーリズムに良いという話が出ている。
- ・マイクロツーリズムは、隣接市町村・県がターゲットであるが、地元の認知を上げないと、うまくいかない。
- ・地元の認知を上げる取り組みは難しい。市民観光教室などと連携したらどうか、こんなことをやっていると伝えるのは大事であると思う。
- ・勢津子妃関係も面白いと思う。重陽閣に目白徳川家から桐箆筒と書棚をいただき、後日お披露目予定。
- ・戦後復興を支えた白洲次郎の只見川電源開発も面白いと思う。
- ・安積疎水のストーリーも面白い。明治初期の殖産興業を支えた猪苗代の水。
- ・タネはいっぱいあるがどのように育てていくか。
- ・外部への発信が中心になり、市民のことを良く分かっていないのが課題。

問:文化財の活用に向けて必要な支援や制度などへの意見

- ・コンテンツがあるので、外部目線からの評価やアドバイスが欲しい。

問:その他

- ・鶴ヶ城のガイドさんは 50 名程度いるが、高齢化しており、人材不足である。昔は一体感があったが、横のつながりがなくなってきており、細分化している。新しく入る人はいる(65 歳退職以降)が、応募数は少なくなってきている。他地域では、人が集まらなくて困っているようだ。
- ・ガイドについて、自分が担当していた時は、市の講座(会津寺子屋)からの流入が多かった。市の講座などと連携して、ステップアップできるようにすれば良いと思う。
- ・ガイドは地元民も多いが他地域からお嫁に来た方、転勤族の奥さんなどもいる。
- ・アフターコロナのことを考えていかなくてはならない。ICT を活用したものやマイクロツーリズム等を考えている。
- ・現在、DMO 候補法人であるが、ガイドラインの変更により現状のままだと、取り消しになる。9 月の申請で登録 DMO になる予定。各省庁の補助金で、申請できるのは登録 DMO だけになりつつある。
- ・本郷はアクセスが良くない行きづらいイメージである。

## 4. まとめ

### (1) 地区別ヒアリング調査

- 大戸地区では、東日本最大の窯跡である大戸窯跡群が特徴的な文化財として挙げられた。このほかにも会津洋画の先駆者である遠藤香村の碑などが挙げられた。
- 北会津地区では、田村山古墳を中心とした古墳が特徴的な文化財として挙げられた。このほかにも、白山沼のイトヨ生息地、平田の櫓、ホテルなどの自然に関するものや、彼岸獅子などの風習に関するものが挙げられた。
- 河東地区では、郡山遺跡などの遺跡が特徴的な文化財として挙げられた。このほかにも、熊野三社、日橋川新橋、十六橋などの戦にまつわるストーリーがあるものが挙げられた。
- 湊地区では、赤井谷地、大イチョウなどの自然に関するものが特徴的な文化財として挙げられた。このほかにも、笹山原古墳群などの古墳や白虎隊関係の戦場跡が挙げられた。
- 中心部では、鶴ヶ城と白虎隊の墓所、さざえ堂が特徴的な文化財として挙げられた。戊辰戦争や会津の幕末の武家文化が特徴的であるという意見が多かった。
- 市内では、多くの民間団体により文化財の保全活動が昔から行われており、現在も調査や見回り活動を精力的に行っている団体がある。
- 多くの団体が高齢化しており、会員数も横ばいもしくは減少傾向にあるものが多い。
- 地域の子どもの対象とした活動を行っているなど、地域との関係性が強い団体もある。
- 地域と連携して文化財の活用の展開を考えている団体もあった。
- 会津若松市では幕末関係の武士の文化が多く取り上げられていると感じている意見が多い。
- 古墳時代や伝統工芸品等の武士の文化以外についても特徴的なものが多くあり、埋もれてしまっている文化財も数多くあるという意見もあった。
- 一般市民と歴史に詳しい層をつなぐ中間層が少ないと感じている意見が多かった。
- 一般市民と歴史に詳しい層をつなぐ中間層を育成する場が必要であると感じている意見は多いが、学びの場をコーディネートすることができる人材が不足しているという意見も多かった。
- 歴史を学んだ市民が、学んだことを活かせる場が少ないという意見があった。
- 地域で盆踊りなどがなくなり、文化が失われつつあると感じている意見が多くあった。
- 今後、所有者の代替わり等で、更に文化財が失われるのではないかと懸念する意見が多かった。
- 所有者の意識を高めていく取り組みが必要であるという意見もあった。
- 今取り組まないと、失われてしまう文化財があると感じている意見が多かった。
- 文化財周辺の階段の修繕などの環境整備や文化財の修繕に対して、行政からの支援がほしいという意見があった。

### (2) 事業者ヒアリング調査

- 会津若松市の特徴的な歴史文化財として、江戸時代や武士の文化に関する文化財を挙げた団体が多かった。
- IT・ICT 技術を活用した文化財の活用に事業者は関心を持っている。
- 大学生などの若者を巻き込むことで、新たな視点で文化財を認識できると考えている事業者もいる。
- 文化財を活用した事業で儲けなければ、文化財を保存していくことは難しいのではないかと意見があった。
- 文化財を活用した新たなコンテンツ作りを模索している事業者が多い。
- 文化財そのものだけでなく、その背景にあるストーリーを重要視する事業者が多い。
- 市内に文化財が点々としているため、それらをつないだ周遊ルートを作ることが重要であると考えている事業者が多い。
- 文化財の日常的なメンテナンスを行っていくことが大変であると感じている事業者が多かった。



- 大規模修繕や補助金の対象になりにくい箇所の改修を行政に支援してもらいたいと感じている事業者もあった。
- 地元の人が文化財に関心を持つきっかけを作っていくことが重要であるという意見が多くあった。
- 観光客がリピーターになるかが重要であると考えている事業者が多かった。
- ボランティアガイドなど文化財の背景となるストーリーを語ることでできる人材を育成したいという意見もあった。

## 6 講演会の開催

### 1. 実施概要

#### (1) 実施の目的と趣旨

講演会を通して、参加者の文化財の保存・活用に関する意識・気運の醸成や、文化財保存活用地域計画策定への理解促進を図るために実施した。

#### (2) 実施概要

■ 開催日時 令和3年1月17日(日) 14:00~14:45

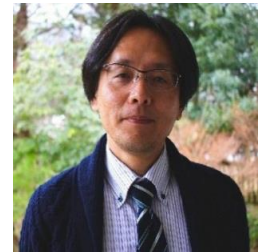
■ 場所 会津若松市文化センター

■ 参加人数 28名

■ 講師

##### ○米本 潔氏(文化遺産マネジメントラボ 総括)

米本氏は、津和野町では、各種保存管理計画や歴史文化基本構想、歴史的風致維持向上計画、都市再生整備計画等の計画策定、その他保存修理事業、街なみ環境整備事業、そして日本遺産に関連する魅力発信事業や日本遺産センター設立、環境拠点事業など、そして現在は、文化遺産マネジメントラボを立ち上げ、文化財に関連する委員や各地域のアドバイザー、講演等を行い歴史文化に関連するまちづくりの取組・事業を幅広く実施している。



■ タイムスケジュール

時間	内容
14:00	○開会
14:02	○講演会 講師:米本 潔氏(文化遺産マネジメントラボ 総括) 「文化遺産を活用したまちづくりについて」 ・進行から、米本氏紹介 ・その後、米本氏から講演(30分)
14:35	○文化財保存活用地域計画についての説明 説明:会津若松市教育委員会文化課
14:45	○閉会 (アンケートの記載)

※新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、講演・説明の後に予定していたワークショップは実施しなかった。

## 2. 実施記録

### (1) 実施記録

#### ① 開会

会津若松市教育委員会文化課 挨拶

#### ② 講師紹介

米本潔氏(文化遺産マネジメントラボ総括)紹介

#### ③ 講演「文化遺産を活用したまちづくりについて」

講師:米本潔(文化遺産マネジメントラボ総括)

##### 【文化財の現状について】

- ・複数の市町村で文化財保存活用地域計画策定に向けた調査を行うことで、「文化財が消滅の危機にある」「次世代への継承が危機にさらされている」「歴史文化の特徴が生かされていない」「地域住民が取り残されている」「適切な情報発信が行われていない」ことがわかった。
- ・歴史文化の特徴が生かすにあたっては、指定された文化財や一部の歴史のみにスポットあてるのではなく、それを作り上げてきた自然や人々の暮らしを再評価する必要がある。そのため、関連文化財群や保存活用区域という考え方が必須である。
- ・文化財の価値が地域住民に正しく伝えられていないため、「何を守ればよいかわからない」「気が付いたら、文化財が失われていた」というケースがある。専門家等の調査成果は資料館で発表しているが、地域住民に文化財の価値が伝わっていないので、住民が文化財の保存・活用に参加しづらいという課題がある。加えて、市町村合併によって、扱う文化財が増えて担当者が把握しきれなくなっている。文化財は身近にいる市民が積極的に関わってきたからこそ守られてきた。守るべき文化財とそうでない文化財をどこで線を引くのか、どのように守るかを考えなくてはならない。

##### 【文化財保存活用地域計画の目指すところ】

- ・文化財保存活用地域計画の目指すところは、「将来的なビジョンや具体的な実施計画を定める」「民間団体等の様々な関係者の理解・協力」「まちづくりや観光、他の行政分野との連携」「地域のアイデンティティの醸成」である。そのため、文化財保存活用地域計画は、単に歴史の専門家だけの意見を聞いて作成するのは不十分であり、観光、商業、学校などの幅広い分野人と連携して策定する必要がある。
- ・計画を推進するにあたり、「所有者」「行政」「地域住民」「民間」のそれぞれに役割がある。
- ・文化財保存活用地域計画の策定の目的は、将来のあるべきまちの姿を描くことである。みなさんにまちの課題を把握してもらい、あるべき姿に向けて課題を解決していく具体的な計画にする必要がある。

##### 【文化財保存活用地域計画に基づく事業推進の成果】

- ・計画の策定にあたっては、文化財全体を見渡しアンバランスになっていないか、指定されるべきものが抜

けていないかを確認する必要がある。島根県津和野町では、策定前は文化財の指定は8つのみであったが、現在は、34件が指定されており、計画に基づいた取り組みがなされている。

- ・指定や登録により、所有者が文化財の魅力を活かして奮闘することで、「居宅を公開し、煎茶体験を商品化した」「庭園を公開し、観光の集客に活かした」「古民家を改修し、簡易宿泊施設にリニューアルした」事例などがある。計画の策定には、所有者が文化財の価値を理解し、地域文化の共に文化財を守っていくという効果がある。
- ・市民の文化財を活かしたまちづくりへの参加の仕方としては、ボランティアガイドやお茶会などのイベントの開催といった文化財の利用、地域の活動組織に参加することで様々な企画運営に関わるなどがある。
- ・地域住民の活動や民間の力を活かした文化財の保存・活用を行ったものとして、「ストーリーと体験プログラムで連携を強化した」「NPO法人を設立し文化財の価値を商品化した」「エリアマネジメントで町並みを保存した」事例がある。
- ・文化財の選定については、行政が役割をしっかりと果たさないと事業は進まない。文化財の指定を受けると特別交付税を国から市町村が受けることができ、それぞれで工夫して活用を行っている。

#### 【文化財に関わる「マネジメント」について】

- ・国では、文化財の保存と活用が調和補完関係にあり、持続的に保つようにできることが重要であると言われている。それを実現するためには、文化財に関わる「マネジメント」を行政だけでなく、地域や民間も協力して回していくことが必要である。
- ・文化財の本質的価値を伝えないやり方では、お客さんは満足してくれなくなった。入館者数を増やすだけでなく、体験プログラム等を加えることで高付加価値化させて収益を上げていくことが必要である。

#### ④説明：「文化財保存活用地域計画について」

説明：会津若松市教育文化課

- ・生活様式の変化・少子高齢化等の社会状況の変化により文化財の保護・継承は喫緊の課題である。
- ・地域振興・観光振興への活用等で文化財に求められる役割への期待は増大している。
- ・文化財保存活用地域計画とは、文化財の保存・活用に関する基本的なビジョンに加え、アクションプランとして継続性・一貫性のある文化財の保存・活用を実現するものである。
- ・文化財保存活用地域計画で対象とする文化財は、文化財保護法で規定される6類型に限らず、埋蔵文化財、文化財の保存技術、生活文化、国民音楽なども含まれている。
- ・文化財保存活用地域計画策定に向けて、会津若松市は、令和2年度に調査を行っており、令和3年度は計画を作成し、国の認定を目指している。
- ・文化財保存活用地域計画を策定の効果としては、「地域の文化財の総合的・計画的な保存・活用」「地域全体での文化財の保存・活用」などが見込まれ、国の認定を受けることで「制度の特例等」を受けることができる。
- ・文化財保存活用地域計画策定に向けて、市民のみなさまにご理解とご協力いただきたい。

#### ⑤閉会

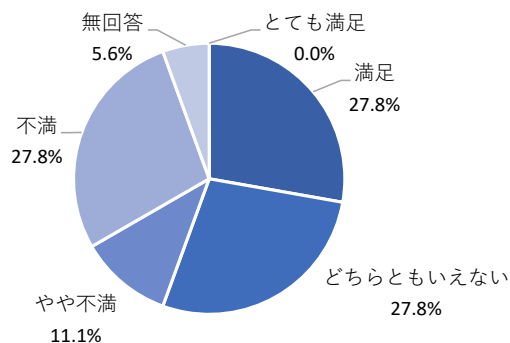
### 3. 参加者アンケート

#### (1) 参加者アンケート結果

問1. 講演会についてお聞かせください。(あてはまる番号1つに○)

- ・「満足」との回答は27.8%、「どちらともいえない」が27.8%、「不満」が27.8%となっている。文化遺産活用によるまちづくりの具体的内容について学べたとの意見があった一方、成功事例を掘り下げて説明してほしいとの意見もあった。

総数	18	100.0%
とても満足	0	0.0%
満足	5	27.8%
どちらともいえない	5	27.8%
やや不満	2	11.1%
不満	5	27.8%
無回答	1	5.6%



■ とても満足 ■ 満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満 ■ 無回答

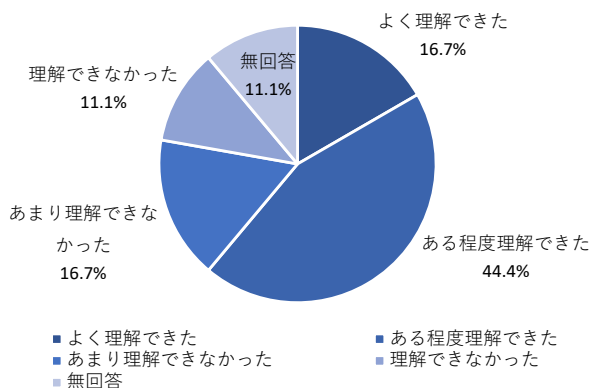
#### 【問1の回答理由】

- ・講演会で講師の話を聞いて良かった。
- ・文化遺産活用によるまちづくりの具体的内容について学べた。
- ・地域計画の内容が良く分かった。
- ・わかりやすかった。
- ・ワークショップでなかった。
- ・行政の内部情報に留まった。成功事例の掘り下げがあってもよかった。等

問2. 文化財保存活用地域計画についてお聞かせください。(あてはまる番号1つに○)

- ・「ある程度理解できた」が44.4%で最も多くなっている。広く市民に周知することが大切との意見や、説明不足との意見等があった。

総数	18	100.0%
よく理解できた	3	16.7%
ある程度理解できた	8	44.4%
あまり理解できなかった	3	16.7%
理解できなかった	2	11.1%
無回答	2	11.1%



■ よく理解できた ■ ある程度理解できた  
■ あまり理解できなかった ■ 理解できなかった  
■ 無回答

【問2の回答理由】

- ・国からの流れを市が受けて、広く市民に周知することが大切と思う。
- ・国、地域等に関わり、実際に策定していくのがどのような計画か学べた。
- ・地域住民と協力していただき、すみやかに対応よろしくお願いします。
- ・地域の「宝」の保存のために、行政に「お願い」したら、自分達で何とかするようにとの回答があった。
- ・説明不足。
- ・保存及び”活用”の「ビジョン」はこれからの課題。 等

問3. 会津若松市の「歴史・文化」の保存・活用に向けて、あなた自身がどのように関わることが出来るとお考えですか。

- ・今後関わっていききたいとの意見や、市民に対する呼びかけ等を求める意見等が挙がっていた。

【問3の回答内容】

- ・歴史や行政について知識がうまく言えませんが、もっとストーリー性を持った活用を、若い人でも楽しめる、歴女など、歴史をもっと楽しめるような企画があったらいいなと思います。武士の歴史だけでなく、その時代、どのような生活をしてどのように商人とたずさわってきたかなどのストーリーも伝えてほしい。
- ・国、地域等に関わり、実際に策定していくのがどのような計画か学べた。
- ・文化課での発掘作業や資料整理等の仕事へ携わっていくことにより、深く関わっていききたい。
- ・関わっていききたい。観光に生かしていききたい。
- ・市と民間での理解を深めることが必要。
- ・市民に何を求めるかを提示した方がよい!
- ・NPOと地域の住民として関わっていききたい。
- ・「歴史文化」を地域内で再考察から始める必要がある。住民の関心を深める呼びかけ。 等

問4. その他、「文化財保存活用地域計画 講演会」に対する感想、お気づきの点などご自由にお聞かせください。

- ・コロナ過での開催に関する感謝の意見もある一方で、市民への更なる広報、講演会やワークショップの継続的な実施を求める意見が挙がっていた。

【問4の回答内容】

- ・コロナ禍の中での開催、ありがとうございました。大変でも、こういう会の開催を何度も開いていただきたい!
- ・コロナ等の情勢変化等々にて文化財だけでなく、そもそも行政そのものの動き自体が活動できなくなるということをととても理解できたと思いました。
- ・文化財を活用し観光という word が出てきてびっくりしている。
- ・もっと広く市民に広報すること。
- ・ワークショップの回数を重ねること。 等

## 4. まとめ

---

### (1) まとめ

- 講演会については、文化遺産活用によるまちづくりの具体的内容を知れたとの意見がある一方で、内容の深堀を求めるなど内容への不満もみられた。
- 文化財保存活用地域計画への理解については、参加者の約 6 割の方が理解できたと回答しており、講演会の開催によって文化財保存活用地域計画への理解を深めることが出来た。
- 一方で、より多くの市民への呼びかけの強化や、継続的な講演会やワークショップの開催を求める意見も挙がっていた。
- 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた手法を検討する必要があるものの、継続的に情報を発信し、文化財の保存・活用への理解促進や意識の醸成を図っていく必要がある。

# 7 歴史文化と若者をつなぐ事業づくりワークショップ

## 1. ワークショップの趣旨

### (1) ワークショップの目的

会津若松市文化財保存活用地域計画を策定するにあたり、若者視点での会津若松市の歴史文化の現状の認識を共有した上で、地域の文化財（未指定含む）を現地で実際に見たり、感じたりした中で生まれた、文化財活用のアイデア等の“生の声”を取り入れることで、今後の文化財（未指定含む）の活用手法検討の一助とするため実施しました。

上記を踏まえ、以下の3点を目的としました

- ① 幅広く若者の声を聞き計画に反映する。
- ② 若者（大学生）の会津若松市の文化財に対する認識を把握する
- ③ 上記を踏まえた上で、若者が考える会津若松市の文化財の活用方法やその実現方法、若者が文化財に関わりやすくなるための施策のアイデアを得る

## 2. ワークショップの開催結果

### (1) ワークショップの開催概要

《テーマ》 歴史文化の価値を発見し、活用の仕方を考えよう

《日時》 10月16日 10:00～17:00

《場所》 会津若松市役所

《参加者》 学生 PR 部「AIZ'Sモーション」3期生 2名、会津大学短期大学部 井波ゼミ生 9名

《当日のプログラム》

#### ① 趣旨説明・自己紹介

- ・市からワークショップの主旨・目的の概要を説明します。
- ・ワークショップの全体の流れを説明します。
- ・ワークショップのルール（約束ごと）を説明します。
- ・グループで自己紹介をします。

#### ② まち歩き

- ・市内の歴史文化を見て回ります。
- ・会津若松市内の歴史文化がどのように活用できるかの視点を持ちながら歩きます。

#### ③ ワーク(1) 歴史文化の活用方法を考えよう

- ・見て回った歴史文化の新しい活用方法や地域にとっての価値を高める方法、集客をポストイットに記入し、グループで共有します。

#### ④ ワーク(2) 活用を実現するために必要なこと考えよう

- ・ワーク③でまとめた活用方法について、実現するために誰が何をすればいいのか、自分たちが関わることはできないか検討します。
- ・話し合った内容をグループごとに発表します。

### (2) まち歩きの様子

2つのグループに分かれて、まち歩きを行いました。A グループは七日町通りを中心に歩き、B グループは大町通り中心に歩き、市内の歴史文化に触れながら、活用方法を検討しました。





### (3) ワークの結果

見て回った文化財について、現状を踏まえ、歴史文化の活用方法や地域にとっての価値を高める方法について、ポストイットに書き出し、意見を出し合いました。その後、文化財の活用を実現するために、誰がどんなことをすればいいのか、自分たちが関わることができないのか検討し、発表しました。



《テーマ》 歴史文化の活用のためのアイデア  
【Aグループ】

カテゴリー	アイデア
歴史とふれあいたい	・神社や寺で映画を上映するイベント
	・各神社あたりに遊具が置いてある公園があまり無いため神社に遊具を置き子供の遊ぶ場を作る
	・町にゆかりのある人の等身大像
	・歴史とふれあえる場所がほしい
歴史と美	・小さい子から大人まで色々な方から集めた作品のギャラリー展示
	・町のお年寄りが描いた絵を飾る
	・空き蔵でもギャラリー
	・広場で演奏会
	・子供の絵を飾ろう
カテゴリー	アイデア
落ち着く用	・七日町の空いている建物をカフェや休憩所にする
	・カフェの空きスペースを利用し、カフェに来た地元の人に漆器にふれてもらう機会(ワークショップ)などを作る
	・空きスペース→フリーWi-Fiのワークスペース
	・カフェ+工芸体験ができる施設
	・空き店舗をコワーキングスペースにする→周りの飲食店に入ってもらえる
	・空きスペースでカフェ
	・空き蔵などを休けいする所として使う(近くのお店のマップを置いて見れるように)

	する)
	・カフェ+工芸
	・食べ歩きやすさ
	・日本酒カフェ
歩きやすい道づくり	・街灯の統一
	・歩行者天国
	・歩道を整備して街歩きしやすい環境づくり
	・歩道の整備
	・道を歩きやすく(七日町駅付近の道の感じにする)
夜	・夜市を開き、七日町の飲食店などに店出してもらう→入りにくい店も入れるようになるきっかけ作り
メディア	・大型ビジョン的なものを作り、店や観光案内の映像を流す
	・色んな場所でプロジェクションマッピングやインスタレーションなどを行う
その他	・蔵から外を眺めたい
	・プリン

【B グループ】

カテゴリー	アイデア
寺 PR	・子どもたちのお散歩コースに組み込む
	・寺社限定ストラップガチャ
	・神社や寺をモチーフにしてストラップ(ガチャガチャ)などを作る
	・若者も楽しめる寺や神社でのお祭り
	・寺社のガイドを音声や看板で表示する
	・大町を通るバスの窓側に、写真など貼って、寺の存在を知ってもらう
	・寺の音声ガイドを設ける
	・お守りを作るワークショップ。外側を作成中はお坊さんにもらってオリジナルのお守りをつくる
	・ご朱印
	・寺社スタンプラリー
	・小野寺漆器店で緑化
	・外観は蔵、インテリアは洋や中華(別世界)のような特別観を感じる場所の提供
・除夜の鐘など音で(寺の)存在をアピールする	
空き家店舗	・建て壊した建物を 3D ホログラムで復活
	・空き家を活用した自然アート空間
	・空き店舗を植物で緑化する
	・空き家のショーケースの利用
	・シャッターを色あざやかにして目で楽しめるようにする。壁も
	・閉まっているシャッターや壁にも明るい雰囲気を出すために装飾する
	・シャッターに絵を描く(お店が閉まっても明るい印象を与えるため)
カテゴリー	アイデア
旧小野寺漆器店	・寺社、幼稚園と旧小野寺漆器店をむすびつける
	・幼稚園のお迎えの保護者が見守れるスペースの提供をする。(学生が溜まれるフリースペースのような)
	・旧小野寺漆器店ハーブティー
	・旧小野寺漆器店を活用して動物とのふれあいの場をつくる
大通り全体を楽しく	・空地?ちょっとしたスペースにベンチとかを設置して休憩できるように
	・町中のゴミ箱をもっと楽しそうにする
	・音楽を流す
	・大町通りで散歩を楽しめるような音楽を流す

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道に音楽を流す。オリジナルのキャッチーな曲も可</li> <li>・大町通りに植物を増やす</li> <li>・大町の花店に協力してもらい自然を増やす</li> <li>・カラーコーンかわいい</li> <li>・駐車場や宿泊施設の設置（駅が遠いため）</li> <li>・大町通りの自由掲示板を新しくする</li> <li>・町中に自由に書き込める掲示板の設置（ラクガキ）</li> </ul>
看板	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お寺の正面の姿がわかる看板を通り沿いに</li> <li>・たてものの装飾を目印にする。</li> <li>・通りから見えない建物を見えるように写真とかを掲示</li> <li>・「まず知ってもらうため」に幼稚園児に看板を作ってもらう</li> </ul>
通り全体のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大町の商店におそろいの看板をつける</li> <li>・入りづらい店の前に赤べこなどの可愛いマスコットを置き入りやすい工夫をする</li> <li>・駅などにお寺や通りのミニチュアの模型を設置する</li> </ul>

《テーマ》 具体化されたアイデア

【Aグループ】

<p><b>タイトル:夜</b></p> <p>&lt;活用方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神明神社などで夜市を開いて七日町の飲食店や漆器店に出店してもらう</li> </ul> <p>&lt;誰がどんなことをするのか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組合が主催で行う</li> </ul> <p>&lt;自分たちができること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルバイト</li> <li>・出店する</li> </ul>
<p><b>タイトル:メディア</b></p> <p>&lt;活用方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・七日町通りの街並を利用してプロジェクションマッピングやインスタレーションなどを行う</li> </ul> <p>&lt;活用する歴史文化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵、神社、駅（七日町駅）</li> </ul> <p>&lt;誰がどんなことをするのか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会津大や組合（商店街の集まり）が主催、桜や大正時代の人々が歩いている様子を映し出す。夜市も同時開催する</li> </ul> <p>&lt;自分たちができること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインを提案する。パンフレット制作</li> </ul>

<p><b>タイトル:落ち着く用</b></p> <p>&lt;活用方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パティオ近くの空きスペースを利用して休憩所やカフェなどにする</li> </ul> <p>&lt;誰がどんなことをするのか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生以上の学生と時間ある地域の人</li> <li>・最初は無料で貸してもらう</li> </ul> <p>&lt;自分たちができること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DIY（店舗改装）</li> <li>・簡単な飲食を提供する</li> </ul>
--

【Bグループ】

**タイトル:お寺の PR**

<経緯>

- ・お寺が多かったけど奥にあるのでわかりづらかった
- ・個性があるのもったいない
- ・地元の人々の愛が強い

<活用方法>

- ・お寺の正面の姿がわかる看板
- ・お寺の鐘の音で存在をアピール
- ・お寺でのスタンプラリー
- ・寺社限定のストラップのガチャガチャ(複数個あると個性が分かる)
- ・お寺を紹介する音声ガイド
- ・バスにお寺の写真を掲載する
- ・3D プリンターでストラップを作る

**タイトル:大町通りに色どりを**

<経緯>

- ・色が少なくてさびしい
- ・シャッターが多い
- ・人の気配が少ない

<活用方法>

- ・音楽を流して楽しい雰囲気
- ・町中のゴミ箱をカラフルにする
- ・大町通りに植物を増やす
- ・シャッターや壁にイラストを描く
- ・起き上がり子法師のコーンかわいい
- ・空き家を活用して緑を増やして明るく
- ・お店に入りやすいようにマスコットを置く

<自分たちができること>

- ・ゴミ箱のデザイン
- ・シャッターや壁のデザイン・作成
- ・マスコットのデザイン
- ・植物を植えたり、お世話する
- ・幼児教育に作曲を頼む

<誰がどんなこと>

- ・花屋さんに協力してもらう
- ・地域の人に承諾をえる

**タイトル:空き店舗の活用**

<経緯>

- ・すてきな建物なのにもったいない。
- ・空き店舗があるとさびしい
- ・大町通りに緑が少ないが置くスペースがない

<活用方法>

- ・大町通りに緑が少ないが置くスペースがない
- ・自然の空間にする。(植物を植え、いやしの空間を提供する。)

<誰がどんなこと>

- ・近所の花屋さんに協力してもらう
- ・土地の所有者に承諾をもらう
- ・幼稚園生に看板をつくってもらう
- ・お店を管理する人を募集する
- ・お寺の人に花を分けてもらい、お寺を宣伝する

<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街について地域の人にきく</li> <li>・Aict の力を借りて3D ホログラムを実現する</li> </ul> <p>&lt;自分たちができること&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の企画・デザインをする</li> <li>・マップ・パンフレットの作成</li> <li>・シャッターをデザインし作成する</li> <li>・植物の植え木鉢、花ビンのデザイン</li> <li>・漆を使った室内装飾</li> </ul>
<p><b>タイトル: 旧小野寺漆器店</b>  <b>大町通りと裏通り(お寺や幼稚園)を繋ぐいやしの拠点</b></p> <p>&lt;活用方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・植物で溢れる空間</li> <li>・動物と触れ合える空間</li> <li>・幼稚園の保護者が見守れる空間</li> <li>・学生が溜まれるフリースペース空間</li> <li>・育てたハーブのティーが飲める</li> <li>・商店街を案内するマップなどを置く</li> <li>・建物のもとの姿を3D ホログラムで再現する。</li> </ul>

#### (4) 参加者の感想

ワークショップ全体をふりかえって、参加者に感想を記入していただき、グループごとに共有しました。

##### 《まち歩きについて》

- ・お寺や古い建物をたくさんまわって楽しかった
- ・地域の人は通りや建物に愛着があるのは個人的に嬉しかった。
- ・普段何気なく通っている道を、改めて見てみると、見え方が変わることを実感することができました。
- ・実際に歩くことで町の特徴や魅力を知ることができた。
- ・今まで大町通りなど町についてあまり興味が持てなかったが今回のワーク活動で関心を持つことができた。
- ・観光目的で行ったときは特に何も考えていなかったが、歴史文化を活用するという視点で見ると空き店舗が多いなどの課題が多いことに気付いた。
- ・10年以上歩いてきた七日町通りも、歴史文化の活用をテーマに歩くと、新しい視点を持つことができた。
- ・イメージ通りな所もあれば意外だった点もあり、自分の中での七日町通りのイメージが変わりました。
- ・自分一人では迷いそうで街歩きする気になれなかったのでみんなで回れてとても良い経験になりました。
- ・七日町通りにある建物、商店街の店の多くは少し昔といった雰囲気があった。

##### 《活用アイデアの検討について》

- ・色んなアイデアをすり合わせて形にしていく工程は勉強になったし、楽しかった。
- ・先輩方や色んな方の意見・アイデアを聞いたのは新しい発想のきっかけになって参考になった。
- ・先輩方やモーションの方、大人の方と意見を出し合ってまとめることなど、普段はできない経験ができました。
- ・歩きながら皆で話を共有するうちにお互いのイメージしていることが伝わり、完成することが楽しみになりました。意見をまとめる時には実際に実現できるような案に仕上がりました。一人一人の考えやアイデアが大切なものだと改めて感じました。
- ・大町通りの問題点を知り、改善策などアイデアを出し合っプロジェクトを考えることの楽しさを知ることができた。
- ・文化財などの歴史あるものと現代をつなげて考えることは楽しかったです。
- ・自分だけでなく、他の人の案を交えながら、意見を考えることで、1人では思いつかない案をつくりあげることができた。

#### 《今後の関わりについて》

- ・会津には知らないものがたくさんあることが分かったので、もっと歩いて知っていきたい。
- ・もっと地元のことを知り、よりよくする活動に積極的になりたい。
- ・実現するとまでいかなくても会津に少しでも貢献できたらよいと思います。
- ・自分たちでできることが意外と多くあることが分かり町おこしなどのプロジェクトにもっと参加してみたいと思った。
- ・プロジェクションマッピングの提案は、昔ながらの建物と現代技術を掛け合わせたものであり、興味を持ち、来てくれる人も多くいるのではないかと考えた。七日町通りを訪れた人々がもう一度来たい、と思えるような企画、アイデアをより深く考えたい。

#### 《その他》

- ・私は自分の意見を主張することが苦手だったので、今回の活動は自分にとって自信につながるものになったのではないかと感じます。
- ・最初は具体的な案が思い浮かばず、他の方々に気後れしてしまいましたが、その分、自分も頑張って考えようという強い気持ちが生まれました。

### (5) まとめ

- ・会津若松市の歴史文化と接点をほとんど持っていなかった若者が、まち歩きを行うことで、会津若松市の歴史文化について知ることで関心を引き出すことができた。
- ・まち歩きを行い、若者が会津若松市の具体的な歴史文化やまち全体の課題を感じることで、多様な活用アイデアを得ることができた。
- ・自分達に何ができるかという視点で考えることによって、若者と歴史文化ができ、もっと知りたいという意欲を引き出された。